

---

# けいおん!パート2

伝説のベーシスト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

けいおん！パート2

### 【Nコード】

N0845K

### 【作者名】

伝説のベージスト

### 【あらすじ】

オリジナルキャラクターが多数登場します（・・）ノ  
苦手な方はご遠慮下さい

\*ト書きが嫌いな奴はすぐに立ち去れ

あと、つまらん・おもしろくない・ト書きで見る気が失せたなどの  
悪口はいらんからな（＝・・）ノ

見たくなかったら？ボタン押して退場b)・・)

バンド活動で忙しい為更新はめっちゃめっちゃ遅くなります、ご了承ください  
トクイム( )ム

## ～主な登場人物～

平沢 唯……ギター兼ボーカル担当。  
超おつちよこちよいの天然ドジッ娘。

田井中 律……ドラム担当。

軽音部の部長（一応）

大胆かつマイペースな性格でよく澪をからかう。

秋山 澪……ベース兼ボーカル担当。

かなりの人見知りで怖がり。特に怖い話と痛い話は大の苦手。

琴吹 紬……キーボード担当。

よく部屋にお茶やお菓子を持ってくる。

超がつくほどのお金持ちだが本人はそれを嫌がっており、普通の女の子としての生活を願っている。

中野 梓……ギター担当。

軽音部で唯一の後輩で軽音部一の真面目。  
よく唯に抱き付かれている。

片山 圭吾……ギター & amp; ボーカル担当。  
軽音部の裏のリーダー的存在。

超大胆な性格だが真面目な話の時は真剣に聞く。  
桜高一のイケメン。

山河 慎弥……ベース & amp; コーラス担当。

圭吾のツッコミ担当で、イタズラ好き。

ベースギターを6本所有していて、それでよく圭吾に「どこにそれだけベース買う金があるんだ」と言われている。

高山 修一……ドラム担当。修一は元F1ドライバー高山京一の  
人息子。

おとなしい性格だが慎弥並のイタズラ好き。

ムギの家程お金持ちではないがそこそこのお金持ち。

山中 さわ子……軽音部の顧問。コスプレ好き。

真鍋 和……唯の幼い頃からの大親友。

現在生徒会にて活躍中。

平沢 憂……唯の妹で、かなりの姉思い。

## #01 圭吾と梓の初デート

作者「前作のけいおん！の続編だと思って下さい。ではスタート！」

律「なんか締まりがないな」

漣「まつただ！」

唯「????」 理解していない

紬「締まりがないですっ」

梓「本当ですっ」

圭吾「…おい…唯理解してねーぞ…」

慎弥「…（今月あと…千円……）……」 修一にかなりおごらされた

5

修一「…ムニャ…もう食べねえ……」 寝てる

唯「??????」 まだ理解していない

退院してから、俺はいつもの生活に戻った…。

しかし、一つ変わった事があった。

俺は………梓と付き合うことになった…。

しかし俺は今まで彼女とか作った事が無いからどうすればいいのかわからない……。

どっか行く所なんてあんのか？

さすがにどこにも連れていけないわけには行かない……。

……そうだ！確か梓、猫が好きだったな……ペットショップに行くか……」

~~~~~中野宅~~~~~

梓「……最近先輩と話してないな……ハア……」

~~~~~

梓「……先輩だ……！」  
ピッ

梓「はい！もしもし！？」

圭吾『梓？明日休みだろ！？どっか行くか？』

梓「はい！行きます！……、はい！わかりました……！！」ピッ

梓「……やった！！明日先輩とデートだ……！！」

梓「明日何着て行こうかな」ウキウキ

~~~~~片山宅~~~~~

圭吾「……これでよし！」ピッ

圭吾「明日何着て行こ……」ガチャッ

圭吾「ん……最近服なんて買ってねーからなー……俺の一張羅血まみれだったから捨ててしまったし……」

服選びに夜中までかかってしまった……

次の日……

圭吾「ちょっと早く来てしまったか……待ち合わせの時間まで後1

0分もある…ベンチで座って待つとこ…」

俺はベンチの方に向かおうとした時、向こうから見覚えのあるインテールの女の子が走って来た。

梓だ……

梓「せんぱーい！」

圭吾「…（めちゃくちゃ可愛い……）」

梓「すみません、先輩！遅れちゃって……って先輩？」

圭吾「…！！ああすまん、ちよつと考え事してたんだ…（神様、可愛い彼女をありがとう……！！）」

梓「先輩来るの早いですね！」

圭吾「そ、そうか？俺もさっき来たんだ」

圭・梓「…言えない…テンションが上がり過ぎてちよつと早く来てしまったなんて…」

圭・梓「グウ…」

圭・梓「…あ」

圭「…もう昼前だし、そのハンバーガー屋に入るか？」

梓「そ、そうですね……」

圭・梓「…（いい年してグウゝなんて……恥ずかしい！！／＼／＼）  
……」

とりあえず俺たちはハンバーガー屋に入った。

店員「いらっしやいませえ〜！」

圭吾「えっと……、梓は何にする？」

梓「私は…先輩と一緒にいいです…／＼／」

圭吾「じゃあチーズバーガー2つとポテトのSが2つ、あとコーラのS2つ下さい」

店員「ありがとうございますあー！」

品物を持って席を探す

あそこでもいいか……

窓側の席に座る

梓「…先輩って律先輩と結構仲が良いですよね？」

圭吾「まああいつとは中学から一緒だしな〜……あつ漣も一緒だったの忘れてた……」

梓「今の会話漣先輩が聞いてたら漣先輩泣いちゃいますよ？……」

圭吾「ははっ、まあなんか律とは気が合うんだよな〜、あいつなんか男みたいだし」

梓「フフツ、それわかります」

圭吾「で、もしも梓がこの2人を姉貴……じゃなくて、お姉ちゃんにしたいならどっち？」モグモグ

梓「…私は、やっぱり漣先輩かな〜……かつこいいし」

圭吾「律は？」モグモグ

梓「律先輩は…パスです、なんかいい加減だし、大雑把だし……」

圭吾「はははっ……！！！！？」

梓「先輩？どうしたんですか？」

圭吾「…梓、後ろ……」

梓「へっ?」そろそろ……

律「……へ〜……誰がいい加減で大雑把だっけ? (怒)」「ニコッ

圭吾「……あらら〜……」

律「こんの猫娘があー!?!?!?」ガシツ!

梓「ふにゃあー!?!?!」

圭吾「……やれやれ……」

梓「たーすーけーてー!?!」グリグリ

律「うえっへっへっへっ! お前を食ってやる〜!」

慎弥「その辺にしとけ、ばか律」スパンツ!

律「いつてえ!」

梓「助かりました……ありがとうございます、山河先輩」

律「なんで慎弥がここに居るんだよ!」ズキズキ

慎弥「外からお前が馬鹿なことやってるのが見え見えなんだよ」

律「うるさいっ！で、あんた達2人は何やってんだ？デートか！？」  
ヒューヒュー

圭吾「ば、うるせーな！なんでもいいだろ！！」

律「も、照れちゃって」

圭吾「く……／／／」

梓「……／／／」カァー

慎弥「……帰るぞ、律」

律「えー！？」ブーブー

慎弥「空気よめ」ガシッ！

律「はーなーせー！！」ジタバタ

店員「ありがとうございますあー！」

圭吾「……嵐のような奴だ」

梓「……まったくです……」グツタリ

圭吾「……………この後、ペットショップにでも行くか？」

梓「ペットショップ!?」「ピクッ

圭吾「…いやならやめるけど……」

梓「行きたいです!、是非!」「ガタンッ

圭吾「うおっ!? (スゲー食い付きだな) ……よしっ、じゃあこれ食ったら行くか!」

梓「はい! (やったー、子猫が見れる)」「

ハンバーガーを食い終わって、バスで隣のペットショップに行っ  
た……………。

梓「わー!! かわいいー!! / / /」

子猫「ふにゃあ〜」

梓「わー……………」

店員「よかつたら、その子猫抱いてみます?」

梓「えっ!?!、いいんですか!?!」

店員「ええ、どうぞ」

梓「…………わあ…………あたたかい…………」

子猫「にゃん」

店員「おやつ?この子君のことが気に入ったみたいだよ」

梓「…………/ / /」

子猫「??」スヤスヤ

子猫は梓の腕の中で気持ちよさそうに眠っている

圭吾「…………」

圭吾「…………この子猫、いくらなんだろ…………」

圭吾はその子猫が入っていた箱の値札を見た

圭吾「…………(高っ!!)」

梓「…かわいい…」

圭吾「…」

~~~~バス停~~~~

圭吾「梓、家まで送っていくよ」

梓「えっ!?!、そんなの…悪いですよ!?!」

圭吾「いいから」

梓「…じゃあ、お言葉に甘えて……」

圭吾「…」

梓「…」

梓「…あっ、いいです」

圭吾「……じゃあまた月曜な！」

梓「……先輩、今日は……その……ありがとうございました！」

圭吾「……いってことよ！じゃあな！」

梓「ま、待って下さい！！」

圭吾「ん？……！！！」

梓「……」

梓は俺の頬にキスをした……

圭吾「あ、梓！！？？」

梓「そ、それじゃ、失礼しますっ！！」タッ

ガチャン……！

圭吾「……」

俺は初めて異性からキスをされた……

家に帰っても俺はずっと放心状態だった……。

# 番外編 - 1

律「いや、この小説も第二段か」

澪「早いもんだな」

紬「でも、あまり私達の出番が少ないわね……」

唯「本当だよ！私なんか第一話は「？」しか使われてないんだよ！？」

律「確かにそうだな……おい、作者……！」

作者「はい」

律「あたし達の出番をもっと増やせー！！」ウガー

作者「いいですよ」

唯・律・澪・紬「軽っ……！」

作者「でもその前にあることをしてもらいます」

律「な、なんだよ？」

作者「それはお楽しみです」

律「あーっ……焦らすなよー……！」イライラ

作者「フッフッフッ……」

澪「…なんかいやな予感が…」

唯「なんだろー?」

紬「さあ? 作者の考えてる事はよくわからないわ……」

## # 番外編 - 2

作者「さあやってまいりました！！名付けて、260km/hのス  
ピードに耐えられるかな？大会〜！！」

律「…なんだそれ？」

作者「皆さんには、こちらにあるGTカーに同乗走行してもらいま  
す、ただ、棄権することも出来ます。まあ棄権なんかしたら出番は  
無いと思っていて下さい」

律・唯・澪・紬「鬼！？」

作者「そして今日このGTカーをドライブしてくれるのは、この人  
！修一の父、高山 京一さんだ〜！！」

高山「どうも、いつもウチの修一がお世話になってます」

律・唯・澪・紬「あっ、いえっ、こちらこそ……」

作者「さあ時間がないのでゲームのルールを説明するよ！！」

律・唯・澪・紬「イラスト！」

作者「このGTカーに乗ってこのオーバルコースを二周してもらい  
ます。なお、マジでやばかったら車内に緊急のボタンがあるからそ  
れを押してくれ！」

まあそれを押したら即棄権と見なし出番は無しだ!」

律・唯・漣・紬「鬼!?!」

律「……おい、漣……行けるか?」

漣「わ、私がこここんなんでびびびびるわけけけけけなななないだろっ!?!?!」

律・唯・紬「めっちゃめっちゃ動揺してるし……」

作者「さあ最初のチャレンジャーは誰だ!?!」

律「ま、まてよ!まだ心の準備つてもんが……」

漣「あたしが行く!?!」

律・唯・紬「!?!」

律「お、おい漣!?!」

漣「いつまで恐がってたってしょうがないだろっ!?!?!」  
作者「最初のチャレンジャーは秋山 漣!?!」

高山「じゃあ、準備はいいかな?」

漣「はいっ!?!」

作者「それじゃ、エンジンスタート……！」

ブォン……！！

マシンはゆつくりとピットを後にし、マシンは急加速で一気に200 km/hまで加速……！ストレートエンドで265 km/hをマークした……！！

漣「くっ……！！……横Gが……でもこれなら何とか……！！」

しかし、漣は知らなかった……特設されたシケインがあることが……

漣「よしっ！後一周……えっ……？」

マシンは勢いよくシケインに突入した……！！

漣「ぎゃーっ……！！」ガクンッ

高山「……（ちよっとやり過ぎたかな……）……」

そしてマシンは無事ピットに戻って来た。

律「澪！大丈夫かつ！？」

澪「……………」ボーツ

唯「澪ちゃん！！」

紬「澪ちゃん！！しっかりして！！！！」

澪「……………あたし…トイレ行って来る……………」ト「ト」…

作者「次のチャレンジャーは誰だ〜！？」

律「次はあたしだー！！！！」

作者「次のチャレンジャーは田井中 律〜！！！！」

律「かかってこーい！！！！」

数分後……………

律「……………トイレ行って来る……………」ト「ト」

紬「……………次は私が……………！！！！」

数分後……

紬「たのしかった」

律・漣「なにっ!？」

唯「最後は私だ……」

律「唯!がんばれ!みんなが出るんだ!」

漣「そうだ!みんなが出るんだ!」

紬「唯ちゃん!!頑張って!!」

唯「みんな……うん!!私、頑張る!!」

作者「最後のチャレンジャーは、平沢 唯」

唯「私……頑張る!!」

数分後……

作者「今、マシンがゴール!!!」

律・漣・紬「やったー!!!」

マシンがゆっくりとピットに戻って来る……

律「やったぜ!!!唯!」

漣「よくやった!!!唯!」

紬「頑張ったわね!!!唯ちゃん!!!」

唯「……」ニッ

律「……ハハハ……」

漣「……フー……」

紬「……」ニコッ

唯「……オロオロロロッ」ビチャビチャッ

律・漣・紬「!!!」

律「きたね〜ぞ唯!!!!!!」  
透「ゆ、唯!!!ムギ!早く水持ってきて!!!!!!」  
紬「は、はいい〜!!!!!!」

作者「……俺の負けだ……」

作者「……完敗だよ……」

ギャーギャー……

作者「……フツ……」スタスタ……

番外編おしまい

## #02 合宿!?

律「…あぢい〜…」

唯「りつちゃんおい〜っす」

律「おい〜っす」

唯「暑いね〜りつちゃん」

律「ああ…こーゆー日にこそ泳ぎに行きたいぜ…」

………

紬「暑いわね〜」

漣「ああ…もう7月だしな」  
ガチャ

紬「こんにちは〜」

律「ムギおい〜っす」  
グテー

唯「おい〜っす」  
グテー

漣「…こいつらは…もうちょっとシヤキツとする…!」

律「漣、説教は後にしてくれ……」

漣「な……!!!!」イラッ

紬「まあまあ、漣ちゃん」

漣「けどムギ……」

紬「2人とも、アイステーイー入れるから起きて、ねっ?」「ニコッ

律「!」ガバッ

唯「!」ガバッ

漣「……こいつらは……ハア……」

漣「それはともかく、他の4人はどうしたんだ?」

律「知らないぞ?」

漣「唯は知ってるのか?」

唯「ううん、知らないよ?」

漣「……」

ガチャッ

慎弥「おゝす」

修一「おゝす」

律「あつ、きたきた!」

漣「皆そこに正座して」

皆「…?」

漣「いいからっ!」

皆「は、はい……」ミオチャン「ワイヨ」

ガチャツ

圭吾「おーす」

梓「こんにちは、皆さん……って……何してるんですか?」

漣「あんた達も正座して!」

圭吾「…なんだ?」

梓「さあ……?」

漣「最近皆たるんでぞ!!だから今度の三連休を使って合宿をしますっ!」

律「えー!」

漣「問答無用!今回は心を鬼にしますっ!」

梓「やっとな真面目に練習出来るんですね!」

律「でもどこで合宿するんだ?」

漣「そ、それは……あの……ムギ？」

紬「はい？」

漣「またで悪いんだけど……別荘貸してくれる？」

紬「はい！……あつ、でも、今週はどの別荘も一杯だから……沖縄の別荘しかないんですけど……それでもいいですか？」

皆「沖縄！？」

紬「あつ、飛行機代はこちらで持ちます」

皆「……すごいリッチだ……」

律「あつ、じゃあ水着持って行くこつぜ！？」

漣「だから！遊びに行くんじゃないって言ってるだろ！！！！」

律「わ、わかってるよ」

漣「よしっ」

梓「……沖縄か……」

さわ子「はいはい！私も行く！！！！」

律「あ、さわちゃん」

漣「!?!?」

さわ子「やっぱり沖縄は海よね、水着買わなきゃ!?!?!」

漣「せ、先生……」

律「でしょっ!?!?やっぱり沖縄は海だよな」

漣「だ、だから!遊びに行くんじゃ……」

紬「漣ちゃん、ここは許してあげましょ、ねっ?」「ニッコシ

漣「うう………わかったよ」シヨボン

唯「楽しみだな………!!」

圭吾（俺暑いのが苦手なんすけど………）

合宿まであと明後日………

### #03 合宿前日

合宿まであと1日……正直、俺は行きたくない。

なぜかと言うと、俺は暑いのは苦手だからだ。

今でも暑いのになぜ更に暑い沖縄に行かなければならないのか……

俺は頭の中でそう思っていた……

律「あゝとうとう明日か〜！」

紬「楽しみだわ〜」ワクワク

唯「あつ、でもまだ合宿の準備何もしてない……」

漣「おいおい、しっかりしろよ」

梓「そうですね、私達遊びに行くんじゃないんですから」

律「あれ〜？さっき水着買ったの誰かな〜？」

梓「そ、それとこれとは別ですっ！……！」

圭吾「……」

律「あれ〜？圭吾テンション低いじゃん？」

圭吾「……別に……」

律「……そうだー！」

律「あーそういうばー、沖縄ってかなり自然が多いよなー、もしかしたらー圭吾の好きなかぶと虫がうじゃうじゃいるかもなー」

圭吾「…かぶと虫！？」「ピクッ

律（ププッ、うまくいった！）

そう、俺はかぶと虫が大好きなのだ！！

圭吾「かぶと狩りじゃー！！！」ウガー！

漣「ひいつ！？」ピクッ

梓「！？」

紬「け、圭吾さん！？」

唯「圭吾君？」

慎弥「…だめだ、完全にスイッチが入った……」

修一「かぶと虫のことになったら圭吾は誰にも止められないからな……」

圭吾「狩って狩って狩りまくるんじゃない……!」ウガー……!

律「オー……!」

やっべえ……!テンション上がったきた……!……!

そして興奮した俺はなかなか寝つけなかったのだった……!

## #04 出発当日

律「おはよー！皆の衆ー！」

唯「おはよー！」

紬「おはよう、りっちゃん」「ニッコシ

漣「遅いぞー！！30分前には空港口ビエーに集合って言っただろー！！」

律「ごめんなさーい！」「EUM...」

梓「ま、まあ皆そろったんだからいいじゃないですか」

律「あれっ？さわちゃんは？」

慎弥「先生なら風邪でダウンだって」

律「ありゃー、さわちゃん楽しみにしてたのになー」

~~~~さわ子宅~~~~

さわ子「ヘックションッ！.....ズズ.....沖縄.....行きたかったな.....」

律「よしっ！さわちゃん分まで楽しむぞー！！」

唯・紬「おー！！」「ワクワク

漣「……全く……ハア……」

梓（楽しみだな）……）ワクワク

慎弥「あれっ、圭吾、お前その目のクマどうしたんだ？」

修一「お前まさか興奮して寝られなかったとか？」

圭吾「ちげーよばか（当たってやがる……）」

梓「皆さん、そろそろ荷物預けに行きませんか？」

漣「ああ、そうだな」

空港係員「ではここに荷物を置いて下さい」

漣「あつすいません、楽器があるので割れ物注意のシールか何か貼ってくれますか？」

空港係員「はい、わかりました」

律「なあ、ムギ。向こうにドラムあるのか？」

紬「ええ、ありますよ？」

修一「あのおの……俺のもあるのかな？」

紬「大丈夫ですよ、ちゃんと2台ありますよ」「ニコッ

修一「おお……ありがたい」

空港係員「次にボディチェックをさせてもらいます。一人ずつこの機械を通って下さい」

……ピーピーピーピー

圭吾「んっ?」

空港係員「お客様、ちよつと失礼します」

……ピーピーピー

空港係員「後ろのポケットに何か入ってますね」

圭吾「んっ?……あつ、1000円玉だ」

慎弥「なんで1000円玉が入ってたよ」

~~~~~出発ロビー~~~~~

律「ひまだ〜……」

唯「同じく……」

圭吾「……」「ウツウツ

漣「…あと10分か……」

紬「……」スヤスヤ

梓「…ちよつと待つな……」

慎弥「…今のうちにトイレ……」スタスタ

修一「…俺も」スタスタ

……しばらくして……

アナウンス「まもなく那覇空港行きの特急が到着いたします、ご利用のお客様は、搭乗口でお待ち下さい……」

漣「あつ、この便だ」

律「やっとか……」

唯「待ちくたびれた……」

圭吾「…ん……」フワァー……

漣「梓、ムギ起こして」

梓「あつ、はい。先輩、ムギ先輩、時間ですよ！起きてください！」

紬「ゲル状……はっ、ごめんなさい!？」

漣・梓「ゲルツ!?」「ガビーン!!」

慎弥「あゝ…、やっとか?」

修一「」「ワクワク

俺たちは搭乗口に向かい、機内に乗り込んだ。

~~~~~機内~~~~~

律「意外と狭いな」

唯「そだね、もうちょっと広いかと思った」

梓「……」「ガタガタ 実は飛行機が苦手

漣「……少し寝ようかな……」

紬「……」「ウトウト

圭吾「……かぶと虫……」 まだ言ってる

慎弥「音楽でも聞いとこ……」

修一（……沖縄……初めて行くな……）

アナウンス「当機はまもなく那覇空港に向けて離陸致します……」

律「いよいよだー！」ワクワク

唯「楽しみー！」ワクワク

梓「墜落しませんように墜落しませんように墜落しませんように墜落しませんように墜落しませんように」ガタガタ

澪「……」スヤスヤ

紬「ゲル……」スヤスヤ

圭吾「…梓の奴、飛行機にどんな嫌な思い出があんだよ……」

慎弥「……」シャカシャカ

修一「……」グーグー

そして飛行機は沖縄に向けて離陸したのであった……

#05 沖縄

~~~~那覇空港~~~~

律「フワァー…、やっと着いた〜！」

唯「あ〜づ〜い〜…」グテー

漣「確かに……」ダラダラ

梓「…地獄から解放されたと思ったら……また地獄に逆戻りだよ…  
…ハア……」

圭吾「…梓、お前なんでそんなに飛行機が苦手なんだ？」

梓「…ちよつと昔嫌な思い出がありまして……それで飛行機がトラ  
ウマに……」

圭吾<sup>ちよほじ</sup>

慎弥「しかし、本当に暑いな……うちわ持ってくればよかった……」

修一「早く別荘に直行しようぜ！。こっちが参っちまう」ダラダラ

紬「ちよつと待って、今迎えを呼ぶから……」ピッピッピ

……しばらくして……

謎の男「やーやー、紬ちゃん！元気だったかい！？」

紬「叔父様！会いたかった！」ガバツ！

謎の男「前に会ったのは中学二年の時だったからな、それで、お父さんは元気かい？」ナデナデ

紬「はいっ！」ギユウツ

漣（あんなムギ見たことない……余程うれしいんだな……）

謎の男「ところで紬ちゃん、その方々は軽音部の皆さんかい？」

紬「はい！」

7人「宜しくお願ひします！」

謎の男「ああ、こちらこそ。私は寺田って言うんだ、よろしくな！」

紬「叔父様、そろそろ行きましょう！」

寺田「ああ、そうだな！皆、あのバスに乗ってくれ！」

7人「バス？」

そこには立派なバスが止まっていた

7人「……凄い……」

紬「皆、いきましょー！」

7人「あっ、うん」

バスに揺られること30分……立派な別荘の前に到着した……

寺田「じゃあ何かあったら電話してくれ、すぐに飛んでくるから！」

紬「はあい」

7人「ありがとうございましたー！」

寺田「じゃー！」

ブロロロロン……………

紬「さっ、皆！中に入って！」

律「すげーな、今回の別荘も……………」

漣「なんかいつも悪いな……ムギ」

紬「えっ、気にしないで！漣ちゃんっ！」

唯「すごい！」「キラキラ」

梓「ところでムギ先輩、さっきの方、だれなんです？」

紬「あの人は沖縄でバス会社を経営されてる方で、お父様と昔からのご友人なの」

梓「えっ、てことは、バス会社の社長さんなんですか！？……全然そうには見えなかった……」

紬「叔父様は普段からああいう感じなの、堅苦しいのが嫌いな方だから……」

修一「それより早く中に入ろうぜー？暑くてたまらん」

紬「あっ、ごめんなさい！すぐに鍵をあけるから！」

慎弥「もうちょっとは遠慮しろ、修一」

修一「へいへい……」

圭吾「……おい……律……」

律「？」

圭吾「……山、ねーじゃねーか……」

律「……そっ、それは……」ドキッ！

圭吾「……嘘ついたな……てめえ……」

律「い、いやあ！まさか山がないなんて知らなかった〜！」

圭吾「律、海に行ったら真つ先にてめえを沈めてやる……覚悟しとけ……」

律「！？澁しゃくん！お助け〜！」

澁「デタラメ言ったお前が悪い、自業自得だばか律」

律「そ、そんな〜（悲）」

5人「（笑）」

圭吾「冗談だつて！俺がそんな事する相手は慎弥と修一ぐらいだ」

慎・修「なぜ俺っ!?!」

律「あ〜……、よかつた〜……」

冗談はさておき、俺たちは中に入り、各自部屋に入った。

律「よし、泳ぐぞ〜！」

唯「おー!?!」

澁「ちよつと、練習は!?!」

梓「そうですよ!?!」

律「そんなんあとあと!!」

漣「なっ!?!」ガビーン

梓「練習しに来たんですよ!?!」

律・唯「泳ぎたい!!」ブーブー

紬「泳ぎたいです」ハイ

漣・梓「まさかの裏切り!?!」ガビーン

圭吾「多数決で決めたらいいだろ?」

律「おっ!?!圭吾にしてはいいアイデアじゃん!」

圭吾「てめえ……マジで沈めるぞ……?」

漣「じゃあ、多数決で。私は練習!」

梓「私もです!」

律・唯・紬「泳ぎたい!!」

漣「圭吾は?」

圭吾「せっかく沖縄に来たんだから……初日はおもいっきり遊びたい」

漣「くっ…、慎弥と修一は？」

慎・修「泳ぐ」

漣「なっ!？」

律「はい、決定〜!!」

唯「じゃー先に行つてまってるね〜!!」

……

梓「……行つちやつた……漣先輩、どうします?」

漣「うっ〜……」

紬「…漣ちゃん、行く?」

漣「……」

律「おい!ムギ〜!!は〜や〜く〜!!」

紬「はい!!……じゃあ待ってるから……!!」タッタッタツ……

梓「ムギ先輩も行つちやつた……」

漣「……私も行く〜!!……!!」ウワン

梓「漣先輩!？」ガビーン

梓「……私1人になっちゃった……」ポツン

圭吾「俺たちも行くっぜ?」

慎・修「おう」

圭吾「梓、行かねーのか?」

梓「私は……いいです……」

圭吾(……そうだ!!)

圭吾「あれ?もしかして梓泳げないんだ?」

梓「なっ!?!」

圭吾「見かけによらず運動音痴か?」(笑)

梓「ち、違うもん!?!」

圭吾「ふーん?」疑いの目

梓「う、運動音痴じゃないもん!?!」

圭吾「じゃあ泳ぎに行くのか？」

梓「わ、分かりました！行けばいいんですか！！？」

圭吾（成功）

そして梓を連れ出して海に行った……………

## #06 今日の晩ご飯

俺たちは夕暮れまで浜で遊んでいた……

律「なー、晩ご飯どうする?」

唯「もうそんな時間か……どつりでさっきからお腹がグーグーなるわけだ」

圭吾「晩飯作んのめんどくせーからコンビニでなんか買って来りや早えーじゃん」

律・澪「アホッ!」「ビシッ!

圭吾「あうっ!?!?」

梓「今のは先輩が悪いですよ!」

紬「この近くにスーパーがあるからそこに行く?」

律「よし!皆でいくぞ!」

圭吾「えっっ!?!」ブーブー

澪「文句言わない!」

梓「ほらっ、行きますよ!?!」

圭吾「ちえーっ」

~~~~~某スーパー店内~~~~~

律「うはー！やっぱ沖縄のスーパーは違うな〜！！」

漣「うっ！！？豚の耳が売ってある……グロテスク過ぎる……」ウツ

唯「ねーねー、これみて〜！」

唯は得体の知れない物を持ってきた……………

漣・梓「！！！？」

唯「ねーねー、これなんなの〜？」ジー……………

漣「ゆ、唯！！今すぐ元の場所に戻してこい！！！！！」

梓「オエツ……………」

唯「うん、わかった〜」

圭吾「…………見なかった事にしとこ……………」

一通り買い物済ませ、別荘に戻る。

今日はカレーらしい……

漣「よしっ、まず野菜を切るか……！」

梓「私も手伝います」

紬「私は米を炊いておきます」

律「唯！私達は肉を切るぞ！」

唯「ラジャー！」ビシッ

圭吾「……俺たちやる事ねーな……」

修「……確かに……」

慎弥「なあー！何か俺たちに仕事ないか？」

漣「ああ、じゃあテーブルでも拭いといてくれる？」

圭・慎・修「あいよ〜」

しかしテーブルはすぐに拭き終わった……

3人「……暇だ……」

圭吾「……テレビでも見よ……」

俺は無意識にテレビのスイッチに触れた。

『……では次のニュースです。……』

俺たちはぼーっとニュースを見ていた。

圭吾「……」

チャンネルを無意識に変えさがしていると、

テレビ『うがぁー!!!!』

偶然回したチャンネルがホラー映画をやっていた

圭吾「……びっくりした!!」

しかもっと重症な奴がいた……… 溲だ………

溲「怖くない怖くない怖くない怖くない怖くない怖くない怖くない怖くない」ブルブル

そうだった……あいつ怖いの手先だったんだ(笑)……

紬「澪ちゃん、今はテレビだから大丈夫よ！」

唯「そうだよ！お化けじゃないよ！」

澪「……本当!?」ウルウル

7人「かわい〜!」「ドキユン!!」

そんな事はさておき、カレーが出来たらしい

律「じゃあ、私、田井中 律から一言……」

圭吾「いただきます」 無視

律「っておいっ!?!」「ガビーン!  
楽しい晩飯の時間を過ごした……

律「食った食った!」「フー

唯「おいしかった〜!」

紬「ごちそうさまでしたっ!」

漣「ごちそうさま」「フー

梓「ごちそうさまでした……」

圭吾「ごちそうさん」

慎弥「いやー、うまかった」

修一「……もう食べねえ……」ゲツプ

律「この後何する？」

漣「何って……練習に決まってるだろ？」

律「見る、あんな事言ってるぜ……唯「ハア」

唯「全くであります！りっちゃん隊員！」

漣「……？」

律「普通この後花火するだろ……！！」「ドンドンッ……！！

唯「そうだよ……！！普通この後花火するでしょ……！！」「ドンドンッ……！！」

圭吾「アホかおまえら」

漣「で、でも花火なんてあるわけ……」

紬「あります」「サッ

透「何っ!?!」ガビーン

律「よーし!花火やるぞー!」

唯「おーっ!」

梓「でもその前に後片付けをしてからですよ!花火はそのあとです!」

律・唯「えっ!?!」ブーブー

圭吾「文句言つな」ガシッ

律・唯「いっや~~~~~!」ズルズル……

……全く……しょうがない奴らだ……

~~~~~外~~~~~

律「……あっ!落ちる!」

唯「りっちゃん!そーゆー時は合体だよ!」

律「よしっ!」ソロソ……

律・唯「合体っ!」

……ポトツ……

律・唯「あ……」

漣「何やってんだか……」

紬「楽しくていいじゃないっ」「ウキウキ

漣「ムギは相変わらずだな」「フッフ

梓「……あっ、落ちちゃった……」「シヨボン

圭吾（……のどかだな……）

慎弥「あと何日で夏休みに入るんだっけ？」

修一「1週間ぐらいじゃね？」

おめーらは何くだらんこと喋ってたんだ

そして花火が終わると、練習に取り掛かった……

漣「……よしっ、今のかんじでもう一回だ！」

3人「おーっ！！」

梓「よしっ……上手く弾けた……」

慎弥「zzz……」

修一「……フワァー……」

圭吾「……ウトウト」

……しばらくして……

律「おゝい！起きろっ！……！」

3人「……」ボー……

律「全く！しっかりしてくれよ……！」

圭吾「……」ボヘー……

慎弥「フワァー……」

修一「ダリッ……」

澪「こいつら……ハァ……」

紬「まあまあまあまあまあ……」

唯「…6回」ボソッ

梓「？」

圭吾「…しゃくねく、やるか……慎弥、修一、準備しろ」

慎弥「ん〜……」

修一「あいよ〜……」

……

圭吾「じゃあ軽くロードオブメジャーの心絵でもやるか……」

慎・修「りよ〜かい……」

……

圭吾「描いた夢とここにある今……」

律「…圭吾の歌声はいつ聴いてもいい声だな……」

漣「…ああ……」

唯「圭吾君かつこい〜……」

紬「ハア〜」「ウツトリ……」

梓「先輩……素敵……／＼／」

……

圭吾「こんなもんかな……」

慎弥「……」ギター……

修一「……もう終わろうぜ〜?」

漣「まだ全然してないだろ!?!」

圭吾「漣、慎弥を見る。慎弥の奴、疲れがピークに達して放心状態になってる……」

慎弥「……」「ボ……」

漣「なっ……」

圭吾「漣、ここは慎弥の為に……頼む……!」

漣「……わかったよ……今日はここまでにしよう……」

紬「……じゃあお風呂にする?」

律「さんせー!」「ハイ!

.....

7人「露天風呂!？」

紬「あつ、言い忘れてたけど、混合です」

7人「なにーっ!？」ガビーン

澪「うゝ……」ボンツ!!

梓「澪先輩!しっかりして下さい!」

圭吾「……マジかよ……」

慎弥(ある意味ラッキー?)ヒソヒソ

修一(ああ!)(ヒソヒソ)

圭吾(こいつら何話してんだ?)

……しばらくして……

律「あゝ……、いい湯だな」

唯「……」

漣「…なんでこいつらはこんなにリラックスしていられるんだ……」

紬「まあまあ」

梓「片山先輩、その首飾り何ですか？」

圭吾「ん？ああ、これ？これは父さんと母さんの形見の指輪なんだ」

梓「……？」

圭吾「梓には言ってなかったか……実は俺の父さんと母さんは俺が  
中学に上がる前に交通事故で死んだんだ……」

梓「えっ……？」

圭吾「あゝっ！そんな顔すんな！別に気にしてないから……！」

梓「……すみません、変な事聞いちゃって……」

圭吾「別にいいって……！」ナデナデ

梓「ふみゅっ……／＼／」

律「あれ？梓のやつ照れてるぞ」（笑）？」

梓「てっ、照れていません……！！／＼／」

慎弥「準備はいいか？」

修一「ああ！いつでもいいぞ！！！」

慎・修「せーのっ！！！」

このほか2人は俺の顔面に向けて水鉄砲で撃ってきた

圭吾「ふげっ！？」

慎弥「はははっ！！！！成功〜（爆）」

修一「は、腹いて〜！！！！（爆）」

梓「……あの、山河先輩と高山先輩……後ろ……」

慎・修「？」ソロ〜…

圭吾「…おめえら……いい度胸してんじゃね〜か……覚悟は……出  
来てんだろっな？（怒）??」「パキパキ……」

慎・修「ぎゃーっ！！？」

漣「……アホ……」

紬「ふふっ」「クスッ

……「こつして合宿一日目は無事終了した……」

#07 風邪

圭吾「……トイレ……」ムクッ……

俺はトイレに行こうと思い、寝ぼけ半分でトイレに向かった。

……

圭吾「……スッキリした……」ボタン……

もう一眠りしようと思えば部屋に戻ろうとしたら、台所に誰かの気配がした……

圭吾「……誰かいるのか？」

すると、奥から誰かの声がした。

？「……その声は、片山先輩ですか？……」

圭吾「……梓か？こんな時間に何やってんだ？……」フワァー……

梓「……ちよつと捜し物を……先輩は？……」

圭吾「俺はトイレでちよつと起きた……。で、捜し物ってなんだ？」

梓「……ちよつと暑いから、氷枕を探してたんですけど……でもないみたいなんで私ももう寝ます……」フラッ……

梓はそう言っつて部屋に戻ろつとした時、俺に向かって倒れてきた……

圭吾「!?!」

梓「……すみません……今足元がふらついちゃって……」

俺は梓の額を触った……

圭吾「……お前、熱あんじゃないか!?!」

梓「大丈夫ですよ……これくらい……」フラッ

大丈夫のはずがなく、梓は階段の前で倒れてしまった……

圭吾「梓!?!」

俺は梓を抱き抱え、ソファーに寝かせ、律達の部屋に向かった……

圭吾「おいっ!起きろ!?!」「ドンドンドンッ!?!」

律「なんだよ……こんな夜中に……」「フワァー……」

透「……どうしたんだよ圭吾……」「フワァー……」

紬「……どうしたんですか?……」「フワァー……」

唯「zzz」グーグー

圭吾「梓が熱出して倒れたんだよ!!」

3人「!?!」

圭吾「…晚饭あんまり食ってねーと思ってたけど、まさか熱があったとは……」

紬「今梓ちゃんはどこに!?!」

圭吾「下のリビングのソファで寝かせてる。今連れて来る!!」

紬「お願いします!!」

~~~~~1F、リビング~~~~~

圭吾「梓!今二階に連れて行くからな!!」

梓「先輩…すみません……」

~~~~~2F、寝室~~~~~

紬「梓ちゃん!しっかりして!!」

律「梓!しっかりしろ!!」

透「梓!!」

梓「皆さん……すみません…迷惑かけちゃって……」

圭吾「全く……なんでもっと早く俺たちに言わなかったんだよ!!」

梓「…すみません…」

漣「とにかく、明日はゆっくり休め！」

紬「そうよ！明日はゆっくり休んで！」

梓「…はい…」

律「全く！今度からは何かあったらすぐ私に言っただぞ！」

梓「…はい、わかりました…」

圭吾「…じゃあ俺もう寝るわ……」「フワァー…」

漣「ああ、色々とすまなかつたな」

紬「圭吾さん、色々とありがとうございました」

圭吾「…別にいいって……」

律「じゃあおやすみ〜」

圭吾「ああ…おやすみ」

ガチャン……………

唯「…おいしそうなケーキ……zzzz」

.....

圭吾「明日薬買って来てやる.....」

慎弥「何かあったのか？」

圭吾「梓が熱出した.....」

慎弥「大丈夫なのか？」

圭吾「ああ、なんとか.....」

明日は晴れるかな.....

#08 たいやき

圭吾「……………」ガチャン

俺はあの後なかなか寝付けず、二階から降りてきた。

圭吾「…五時半か……………」

俺は携帯をいじりながら外を見ていた……

紬「…圭吾さん？」

圭吾「…ああ、ムギか…どうしたんだ？こんな朝早くに……………」

紬「…圭吾さんこそ…何をしているんですか？」

圭吾「あの後からなかなか寝付けなくてな……………」

紬「ふふっ」「クスッ

圭吾「で、梓はどうだ？」

紬「熱は一応下がったんですけど……………まだ安心できません……………今3人交代で梓ちゃんを看病しているんです……………」

圭吾「こんな時間まで!？」

紬「ええ…あつ、でも大丈夫ですよ!？」

圭吾「…何言ってるんだよ……お前らも体壊したら洒落になんねーよ……俺が変わってやる、お前はもう寝とけ……」

紬「えっ、でも……」

圭吾「…別にいいって…俺もう全然疲れてねーし……」

紬「圭吾さん……」

圭吾「…さて、行くか……」

~~~~~2F、女子寝室~~~~~

圭吾「入るぞ」ガチャ…

漣「…圭吾？どうしたんだ？」

圭吾「ムギから聞いたよ……3人交代で梓を看病してるんだってな……疲れただろ？もう寝ろ…あとは俺が看病する……」

漣「でも……」

圭吾「いいから…もう休め……」

紬「漣ちゃん……」コクッ

漣「…わかった……圭吾、私達は休ませてもらうよ……」

圭吾「…ああ……」

紬「…圭吾さん…すみません……」

圭吾「…気にするな…」

律「…キャベツうめ〜」「ムニヤムニヤ…」

唯「…あつ、そのクッキーおいしそう〜」「ムニヤムニヤ…」

圭吾「…こいつらは…」「ハア…」

…一時間後…

圭吾「…もう七時半か…八時になったら朝飯作ってきてやるか…」

俺は梓の濡れタオルを絞り、再び梓の額にのせた…

梓「…先輩…?」

圭吾「…ああ、気がついたか?どうだ、体の調子は?」

梓「…ちよつと楽になりました…」

圭吾「…そうか…よかった…」

梓「…先輩はいつからここに?」

圭吾「ちよつと前からただけどな…あとで律と澁と紬に礼言つとけよ?この3人ずつと交代でお前の看病してたんだからな…唯は横で爆睡してたけどな…」

梓「…」

圭吾「もう八時だ…朝飯作ってくるか…梓、食欲あるか?」

梓「…少し……」

圭吾「じゃあ消化のいい卵粥作ってきてやるよ」

ガチャン……

梓「…先輩の……手料理……か……」

~~~~~1F、台所~~~~~

圭吾「…まずはあいつらのを作っておくか……」

俺は冷蔵庫の残り物で目玉焼き、サラダを作った……

圭吾「…パンは……これでいいか……あとは……卵粥だ……」

卵粥が出来て、梓の所へ持っていく……

圭吾「…入るぞ……」ガチャ……

梓「…先輩、すみません……色々……」

圭吾「いいって！じゃあ俺はあのばか2人起こしてくるから、無理  
せずに食べよ！」

ガチャン……

梓「…フーツ、フーツ……」パクッ……

梓「…おいしい……」

~~~~2F、男子寝室~~~~

圭吾「起きろアホども〜！」

慎弥「ん……………」

修一「…あと5分…」

圭吾「うるせー！朝飯食ってくれねーと片付かねーんだよ！」

俺は2人の布団を引き剥がした

慎弥「…………マジ勘弁して……………」

修一「…………俺も……………」

圭吾「やかましいわ！朝飯作ってあるから勝手に食っとけ！！！」

ガチャーン！！

慎弥「……………」フワァー……………」

修一「…圭吾が朝飯を作った？……………」

~~~~2F、女子寝室~~~~

圭吾「…入るぞ」ガチャ…

梓「…先輩、お粥…………おいしかったです……………」

圭吾「…そうか？よかった…………口にあって……………」

梓「……」

圭吾「……」

……なんだ……この空気は……

圭吾「じゃ、じゃあ俺行くわ。まだ安静にしとけよ！」

梓「はっ、はい。ありがとうございました！」

……ガチャン……

梓「……先輩／＼／」

……しばらくして、4人が起きてきた……

律「……おはよー」「フワァー……」

透「おはよう……」「フワァー……」

紬「……おはようございます……」「フワァー……」

唯「おはよー……」「フワァー……」

圭吾「……ああ、おはよー」

律「……圭吾、色々とすまなかつたな、なんか……」

唯「私も聞いたよ…あずにゃん大変な目にあっただってね……」

圭吾「…もういいよ……それよりほらっ、朝飯作ってあるから食べよー」

……しほらくして……

圭吾「……ちょっとそこの辺ぶらぶらしてくるわ」

漣「あ、ああ……」

唯「いつてらっしや〜い」

……

俺は街の商店街まで行き、薬局に寄った……

店員「いらっしやい」

圭吾「あの…熱冷ましの薬ありますか？」

店員「ああ、それならこれだね！お兄ちゃん、風邪でも引いたのかい？」

圭吾「いや、ちょっと後輩の女の子が熱出しちゃって……」

店員「お兄ちゃんやさしいねえー！」

圭吾「そ、そんなこと……当然の事をしたまですよ……／＼／」

店員「…よしっ！お兄ちゃん、薬、ちょっと安くしてあげるよー！あ

と、この栄養ドリンクもサービスであげるよ！」

圭吾「えっ、でもそんなの悪いですよ……………」

店員「いいっていいって！」

圭吾「…ありがとうございます……………」

店員「ああ、また来てよ！」

俺は薬の代金を置き、店を出た……

~~~~~帰り道~~~~~

圭吾「…あつ、たい焼き屋だ……………」

圭吾「…………皆の分買っていくか……………」

俺は8人分のたい焼きを買い、別荘に戻った……

圭吾「…ただいま……………」ガチャ……………」

律「全く！どこまでほつつき歩いてたんだよ！」

唯「圭吾くん、それ何？なんかとてもいい匂いがする……………」クンクン……………」

律「…確かに……………」クンクン……………」

圭吾「たい焼きだよたい焼き！あとでみんなで食べ！」ポイツ

律・唯「やったく！」ドタドタ

圭吾「全く……小学生かよ……」

紬「圭吾さん……色々ありがとうございます……」「プロツ……」

圭吾「ん？ああ、気にするなよ！あと、この薬あとで梓に飲ませるといいよ、これと一緒に……」スツ……

紬「はいっ……わかりました……」

律「じゃー早速圭吾が買ってきたたい焼きでも食おーぜ！」

漣「さつき朝ごはん食べたばかりだろ！？」

律「それはそれ、これはこれ」

慎弥「何その（家は家、よそはよそ）みたいな言い方……」

紬「じゃあ今お茶入れてくるから」

漣「ムギまで！？」ガビーン

律「あれえ〜？もしかして漣ちゅわん太るから食べたくないんだ？じゃあ漣の分は私がもらおうかな〜？（笑）」

漣「わ、私も食べるよ〜（泣）」

唯「…かわいい…」

修「でたっ、律の意地悪攻撃！」

律「へへっ！」

紬「お茶が入りましたよ」

律「よし、食べるぞー！」

7人「いただきます！」

……

律「そついやまた唯痩せた？」

唯「ふえっ？ううん？痩せてないよ？前にも言ったと思うけど、私いくら食べても太らないんだよ？」

漣・紬「そんなわけない！」

唯「！？」「ビクッ

なぜか端っここに固まる漣とムギ……

漣「ムギ何キロ太った？」ヒソヒソ……

紬「…私は……キロ……」「ヒソヒソ

漣「私は……キロ……」「ヒソヒソ

漣・紬「……うわーん！！！」

律「唯っ！謝っどけ！」

唯「ごっ、ごめんなさい！」

律「そーいやあんたら男子は皆細いよなー」

慎弥「その中で圭吾は細いくせに空手三段の化け物だからなー」「ニヤニヤ

修「ああ、細いのに無駄に強いからなー」「ニヤニヤ

圭吾「…君たち、また地獄に行きたいのかな？（怒）」「パキパキ…」

慎・修「じょーだんです」「キリッ

律「…ふふっ」「ニコッ

漣・紬「…つらやまし過ぎるー！」

圭・慎・修「！？」「ビクッ

圭吾「…じゃ、じゃあ梓にたい焼き持っていつてくるわー！」

慎弥「あっ、ああ…」

~~~~~2F~~~~~

圭吾「…俺だって無駄に強くなりたかつたんじゃねーのに……」  
ブツブツ……

コンコン……ガチャ……

圭吾「…入るぞ、梓？たい焼きでも食つか？……てっ、寝て  
やがる……仕方ねー……ここに置いとくか……」  
コトツ……

梓「スー……スー……」

圭吾「……」

俺は梓の頭を優しく撫でた……

圭吾「…早くよくなれよ……さて……戻るか……」  
俺は部屋の温度を調節し、一階に戻った……

ガチャン……

梓「……」  
ムクツ……

梓「……」  
パクツ……

梓「…あつたかくておいしい……」

梓「…先輩……ありがとうございます……」

~~~~~1F、リビング~~~~~

慎弥「今日の練習はどうすんだ？」

漣「梓があの状態だし……今日は各自自主練習だな……」

律「よし、遊ぶぞー！」

漣・圭「誰が遊んでいって言ったー！」「ビシッ！！」

律「あうっー！！」

慎弥「やれやれ……」フウ……

唯「あはははっ！ー！！」

紬「ふふっ！」「クスッ

自主練習は昼前まで続いた……

修一「おい、もう昼前だぞ？」

漣「本当だ……よしっ、ここまでにしようー！」

紬「……じゃあお昼にする？」

律・唯「さんせー！」「ハイー！

慎弥「……で、昼飯どうすんだ？」

圭吾「……俺が作る」

紬「で、でも今朝作ってもらったばかりなのに……そんなの悪いわ！」

圭吾「夜中梓の看病で疲れてるだろ？今日はゆっくり休んで俺たちに任せろ！」

慎・修（今俺たちに任せろたって言わなかった？この人……）

紬「……じゃあ、お言葉に甘えて……」

圭吾「……炒飯でも作るか……慎弥、修一、お前らも手伝え！」

慎・修（やつぱりー！）ガビーン

圭吾「……文句でもあんのか？わかってるよな？料理長に逆らったら昼飯はおろか晩飯も抜きだってことは？……」

律・唯・紬・澪（鬼だ……この人……）

慎弥「……わかったよ……手伝えばいいんだろ手伝えば！」

圭吾「……よし……修一は？」ギロツ……

修一「……喜んで手伝わさせていただきます……」

圭吾「なんだよ……お前ら素直でいいな……」

律・澪・唯・紬（むちゃくちゃだよこの人……！）

俺は慎弥と修一を半ば強引に手伝わせて、昼飯を作った……

圭吾「…よし、出来た…」

律「お〜！うまそ〜！」

唯「よ、よだれ出ちゃう…」「ジュール…」

漣「おいしそ〜！」

紬「本当〜！おいしそうね〜！」

圭吾「梓の飯も一応完成…とっ…」

紬「あつ、私持っていきます！」

圭吾「そうか？悪いな！」

唯「私もあずにゃんの所に行く〜！」

〜〜〜階段〜〜〜

唯「いい匂い〜」「ホワーン…」

紬「本当にいい匂いね〜」「ホワーン…」

〜〜〜2F〜〜〜

コンコン…ガチャ…

紬「梓ちゃん、調子どう？」「ニコッ

梓「はい、大分楽になりました」

唯「「あずにゃくん！」ガバツ！

梓「せつ、先輩……苦しいです……／＼／」

唯「ごめんね〜あずにゃくん！看病してあげられなくで〜（泣）！」

梓「唯先輩……」

紬「梓ちゃん、ここにお昼ご飯置いとくね？」

梓「あつ、はい、ありがとうございます……」

唯「じゃああずにゃんまたあとでね〜」

紬「……早く良くなってね……！」

ガチャン……

梓「……食べよ……」

パラッ……

梓「？何か落ちた……」

『これ食って良くなれよ！by圭吾』

梓「先輩／＼／」

梓「……早く体治さなきゃ……！！」

合宿はあじう日.....

#09 復活!!

梓「皆さん、お騒がせしてすみませんでしたっ!」ペコッ

漣「まあ、治って良かったよ」

律「ああ。梓?これからは何かあったらすぐ私に言うんだぞ!」

梓「はいっ!」

唯「あずにゃくん!!」ガバツ!

梓「!!」

唯「あずにゃくん!治ってよかったよ!」うえくん!

梓「唯先輩……」

紬「いいわ〜……」ジー……

圭吾「ムギ?」

漣「どうしたんだ?」

圭吾「いや、ムギが……」

漣「ムギ!」

紬「はわっ!?!あっ、っっっめんなさい!」

澪・圭吾「？」

律「とにかく！梓が復活したことだし、今夜から練習再開だ！」

7人「おーっ！」

唯「ぐ〜……」

唯「あっ……」

7人「……」

唯「……ごめ〜ん、お腹空いちゃった〜」「えへへ〜」

澪「……全く……ちょっと早いけど晩ご飯にするか……」

圭吾「なんか拍子抜けだな……」

慎弥「なあ、明日何時ごろここを出るんだ？」

紬「えつと……昼前にはここを出る予定だから……11時半くらいですね！」

圭吾（とうとう明日か……）

慎弥「11時半か〜……起きれるかな〜？」

圭吾「大丈夫だ、もし起きれなかったら俺が蹴り起こしてやるよ」

慎弥「んなつ!?!」ガビーン!

修一(明日は早く起きよう……)

圭吾「…じゃー晩飯作るか?」

慎・修「ういーすっ…」

梓「私も手伝います!」

圭吾「あゝ!いいっていいって!今日は俺たちに任せろ!」

梓「えっ、でも……」

慎弥「中野、気持ちはわかるが今日は俺たちに任せて、女子はゆっくり休め……」

梓「…はい……」

圭吾「で、今日は何にする?」

律「あたしは…ステーキ!」

圭吾「8人分の肉買う費用あるわけないだろボケ」

律「うっ……」

唯「私は…オムライスかな?」

圭吾「オムライスカ…それいいな……」

澪「私は…なるべくカロリーが低いもので……」

圭吾「…難しいな……」

紬「…私は…あっさりしたもので……」

梓「私も……」

圭吾「ん〜……じゃあ手巻きずしはどつだ？」

律「それいいな！」

唯「私も手巻きずしがいい〜」

漣「手巻きずしなら費用もそんなにかからないから…私も手巻きずしでいいよ（カロリー低そうだし）」

紬「私も手巻きずし〜」「ハイ

梓「私も…手巻きずしで……」

圭吾「…決まりだな…よし、今夜は手巻きずしだ！」

慎弥「よかった〜…手巻きずしなら作る手間かからないし……」

修一「でも酢飯作るのめんどくさいじゃん？」

慎弥「あつ、確かに……」

圭吾「お前ら何ぐだぐた言ってんだ？買い出しに行くぞー！」

慎・修「ラジャー……」

~~~~~某スーパー店内~~~~~

慎弥「…こんなもんか？」

圭吾「そうだな…」

修一「…そうだ！」

修一「ちよつと待っててくれ！」

圭・慎「？」

しばらくすると、修一がなにやら怪しいものを持ってきた……

圭吾「修一、なんだそれ？」

修一「何って、見て分かるだろ？わさびじゃん！」

圭吾「いやっ、それは分かってるよ！わさびなんかどつすんだよっ。」

修一「ちよつとお前ら耳貸せ」

圭吾「なんだ？」

慎弥「さあ？」

修一「あんな……………てことだ！」

慎弥「おもしろそうだな〜！」

圭吾「確かにおもしろそうだけど……後々面倒な事になるぞ?」

修一「そんな事言ったら負け負け!」

慎弥「そうだぞ圭吾!」

圭吾（もし俺か梓にわさび入り手巻きずしが当たったらこいつらしばく……）

圭吾「わかったよ……どうなっても知らねーぞ?」

修一「よし!じゃあ早速別荘に戻って作戦開始だ!」

慎弥「おーっ!」

圭吾「……………」

……………別荘に戻った俺たちは、早束手巻きずしの準備に取り掛かる……………

……………そして……………

修一「出来たぞ!」

律「あーお腹減った!」

唯「待ちくたびれたよ!」

澪「…やっとか……」

紬「楽しみ〜 ねえ梓ちゃん？」

梓「はいっ……」

…そして運命の瞬間が訪れる……

皆「いただきま〜す」

パクツ……

澪「かつ、辛い〜!!!!」

7人「!?!」

澪「うわ〜〜〜!!!!みつ、水〜!!!!」

紬「どっどっしたの!?!澪ちゃん!?!」

律「澪!?!」

唯「澪ちゃん!?!」

梓「澪先輩!?!」

圭吾「…あらま……」

慎弥「…予想を遥かに越えるリアクションだな……」

修一「あひゃひゃひゃー!!」

漣「ハアハア……ちよつと！お前らこれはどういう事だ！」

圭吾「修一がこの手巻きずしに一個だけ大量にわさびを入れたいて提案してきた。俺は否定的だったけど……」

慎弥「右に同じく……無理やり修一にやらされた……」

修一「ちよつ！？お前ら！」

漣「しゅーうーいーちー!!!？」

修一「あつ……いやっ……あの……皆バタバタしてたから……ちよつといたずらを……」

漣「修一〜!!!？」

修一「ぎゃー!!!!？」

……しばらくして……

漣「……反省しているんだな？」

修一「……はい……あまり出番ないからこんないたずらを……してしまいました……調子乗ってました！すみませんでした〜!!」 土下座してる

漣「……よし……反省してるならよろしい……」

6人(この人こわく…)

圭吾「とっ、とりあえず食おーぜ!？」

律「あ、ああ!食べよう食べよう!」

紬「そ、そうね!」

なんか気まずい空気になったな…

そして晩飯を食べ終わると、練習に取り掛かった……

漣「…よしっ……」

律「なあ〜?どうだった?」

圭吾「ん〜……俺ギターしかわからないから……ギターの事しか言えないけど……まあよかったよ……ギターの事で言わせてもらうと……唯はもう少しキーキングを上手く使え!そして梓は……特に言うことはないけど……ソロの時はもう少し自信を持って弾け!」

梓「はい!」

唯「わかった!」

慎弥「俺からも言わせてもらうよ。……漣、確かに上手いけどもう少し自信を持って弾こうか……律、お前はリズムがたまに速くなっ

たりしてるぞ………絢、全く問題ないからその状態をキープして行く………」

律「へ〜い………」

澪「うん………わかった………」

絢「はあ〜い」

唯「ねーねー圭吾くん、ちょっとわからない所があるんだ〜。教えてくれる?」

圭吾「ん?ああ、いいぞ」

唯「ありがとう〜!」

圭吾「で、どこだ?」

唯「ん〜とね〜………」

圭吾「ここは………」

唯「ここ………」

圭吾「そう………じゃあ今度は楽譜なしで………」

唯「ラジャー!」「ビシッ!」

修一「…だから!ここがテンポが速いんだよ!」

律「そんなこと言ったて〜………」

修一「…とにかく！もう一回だ！！」

律「え〜？」

修一「え〜？じゃない！」

……練習は12時まで続いた……

漣「よしっ、ここまでにしよう！」

律「風呂にしよっぜ〜？」

圭吾「さんせ〜」

皆風呂をあがると、嘘みたいな速さで眠りについた……

明日はとうとう帰る日……やり残した事は少しあったが、充実した合宿だったと思う……

そして、予定どおり各自家路についた……

……先生のお土産誰か買ったのかな？……

#10 緊急事態発生!

合宿から何日か過ぎ、いよいよ明日は修了式だ……

修一「なあ、明日親居ねーから明日泊まりにくるか？」

慎弥「おー！行く行く！」

修一「圭吾は？」

圭吾「ん〜…姉貴の許可が出たら行かせてもらっわ……」

ガラッ……

律「おーす！おっ？お三方今日は早いじゃん？」

漣「こんにちは」

唯「こんにちは！」

紬「こんにちは〜！」

修一「おーす…なあ、明日の夜俺ん家に泊りにくるか？」

漣「なっ……そんな……悪いよ……それに……大人数で押し掛けたら迷惑だよ……」

修一「大丈夫だよ！明日から1週間親父と母さん海外に行くから家から空きなんだ！」

律「……要するに誰もいなくて寂しいから私達を誘ったわけだ……」

修一「……おっしやる通りです……」

律「……しょくがないな……わかったよ……」

修一「ありがとうございます……」

唯「修一くんかわい」

慎弥「……なあ、中野は？」

律「梓来てないのか？いつもなら早く来てるのに……唯知ってるか？」

唯「ううん？知らないよ？漣ちゃん知ってる？」

漣「知らないよ？ムギ何か知ってるか？」

紬「いいえ？知りませんよ？」

律「おかしいな……」

すると、音楽室のドアが勢い良く開いた

梓「皆さん！！何か自分の物無くなってませんか!？」

律「どうしたもこうしたも……とにかく自分の持ち物をチェックして下さい……」

律「……無い……私のドラムのスティックが無い!!」ガサゴソ

唯「あれっ?あれえ?ピックが無い!」ガサゴソ

漣「……無い!!私のカーディガンが無い!!」ガサゴソ

紬「私は……あつ……大丈夫だ……」ホツ……

圭吾「俺は……エフェクターが無い!」ガサゴソ

慎弥「!!……ピックここにしまっと思ったのに……無くなって……

……!!」ガサゴソ

修一「……俺のドラムのスティックが無え!」ガサゴソ

圭吾「おいおい、どうなってんだよ!」

漣「梓は何か盗られたのか?」

梓「……ギターを……盗まれました……」

7人「!!?」

漣「いつ!?!」

梓「私が……昼休みに友達とトイレに行って教室に戻って来たら……いつも自分の机の隣に置いてあるギターが無くなって……机に置き手紙みたいな物が置いてありました……」

梓「これがその置き手紙です……」スッ……

漣「えーと……今すぐ軽音部を退部しろ……そして今いる軽音部の人間と一切関わるな……退部しなければ軽音部に嫌がらせをする……だって……なんでこんなこと……」

紬「……ひどい……」

唯「酷過ぎるよ……」

律「……なあ梓、こんなことする奴に心当たりないか？」

梓「……そういえばこの前私にしつこく付きまどってきた人がいました……」

漣「誰だ!？」

梓「同じ学年の人何ですけど……クラスが違うので名前までは……」

圭吾「そいつは何組だ？」

梓「片山先輩？」

圭吾「質問に答える、何組だそいつは？」

梓「……三組です」

圭吾「……そいつのどこに行ってくる……」

律「おっ、おい！圭吾ー！」

唯「行っちゃった……」

紬「……圭吾さん……」

澪「……いやな予感が……」

慎弥「……あいつまさか1人でけりつける気じゃ……！！」

修一「……おい！それまずいぞー！！」

律「どうしたんだよ2人とも？」

慎弥「どうしたもこうしたも……！！あいつはキレたら何やらかすか知ってるだろー！？」

修一「圭吾の目……完全にキレた時の目だった……止めに行かねーと……死人が出るぞ……！！」

律・澪・唯・紬・梓「！！？」

慎弥「……律と澪は知ってると思うが……あいつは中3の時に暴力事件を起こしてる……」

律・澪「……」

唯「暴力事件？」

紬「……」

梓「…詳しく聞かせて下さい……」

慎弥「圭吾の親はあいつが中学にあがる前に交通事故で死んでいる……それを知ったばかな奴らが圭吾の死んだ親を馬鹿にした……もしたら圭吾がブチギレてそいつらの顔の形が変わる位まで殴り続けたんだ……」

修一「…あの時おれらが止めに行かなかっただら……そいつらは確実に死んでいた……」

唯・紬・梓「……」

律「その事件以来……皆圭吾に寄り付かなくなっただんだ……」

漣「…もうあの事件は思い出したくない……!!」「ブルブル…」

唯「だっただらすぐ止めに行かなくちゃ!!」

慎弥「唯?」

唯「圭吾さんにそんな事はさせない……!!皆!、行こう!!」

慎弥「唯……わかった!!……行こう!」

修一「早く行こう!手遅れになる前に!!」

律「ああっ!!」

漣「…うん!!」

紬「ええっ!!」

梓「はいつ!!」

皆一斉に音楽室を飛び出す

梓「…先輩……早まらないで……!!」

圭吾「……」スタスタスタ……

果たして圭吾を止められるのか!?!続きは次号!!お楽しみに!!

# 1 1 阻止

圭吾「一年三組……ここか……」

ガラッ…

圭吾「邪魔するぞ……」

女子A「!？」

女子B「あの……何か用ですか？」

圭吾「…少し聞きたいことがある……二組の中野 梓って知ってるか？」

女子A「梓ちゃんですか？梓ちゃんがどうかしたんですか？」

圭吾「梓のギターが盗まれたんだ……もしかしたら盗んだ奴が三組の奴かも知れないからな……」

女子A「なんで三組何ですか？」

圭吾「梓に前々からしつこく付きまとってた奴が三組の奴らしいんだ……」

女子B「…もしかしたら……飯田君かも……」

圭吾「誰だその飯田って？」

女子B「うちのクラスの……問題児です……自分の物を手に入れる

ためなら……手段を選ばない人です……」

圭吾「……そいつは今どこにいる？」

女子A「……多分……体育館裏でタバコを吸ってると思います……」

圭吾「……そうか、ありがとう……」

女子A「……あ、あの……この事は……言わないでもらえますか……？」

圭吾「……勿論……言わないよ……」

女子A「ありがとうございませ……」

圭吾は勢い良く教室を飛び出した

しげらくして……

梓「ここです！……」

慎弥「圭吾！……」

修一「……いねえ……」

女子A「あつ、梓ちゃん！……どうしたの？」

梓「ねえ！ここに片山先輩が来なかった！？」

女子A「片山先輩？」

律「ほらっ！あの……眼鏡かけてて背が高いノッポ！！」

女子A「あの人なら体育館裏に行きましたよ？」

慎弥「まずい……！！」

修一「……あいつ謹慎だけじゃすまねーぞ……」

律「とっ、とにかく！！体育館裏へ急ぐぞ……」

梓「ありがとう……！！」

女子A「あつ、ちよっ……」

女子B「……行っちゃった……」

女子A「……さっき来た人……どこかで見たことあるかも……」

女子B「一番最初に来たあの人？」

女子A「……うん……でも気のせいだと思うけど……」

女子B「きつと思いだよ……」

女子A「……そうだといいんだけど……」

~~~~~体育館裏~~~~~

男子A「…うまくいったな！」

男子B「ああ、ちよろいもんだったな!!！」

飯田「これで中野 梓も懲りたたる……」

男子A「しかしお前のやる事は大胆だな」

飯田「俺はどんな手を使ってでも中野を自分の女にする……手段は選ばない……」

男子B「それでもまだ中野が懲りてなかったら？」

飯田「次は……部室を襲撃するさ……」

男子B「お……怖いねこの人は」

圭吾「……おい……」

3人「!?!」

男子A「誰だ!!！」

圭吾「二年三組の……片山圭吾だ……」

飯田「…先輩が何の用すか？」

圭吾「お前らが今回の窃盗の主犯か？」

飯田「…何言ってるんすか？何で俺らが窃盗の犯人なんすか？」

圭吾「とぼけるんじゃねー……そこから聞こえたんだよ……お前らが梓が懲りてなかったら部室を襲撃するってな……！！！」

飯田「…聞かれちゃしょーがねー……先輩、悪いですけど……しばらく病院で生活してください……」

男子B「…片山圭吾……まさか……！！！」

飯田はそこにあつた鉄パイプで圭吾に殴りかかってきた！！

飯田「死ねー！！」ブンツ！

男子B「よせっ！！飯田！！！」

圭吾「……」

圭吾は飯田の攻撃を軽く交わし、素早く飯田の腕を掴んだ

飯田「くそっ！！はなしやがれ！！！」

男子B「間違いない……！あいつだ……！桜ヶ丘第一中の鬼神だ……！」

男子A「鬼神！？」

男子B「…やべえ……！俺達はとんでもねえ化け物を敵にまわしてしまった……！！！」

圭吾「…てめえらは俺を完全に怒らせた……死ぬ覚悟は……出来て

んだらうな……!!?」

男子A「マジでやべえよ……!!目が完全にいかれてる……!!」

男子B「……おいっ!!逃げるぞ!!」

男子A「ああっ!!」

飯田「おいっ!!お前ら!!俺を置いて行くな!!」

圭吾「……あんなカス共……ハナから眼中にねーよ……飯田……おめえ……結構クラスでは悪ガキらしいな……そのクソ曲がった根性たたきなおしてやる……覚悟しろや……!!」

飯田「まっ、待ってくれ!!俺の負けだ!!盗んだ物は皆体育館倉庫に隠してあるっ!!頼む!助けてくれ!!」

圭吾「……」

俺は飯田の腕を放した

飯田「……!?!」

圭吾「……行け」

飯田「えっ?」

圭吾「……聞こえなかったのか……行けといたんだ!!」

飯田「はっ、はい!!すみませんでした!!」

圭吾「…わかつたら行け…」

飯田「はいっ!!」

圭吾「………」

すると

慎弥「圭吾!!」

圭吾「どしたの?皆さんお揃いで?」

修一「お前がまた暴力事件を起こすんじゃないかって止めにきたんだよ!」

圭吾「おいおい、いくら何でも一個下にそんな事しねーよ!」

修一「だからよけいに危ないんだよお前は!」

慎弥「お前はキレたら何するかわかんねーから皆で止めにきたんだ!とにかく皆に謝れ!!」

圭吾「…皆さんお騒がせしてすみませんでした…」シュン…

律「…まっ、とにかく何もなくてよかった…」

澪「心配かけて……全く……」ハア……

唯「よかった〜」ホッ…

紬「本当です……」ホッ…

梓「全くです……」ホッ…

圭吾「…けどさすがに桜ヶ丘第一中の鬼神で言われた時はやばかったな〜」

唯・紬・梓「鬼神!？」ガビーン!

律「…あの…漣が……」

漣「こわくないこわくないこわくないこわくないこわくないこわくないこわくないこわくないこわくないこわくないこわくないこわくない」ブルブル

圭吾「ありゃ…」

律「それ禁句じゃなかった？」

圭吾「そうだっけ？」

慎弥「やれやれ……」

修一「盗んだ物はどこだ?圭吾?」

圭吾「体育館倉庫にあるらしいぜ?」

……修了式当日……

圭吾「おーす……」

男子A「おい、片山！なんか一年坊がお前に用があるらしいぜ？」

圭吾「？」

飯田「片山の兄貴！おはようございますっ！ー！」

男子A・B「おはようございますっ！ー！」

圭吾「！？」

飯田「兄貴！この前は失礼なことをしてすみませんでした！ー！」

男子A・B「すみませんでした！ー！」

圭吾「いやっ……あの……」

飯田「あっ！こいつらの名前まだ言っていなかったすね！？お前ら！自己紹介しろ！ー！」

男子A「嵯峨 京助です！！よろしく願いしますっ！兄貴！ー！」

圭吾「……あの……兄貴って呼ぶのやめて……恥ずかしいから……」

男子B「伊川 孝太郎です！！兄貴！よろしく願いします！ー！」

圭吾「…人の話聞いている？」

飯田「改めて、飯田 友成です！！これからも兄貴についていきま  
すっー！！」

圭吾「だから兄貴って言うなー！！」ブンッ！

飯田「ぐふっ！？」

圭吾「…たくっ……………」

飯田「…さすが桜ヶ丘第一中の鬼神で言われていただけはある……………」  
ムクッ…

女子A「鬼神！？」

男子A「今桜ヶ丘第一中の鬼神で言わなかったか？」

ざわざわ……………」

圭吾「わっっ！！！！」

飯田「ムグッ！？」

圭吾「友成！今の言葉は禁句だっ！」ヒソヒソ

友成「？」

圭吾「皆！なんでもないよ！？」

男子A「なんだ？冗談かよ？」

圭吾「そっ！ジョーク！」

京助「何で兄貴あんなに焦ってんだ？」

孝太郎「さあ？」

友成「あつ！中野だ！！お前ら！護衛に行くぞ！！！」

2人「了解！」ダッ

圭吾「やつ、止めてくれ！！」（泣）

なんか余計なもんが増えた……………

## # 12 修一の家

……朝はいろいろあったが、午前中に修了式が終わり、明日からは長い長い夏休みが始まる……

慎弥「……やっと終わった〜!!……あのハゲ校長……話長いんだよ……!!」

修一「まあまあ」

圭吾「慎弥は話を聞くのが昔から苦手だからな」

慎弥「やかましいわ!!」

修一「圭吾、お前来るのか?」

圭吾「姉貴からOK出たから行かせてもらっわ」

修一「よしっ……じゃあとでお菓子買いに行こーぜ!!」

圭吾「おっ!!いいね〜!!」

慎弥「でも金は?」

修一「親父から貰った」

慎弥「いくら?」

修一「ほいつ」

圭・慎「……うおーい!!?」「ビシッ!

修一「!? 何すんだよ!!!」

圭吾「そんな大金学校に持って来るな!!!」

慎弥「圭吾の言うとおりだ!馬鹿かお前は!!!」

修一「……」「シュン…

律「おーい!!!」

圭吾「なんだ……律かよ……」「ハア…

律「悪かったな私で!!!」

圭吾「……で?何のようだ?」

律「ああ、今日修一の家に泊りに行くんだろ?」

圭吾「ああ……」

律「……場所わかんないだよな……」

圭吾「……しよゝがねゝな……わかったよ……一緒に行ってやるよ……」

律「だって!!みんな……!!!」

圭吾「はいつ？」

唯「でかしたっ！りっちゃん隊員！！」

漣「やる事が大胆過ぎだ！全く……」

梓「全くですっ！！」

紬「りっちゃんかっこいいわ……」

圭吾「……うそだ……！！！」

慎弥「……ドンマイ！圭吾！！」

圭吾「……慎弥……お助け……（泣）」

慎弥「修一、帰るっぜ……？」

修一「ん……」

圭吾「おいっ！……ちよっ……！！？」

………最悪だ………

律「じゃっ、案内宜しく……」

圭吾「……電車代は自分達で払えよ……」

律「そこを何とか……」スリスリ

漣「調子に乗るなバカ律!!」バコッ!

律「あうっ!?!」

圭吾（ナイス漣……）

律「冗談だよ……」

……俺は漣に助けられ、一旦家に戻って荷物をまとめ、駅で待ち合わせをした……

圭吾「みんな揃ったか?」

5人「はい」

圭吾「よし、じゃあ行くか!」

……電車で揺られること10分、修一の住む町に着いた……

律「ここか……」

圭吾「修一の家まで少し歩くぞ」

唯「疲れた……」「フニャ……」

梓「唯先輩!!しっかりして下さい!!」

紬「唯ちゃん!しっかり!!」

圭吾「あいつ……そうだ!!」

圭吾「唯っ、修一のウチに行ったらお菓子山ほどあるぞ?」

唯「！！」シャキーン！

梓「！？」

紬「唯ちゃん……？」

唯「圭吾くん！！早く行こう！！」

律「圭吾……」

漣「相当な悪だな……」

圭吾「ここだよここっ！！」「トントントン

律「さつきから思ってたんだけどさ………何でギター持ってきてるんだ？」

圭吾「さあ？」「フフッ

律「教えるよっ！！」

圭吾「まあ楽しみにしとけ！」

律「ぶー……」「ブスー……

紬「なんだろうっ……？」

梓「さあ……？」

……しばらく歩くと、修一の家に着いた……

圭吾「ここ」

5人「……」

律「……あの……圭吾……ここ修一の家なのか？」

圭吾「そっ！」

透「圭吾……道間違えたんじゃないか？」

圭吾「何回も遊びに行ってるのに何で道間違えんだよ！」

唯「おつきい家だね……！でもムギちゃんの家はこの家の倍大きかったよね」

圭吾「はいつ！？」

紬「そんなこと……」

律「ムギの家もかなりでかいよな」

透「あの時は迷子になりそうだったよ……」

唯「私なんかあの時トイレに行く時道に迷って5分もかかったよ」

梓「確かに……あの時は何回迷子になったか……」

紬「……あの……そろそろ……」

圭吾「あっ、ああ！！そうだったな！！（ムギの家は宮殿かよっ！  
？）」

ピンポーン……

『はい』

圭吾「来たぞ〜修一〜」

『おうつ！来たか！今開けるよ！！』

修一「みんな、いらっしやい！！さあ入って！」

6人「お邪魔します！！」

圭吾「修一、慎弥は？」

修一「あいつなら少し遅れるって」

圭吾「ふ〜ん……まあいいや……」

修一「じゃあみんなついてきて！」

圭吾「NSXにベンツ……レクサスと……またお前のおじさん車買ったのか？」

修一「ああ……もういらぬのに……あの馬鹿親父は……」ハア……

圭吾「しかもNSXってこれ高いんじゃないのか？」

修一「確か……一千万はしたって聞いた」

6人「一千万!?」ガビーン!

修一「さすがに母さんあの時はカンカンだったな……」

圭吾「いやそりゃおばさん怒るよ!!!」

5人「うんうん」ナツトク

修一「まあそれは置いて、リビングに行こう」

6人「あつ、うん……」

~~~~~リビング~~~~~

漣「わ~~~~トロフィーがいっぱい……」

梓「これ全部高山先輩のお父さんのトロフィーですか？」

修一「うん、そっちがF3のチャンピオン獲った時のトロフィーで……それがフォーミュラ・ニッポンのチャンピオン獲った時のトロフィー、そしてこれがF1で優勝した時のトロフィー……まっ、いろんなレースで優勝した時のトロフィーがあるよ」

律「すげ~~~~」

紬「す~~~~」

唯「修一くんはレーザーにならないの？」

修一「…俺こーゆー危ないのはちょっと……親父レースで何回か死にかけてるから……」

唯「そっか……ごめんね変な事聞いちゃって……」

修一「ううん！気にしないで！」

律「なあ修一く、これなんだ？」

修一「ああ、それは風呂沸かす時に使うスイッチなんだ！」

律「へ〜」

修一「例えばこんなふうに……」ピッ

修一「あれっ？」ピッピッ

律「どうした？」

修一「…みんなごめん……風呂壊れてる……」

6人「え〜っ!？」

律「夜どうすんだよ!？」

修一「この近くに最近新しいスーパー銭湯みたいなのができたから……そこに行くしかないな……」

圭吾「おいおいマジかよ……」

修一「みんなごめん!……」

律「まっ、しょうがない……今夜はそこに行くしかないか……」

紬「私銭湯に憧れてたの……」

圭吾「ムギ、憧れるもんじゃないぞ」

漣「銭湯か……」

唯「楽しみ……」ワクワク

梓「銭湯か……初めてだな……なんか緊張します……」ドキドキ

圭吾「なぜ緊張!?!」ガビーン!

風呂壊れてるって………最悪じゃん………

### #13 カルピス!?

律・唯・圭吾・慎弥「ほげ……」

漣「つておい!!リラックスしすぎだろ!!そして慎弥!いつの間に来たんだよ!!」

慎弥「ん〜?……さっき……」ダラ〜ン

唯「……涼しくて……もうここから動きたくない……」

圭吾「……漣……せっかくの休みなんだから……少しくらいダラダラさせてくれ……」

律「……右に同じ……」

漣「いつもダラダラしてるだろ!?!」

圭吾「……」ムス……

唯「あれっ?ムギちゃんとあずにゃん……寝てる……2人とも寝顔……かわい……」

紬「……フフフフ……ゲル状がいいの……」スヤスヤ

梓「……フニャ……」スヤスヤ

漣「ゲルツ!?!そしてフニャ〜つて!?!」  
ガビーン!

律「写真撮っちゃあ〜！」

唯「やめなよ〜可哀相だよ〜」「ニヤニヤ

律「思い出思い出!!」「スッ

パシヤッ……

紬「……!あっ、ごめんなさい!~!」

梓「……マタタビ……ふわっ!?!ここはどこ?」

圭吾「おい」

慎弥「今記憶喪失がいたぞ」

梓「…あれっ、高山先輩は?」

律「そーいやさっきからいないな〜……」

ガンガン!!

誰かがドアを叩く音がした……

律「唯、開けてあげなよ」

唯「うん〜」

ガチャ……

漣「修一！どうしたんだよ！ホコリだらけじゃないかー！」

修一「ゲホツゲホ……いや、ちょっとジュース探してたら……荷物  
が落ちてきて……」ハハハッ……

漣「笑い事じゃないよっー！」

修一「！？ 漣に怒られた（泣）」

唯「よしよし」

圭吾「で、なんのジュースなんだ？」

修一「ん〜と……カルピス！」

慎弥「カルピスか〜…久々だな〜……」

律「早く飲もう飲もうー！」

修一「わかったわかったー！今コップに入れるから待ってるー！」

慎弥「修一〜、頼まれたお菓子買って来たぞ〜？」

修一「サンキユー、そこに置いてー！」

修一は缶に入ったカルピスをコップに次々と注いでいく……しかし、  
この後とんでもない事が起きるとは誰も予想しなかった……

律「よしっ！じゃあ軽音部部长、田井中 律より一言もうしあげま  
s……」

圭吾「いただきま〜す」 無視

律「また無視っ!?!」ガビーン!

圭吾「冗談だつて!!」

律「…………たくっ…………まっ、仕切りなおして…………かんぱ〜い!!」

7人「かんぱ〜い!!」

ゴクツゴク…………

圭吾「ゲホツゲホ!!おい!これ酒だぞ!?!」

慎弥「…確かに…………これ酒だ…………」

修一「そんなはずは…………」

修一は空き缶を見る…………

修一「…………あつ、カルピスはカルピスでも…………これカルピスサワーだ…………」

圭吾「おいっ!みんなこれ飲むな!!」

そういつた俺だったが、こいつらは手遅れだった…………

律「あらっ、どうされましたの?」ヒック

唯「なんだてめ〜!やんのか〜!?!」ヒック

漣「つーかーれーたー！ー！おんぶしてー！ー！」ヒック

紬「あらあゝ？あなたたち、犯されたいの？」ヒック

梓「にゃ……………」ヒック

圭・慎・修「……………」

圭吾「慎弥……………なんとかしろよ……………」

慎弥「俺に言うな……………」

修一「最悪だゝー！」「ガシガシッ

圭吾「どうすんだよ……………これ……………」

慎弥「…しばらく酒が抜けるまでは……………この状態だな……………」

圭吾「律はお嬢様化、唯は一昔前のヤンキー……………、漣は幼児化、ムギは……………こんな事言ったらこの小説削除されちまう……………、梓は……………猫……………か？」

慎弥「…大体そんな感じだ……………」

漣「しゅーいちー！おんぶしてー！ー！……………」

修一「えっ、ちよっ……………あの……………いやゝー！……………」 逃走

ガチャンー！……………」

圭吾「おい……」

慎弥「ああ……」

圭・慎「逃げる!!」

逃げようとしたが、誰かに足をつかまれた

圭吾「!?!」

梓「にゃ〜!!」ガシッ

慎弥「!?!」

律「逃がしませんわよ?」ガシッ

前からも唯とムギが迫ってくる!!

紬「どんなふうに関されたいの?」ヒック

唯「へっへっへっへっ……」ヒック

絶体絶命!!その時!!

修一「おいっ!圭吾、慎弥!今助けるぞ!!」

修一の手にはハリセンが握られていた……

圭吾「ハリセンなんか持ってきてどうすんだよ!!」

慎弥「そうだよ！…どうすんだよ！！」

修一「気絶させる…これしかない！！！」

圭吾「なんでもいいから早くしてくれ！！！」

修一「ラジャ…！」ダツ！

修一「せいっ！」バチンツ！！

律「ふげっ！？」

澪「ぬぐっ！？」

唯「ぶえっ！？」

紬「おげっ！？」

梓「ふぎゃっ！？」

ボタン…

圭吾「たっ、助かった…」

慎弥「修一が助けに来てくれなかったら…俺達何されてたか…」  
ソツ…

修一「カルピスサワーの事は…黙っておいた方がいいな？」

圭・慎「うん」「コケッ

修一のおかげでえらい目にあっただが、とりあえず助かった……

30分後……

律「あれっ？私何してたんだ？」

唯「なんか頭痛い……」

漣「私も……」

紬「気持ち悪い……オエ……」

梓「私もです……オエ……」

漣「なあ、何かあったのか？」

圭・慎・修「いえ、何も」

……これ言ったら確実に漣のゲンコツくらつに決まってる……

現在時刻は午後5時……そろそろいい時間帯だ……

#14 スーパー銭湯

圭吾「……そろそろ行かないか？」

慎弥「……もうそんな時間か……」「フワ……」

律「zzz……」グーグー

唯「zzz……」スースー

修一「……寝てやがる……」

漣「……全く……仕方ないな……」ハア……

圭吾「……そうだ！」

圭吾「修一！わさび持ってきてー！」

修一「なんで？」

吾「いいからいいから」

そして……

修一「ほらよ」ポイツ

圭吾「サンキュ」

漣「…いやな予感が……」

梓「先輩……また何か企んでますね？……」

紬「圭吾さんったら……」

慎弥「こいつまさか……」

そのまさかだ……俺はわさびを律と唯の鼻の下に塗り付けた……

律「！」「ガバッ

唯「！」「ガバッ

律・唯「\$ & a m p ; @ \* # \$ % ¥ ! ~」

楽しい……

漣「……」

梓「……」

紬「あらま……」

律「…ぶはっ！！誰だ！こんないたずらしたのは！！？」

唯「ひりひりするよ」（泣）

律「一体誰が……」

みんなは一斉に俺を指差した……

圭吾「!?!」

律・唯「圭吾<sup>くん</sup>?!?!」

圭吾「いや……その……ちょっとお待ちを……ぎゃ〜?!?!」

漣・慎・修「ばか……」

梓「やる事が低レベル過ぎます……」

紬「りっちゃんと唯ちゃんの驚いた時の表情……可愛かったわ〜……」  
「ハア……」

梓「ムギ先輩、しっかりして下さい」

俺はこの後律と唯にぼこられた……

そして、俺達は近所のスーパー銭湯に向かった……

〜〜某スーパー銭湯〜〜

律「うは〜!!……でっかいな〜!!……」

唯「おつき〜な〜!」キラキラ

漣「これが……銭湯……」

紬「私銭湯に憧れてたの〜!!」ワクワク

梓「いまどきの銭湯は食堂もあるんですか？」

律「梓、お前はオバサンか!？」「ビシッ!

梓「あうっ!？」

慎弥「律の奴……死んだな……」

修一「うん……」

圭吾「……」

ガシッ!!

律「ふえっ?」

圭吾「律……ちよつと……」

律「ちよつ、ちよつと〜!?!?助けて〜!?!」

……しばらくして……

律「……もうお嫁に行けない……」「ヨヨヨッ……」

圭吾「何も変な事はしていないからな!!(汗)」

6人「あ、うん」コクン

慎弥「……と、とにかく!早く風呂に入ろう!」

漣「そ、そうだな！入ろう入ろう！！（汗）」

紬「さ、さんせ〜！！（汗）」

唯「…ははは…」 苦笑

修一（唯の奴……軽く引いてるし……）

梓（唯先輩……）

……変な空気になったまま男子は男風呂、女子は女風呂に向かった  
……

~~~~男風呂~~~~

圭吾「お〜…広いな〜……」

慎弥「…しかもサウナまであるとは……」

修一「すげ〜な〜……」

圭吾「…なあお前ら……」

慎・修「？」

圭吾「サウナで我慢比べしないか？」

慎弥「…何を言い出すかと思えば……くだらん……」

修一「そんな小学生レベルみたいなもの……誰が……」

圭吾「なんだ？腰抜けかお前ら？（笑）」

慎・修「カッチーン！！」イラッ！

慎・修「…誰が腰抜けじゃー！！！」ウガー！

圭吾「お？」

慎弥「おもしれー、やってやるよ！」

修一「腰抜けじゃねー所を見せてやる！！！」

圭吾（上手く食い付いた！……よし……）

圭吾「じゃあ最後まで残った奴にコーヒー牛乳2つな！！！」

慎・修「オツケー！！！」

圭吾「……じゃその前に体洗ってからにしよう！！！」

慎・修「！？」スッテーン！！

圭吾「…？何転けてんの？」

慎弥「いや……すぐやるもんだと思ってたから……」

修一「あまりの事で転けてしまった……恥ずかしい……」

圭吾「…？」

~~~~女風呂~~~~

律「よーしー泳ぐぞー！！！」

唯「おーっ！」

漣「こらこら！他の人に迷惑だろ？」

梓「そうですねよ！」

律「ちえーっ！」ブー

唯「つまんないの〜！」ブー

紬「…ねえ皆！あそこにサウナがあるわよ？みんなで入らない？」

律「おっ！でかしたムギ！」

唯「サウナサウナ〜！」ワクワク

漣「おいおい、先に体洗ってからだぞ？」

律・唯・紬「は〜い」

漣「全く……………」

梓（あたし暑いのが苦手なんだよな〜……………）

……………一方、男風呂はというと……………

圭吾「…おい……………別に我慢しなくてもいいんだぞ？」

慎弥「心配しなくても……………まだまだ余裕だぜ俺は……………？」

修一「……………遠慮しないで早くリタイアしたら？」

圭・慎「あんっ!?!」

……このさまである……  
……女風呂の方はというと……

律「あぢ〜……」

唯「体がと〜け〜る〜……」

漣「あ、暑い……」

紬「暑い〜……」

梓「…あ〜いいです〜……」

律「…もう無理!」

唯「あたしも〜!」

漣「はやっ!」ガビーン!

梓「私も……リタイアです」

紬「私も〜……」

漣「えっ、ちよっ!」

漣「……」ポッーン……

漣「私も〜!」ウワーン

女子の方は余計な事を一切せずに風呂から上がった…  
律「はー……いい湯だった〜！」

唯「楽しかった〜！」

紬「本当ね〜！」

漣「しかし……圭吾達はまだなのか？」

梓「…確かにおそいですね…」

すると

圭吾「おいしっかりしろ！」

慎弥「だから意地張るなって言ったのにー！」

修一「う〜……」グタ〜

漣「なっ……どうしたんだよ!？」

慎弥「あの……サウナで我慢比べしてたら……こーゆー事になりまして……」

圭吾「その通りです……」

修一「…コーヒー牛乳………ゲットだぜえ〜……」

律「何そのポケモンゲットだぜ〜みたいな言い方」ガビンン!

梓「全く何してるんですか!ー!」

圭・慎・修「……ごめんなさい……」シュン……

唯「あつ、あずにゃん落ち着いて……」

梓「これが落ち着いていられますか〜!〜!」ウガー

圭吾（梓の奴キレちゃったよ………ん？）

ポケットに手を入れると何故かあめ玉が入っていた……

圭吾（そうだ!）

圭吾「梓〜!」

梓「何ですか!?!」

俺は素早く梓の口の中にあめ玉を放り込んだ

梓「んむっ!?!」

漣「何をしたんだ?」

圭吾「あめ玉放り込んだ」

律「そんなんでも梓が落ち着くわけ……」

梓「ほへ〜……」

律・漣「落ち着いてる〜!?!?」ガビーン!

そこに唯が梓に抱きつき、梓は一応落ち着きを取り戻した……

~~~~~帰り道~~~~~

圭吾「…コンビニ寄りしたい……そしてアイス買いたい……」

漣「あと少しだから我慢しろ!」

唯「ア〜イ〜ス……」

漣「唯も!?!」ガビーン!

圭・唯「ア〜イ〜ス……」

漣「…わかったよ!!仕方ないな……」

~~~~~コンビニ~~~~~

店員「いらっしやいませえ〜!」

慎弥「お〜涼し〜!……」

圭吾「…ちよつとトイレ……」

律「なんだ?ウンコか(笑)?」

圭吾「?」

律「いでえっ!?!」

透「…ばか律…」

唯「りっ、りっちゃん…(焦)」

紬「お気の毒…」

梓(うわあ…痛そ…)

慎弥(ドンマイ律)

修一「今のは律が悪いな」

ガチャ……ボタン……

圭吾「…おい作者……」

作者「はい？」

圭吾「…俺のポケットにめ玉入れたのあんたか？」

作者「はいそうです……あっ、お代は後で請求しておきます」

圭吾「なぬっ!?!?それぐらい持つてくれたって……」

作者「それじゃっ」スッ

圭吾「おいっ!?!?ちよっ……!?!?」

圭吾「…くそっ……」

ガチャ……

慎弥「遅いぞ〜！」

圭吾「…わりい…」

律「ほら〜！やっぱりウン」……」

圭吾「？」

律「うゝ あいでえっ!？」

6人（…痛そ〜）

圭吾「…で？皆アイス買ったの？」

慎弥「…ん？あつ、ああ！それなんだけどこの際おっきいの買ってそれをみんなで食べようって話になってんだけど……圭吾は？」

圭吾「それでいいよ……アイスさえ食べりゃ何でもいい……」

7人（適当だ〜!!）ガビーン！

圭吾「…あつ、エロ本…」スッ

慎弥「やめんか〜!!？」「ビシッ！」

圭吾「…いてっ!!……わかったよ〜……」ブー

そして俺達はアイスを買って修一の家に戻った……

# 15 喧嘩

… 銭湯から帰って来た俺達は晩飯を作る気力が無かったので出前を取り、食後は買ってきたアイスを食べトランプをして遊んだ…

圭吾「…トランプもそろそろ飽きてきたな…」修一「また地下室使わせてくれないか？」

修一「おう、いいぞ」

唯「地下室？」

圭吾「ああ、この家にでっかい地下室があるんだ」

修一「そんなにでかくないって…」

慎弥「いやかなりでかいから」

梓「どれくらいの広さ何ですか？」

修一「え〜っと…ちょっと口で言うのは難しいな…」ハハハッ…

梓「口で言えないほど広いんですか!？」ガビーン!

慎弥「まあ直接見たほうが早いな」

圭吾「ああ」

梓「…なんか……凄く楽しみです!!」ワクワク

律「…なんか……修一の家はすげーな」……

唯「うん」

漣「ああ……」

紬「ええ……」

~~~~~地下室~~~~~

律・唯・漣・紬・梓「広っ!!」

圭吾「さーて!!おもいつきり弾くぞ!!」

慎弥「いくら地下室だからって音量は加減しろよ?」

圭吾「わかってるって……あつ、ちよつと待ってて!!」

圭吾は一旦一階に戻り銀色のケースを持ってきた……

圭吾「……へへっ こいつを使う日がとうとうやってきた」

ケースの中身は沢山のエフエクタが入っていた……

梓「先輩それどうしたんですか!?!」

圭吾「どうしたって?買ったに決まってるじゃん?」

漣「これ高いんじゃない?」

圭吾「結構高かったよ、これを買つたために何か月苦労したか……」

唯「すごい……」

梓「これ使つてる人あまり見たことないです……」

圭吾「よし……これを繋げて……準備完了」

修一「じゃアンプの電源入れるぞ？」

圭吾「おー」

パチンッ

圭吾「……ちよつと真面目に弾いてみるわ……」キリッ！

梓（先輩の目付きが変わった……）

ギューーーーーン……！！

7人「……！！」「ビクッ！

圭吾はプロ顔負けのテクニックをみんなに見せた……

圭吾「……とまあこんな感じかな……」

7人「……」ポカーン……

圭吾「……てっ……あれ？皆さん！？どしたの！？」

慎弥「……いや……本当にお前は凄いよ……」

修一「……鳥肌たった……」

律「……プロでいてもおかしくないぞ……」

唯「……凄いしか出てこない……」

漣「……空いた口が塞がらないというのはまさにこの事だな……」

紬「……キラキラ」

梓「……すっ、凄過ぎる……」

圭吾（……なっ、なんか変な感じになっちゃったな……）

修一「……なっ、なあ！後何カ月かで学園祭だろ！？曲どうすんだ？」

律「……そうだ……そろそろ学園祭の準備にも取り掛からないと……」

唯「でも誰が曲書くの？」

律「それは……」ジー……

漣「ふえっ！？あっ、あたしは無理だよ……」

慎弥「でも去年漣作詞したじゃん？」

澪「でっ、でも……」

唯「澪ちゃん！ー！お願いっ！ー！」 小動物みたいな目で見る

澪「うっ！」

圭吾「澪……やるしかないぞ……」ポンッ

澪「うう〜……わかったよ〜……やるよ〜……」シヨボン

今年の学園祭のライブの曲はまた澪が書く事になった……

しばらくして……

修一「肝だめしをしよー！」

律・唯・紬「おーっ！」

澪「ええっ！？」ガビーン！

梓「肝だめしですか……」

慎弥「またあの山ですんのか？」

修一「勿論！」

圭吾「勘弁してくれ……」

澪「あっ、あたしはやらないからな！？」

律「あれえ〜？3人共怖いんだ〜（笑）」

漣・圭吾・慎弥「カッチーン！！」イラッ！

漣「そんなもんにあたしは怖がったりしないよ！！」

圭・慎「やってやるよコノヤロー！！」

律・修（成功）

……そして……

修「じゃ〜同じ番号になった人とペアを組んでこの山の頂上にテ  
ーブルがあるからそこにこの紙を置いてくること！」

律「唯！頑張るぞ！」

唯「ラジャー！」ビシッ！

紬「頑張りましょ、漣ちゃん」

漣「うっ、うん……」

圭吾「……まっ、偶然ってのもあるんだな……頑張るか……！」

梓「……はい（先輩で良かった）……」

慎弥「……俺らついてないな……」ガックリ

修一「……ああ……」ガツクリ

一組目は慎弥・修一ペア

慎・修「……行ってきま〜す……」

~~~~~数分後~~~~~

慎・修「……ただいま……」

圭吾「テンション低っ!!」「ガビーン!

二組目、漣・紬ペア

紬「行きましょ」

漣「うん……」

~~~~~数分後~~~~~

紬「……もう着いてもいい頃なの……」

漣「……まさか道間違えたんじゃない……」

紬「そんなはずはないわ!地図ど通りに来てるもの……きつとまじつすぐよ!頑張りましょ!」

漣「……………」

「……さらに数分後……」

漣「……………」 やっぱり道を間違えたんだよ！……………どうしよう……………！！  
あたし達どうなるの！？」

紬「……………」 ごめんなさい……………」

漣「謝って済む問題じゃないよ！！」 イライラ

紬「……………」

漣「……………」 とにかく今は降りる事だけを考えよう……………」

紬「……………」 うん……………」 漣ちゃん……………」 本当にごめんなさい……………」

漣「だから謝らないでって言ってるだろ！？」

紬「……………」

……………」 一方、圭吾達は漣とムギの帰りがあまりにも遅いので少し心配  
になってきた……………」

圭吾「……………」 いくらなんでも遅いぞ……………」

律「……………」 まさか道に迷ったんじゃない……………」

唯「まつ、まさかそんな……………」

梓「一応警察に連絡した方が……………」

修一「いやっ、その必要はない……………」 この山はそんなに広くないから  
すぐにふもとに降りられる……………」 もう少し待とう……………」

慎弥「……………」

修一がそう言った時、漣とムギが戻ってきた……………」

律「漣！遅いぞ？何やって……………」

漣「ごめん先帰って寝る」スタスタ

律「！？」

圭吾「おい漣！！」

唯「漣ちゃん！？」

梓「漣先輩！？」

慎弥「？」

修一「どうなってんだよ……………」

圭吾「おいムギ！なにがあったんだよ！？」

紬「……………うっ……………ひっく……………」

圭吾「ムギ？」

紬「……………うわ……………ん！！！」ガバツ！

ムギは泣きながら圭吾に抱きついた……………」

圭吾「！！！？おいどうしたんだよ！！！」

俺はどうしたらいいか分からなかった……

梓「ムギ先輩！？一体何があつたんですか！？」

梓はムギの背中を優しく撫でてムギを落ち着かせようとしていた……

紬「……ヒック……ヒック……」グスッ

圭吾「……とりあえずベンチに座ろう、なっ？」

紬「……はい……」グスッ

俺はムギをベンチに座らせた……

唯「ムギちゃん……澪ちゃんと何があつたの？」

紬「……実は……」

ムギは澪との出来事を全て話した……

紬「……」

圭吾「……ん〜……なるほど……それで澪が怒ったわけか……」

紬「……はい……私が道を間違えたせいで……」グスッ

梓「ムギ先輩……もう泣かないで下さい……これで涙を拭いて下さい……」スッ

紬「……ありがとう……」

律「……まさかこんなことになるなんて……」

慎弥「……ちよつとまずいな」

修一「……」

唯「ムギちゃん……」

圭吾「……そろそろ10時だ……もう帰るぞ……この事はまた明日にしよう……」

律「……」

唯「……」

紬「……」

梓「……」

慎弥「……」

修一「……」

俺達は無言のまま修一の家に戻った……

ガチャ……

圭吾「……漣は？」

律「……もう寝てた……」

圭吾「……ムギ、今日は梓と寝ろ……俺達の部屋を使え……」

紬「……でもそんな……」

圭吾「……いいから……もう今日は早く寝ろ……」

紬「……はい……」

梓「……」

圭吾「……俺らはリビングで寝るか……」

慎弥「……ああ……」

修一「……わかった……」

圭吾「じゃおやすみ」

律「おやすみ……」

唯「……おやすみなさい……」

梓「……ではお先に……おやすみなさい……」  
「ペ」  
「ッ」

紬「……おやすみなさい……」  
「ペ」  
「ッ」

圭吾「……」

圭吾「俺らも寝るか……おやすみ……」

慎弥「おやすみ……」

修一「……」

胸の中にモヤモヤを残したまま寢床に入った……

#16 仲直り!!

あの事が起きてから俺は一睡も出来ずに朝を迎えた…

~~~~~AM9:00~~~~~

梓「おはようございます…」

紬「…おはようございます………」

圭吾「…うーす………」

梓「…山河先輩と高山先輩は？」

圭吾「…コンビニに行った………」

梓「…そうですか………」

紬「………」

律「……おはよ………」

唯「…ふわぁ～……おはよ～………」

漣「……おはよう………」

圭吾「……おはよ………」

梓「おはようございます………」

紬「…おっ、おはようございます………」

紬「…あつ、あのね……漣ちゃん……」

漣「…あゝお腹減った！！律！一緒に朝ご飯食べよう！！」  
律「…あつ、ああ……」

唯「ムギちゃん、一緒に食べよう？」

紬「…う、うん……」

梓「……先輩、ちょっと……」

圭吾「ん？」

梓は圭吾を部屋の外へ連れ出した

梓「……先輩、漣先輩とムギ先輩を無事に仲直りにさせる方法はな  
いですか？」

圭吾「……そう言われても……今回ばかりは俺もお手上げ状態だよ  
……」

梓「……」

圭吾「……しかし参った……仲のいい2人がまさかこんなことにな  
るなんて……」

梓「…このままの状態が続いたら……」

圭吾「…そんな事させねえよ、何とんでも漣とムギを仲直りさせ  
る……！」

梓「先輩……！」

圭吾「大丈夫！！必ず仲直りにさせるって！」

俺は梓の頭を撫でた

梓「むう……」

……しかしなかなかそのタイミングを掴むのが難しく、とうとう昼になってしまった……

ピンポーン

修一「来たかな？……はい！」

『毎度どうも！！〇〇ガスです！！』

修一「どうぞ入って下さい！」

修一は2日連続銭湯はまずいと思ったらしく、修理を依頼したらしい……だからさっきコンビニに行ってATMから金おろして来たのか……

……そして……

男「じゃあ修理代は配線交換で〇〇円になります！」

修一「はいはい……じゃあこれ！」

男「ありがとうございます！」

ガチャン…………

修一「今夜から風呂入れるから安心して!!」

慎弥「……よかった……」

紬「……」

澪「……」

圭吾「……」

律「……」

唯「……もうやめてよ!! 2人とも!!」ガタンッ!

圭吾「唯!?!」

唯「2人ともそこに向かい合って正座しなさい!!」

澪「なっ、何でそんな……」

唯「いいから座りなさいっ!!」

澪「わ、わかったよ……」

唯「ムギちゃんも!!」

紬「…う、うん……」

唯は2人を向かい合わせに正座させると、意外な行動に出た

唯「それ〜！」「コチヨコチヨ！」

漣「ちよっ！唯っ！やめ…キヤハハハっ！〜！」

紬「ゆっ、唯ちゃん！…キヤハハハっ！〜！」

唯「ほら2人とも笑顔になった！！！」

漣「…！」

紬「…！」

漣「…ム、ムギ？…昨日はごめんね？…あんなに怒っちゃって…」

紬「…ううん！！気にしないで！！！」

漣・紬「…ふふっ！」「ギョッ！」

慎弥「まあこれで一件落着だな…」

律「うん…！」

修「ああ…」

圭吾「…しかし最初からこの仲直り作戦を考えていたのか？」

唯「？ ううん？」

圭吾「思いつきかよっ!?!」「ガビーン!

唯「えへへ」

梓「いや唯先輩それ誉められてないですよ!?!」「ガビーン!

……まあなんやかんやあつたけど漣と紬の仲を元に戻せたからよし  
としよう……

……そしてその日の夜……

修一「風呂湧いたぞ〜!」

律「誰から入る〜?」

圭吾「俺らは一番最後でいいぞ?なあ?」

慎弥「ああ、先に律達から入りなよ」

律「でもそんなら人も風呂に入れないだろ?」

修一「大丈夫だよ!客専用の風呂だから広いよ!」

律・唯・漣・紬・梓「客専用!?!」「ガビーン!

修一「早く入らないと冷めるよ?」

漣「…じゃあ先にあたし達から入らせてもらっつよ……」

圭吾「いつてらっつしゃ〜い」

唯「どんなお風呂かな〜」

律「楽しみだな」

……

圭吾「……行ったか……今のうちに……」

慎弥「ああ……」

修一「……」

圭吾はカバンから紙を取り出した……

圭吾「学園祭までには間に合わせないと……」

どうやら3人は学園祭に向けて曲を書いているようだ……

圭吾「ベースはこんな感じでいいか？」

慎弥「ここをもうちよいー捻りしたらいいと思う」

圭吾「ん……」

修一「ドラムもここをもうちよつと変えたらよくなると思うけど

……」

圭吾「曲作んのって難しいな……」

慎弥「溇もこれくらい大変だったのかな？」

修一「おそろくな……改めて溇はすげ〜って思うよ……」

漣「ヘックションー!!」

梓「漣先輩大丈夫ですか?」

漣「ああ、大丈夫だよ(誰かあたしの噂してるな……)  
律「おーし!突撃〜!!」

唯「お〜」

漣「はしゃくなっ!!?」ガンツ!

律「うう……なんであたしだけ……(泣)」

紬「よしよし」ナデナデ

梓「…と、とにかく入りましょうっ!」

ガラッ……

律「…すげ〜」

唯「おお〜」キラキラ

漣「ジャ、ジャグジー……」

紬「…(みんなと一緒にジャグジーに入る夢が叶った)」

梓「…なんか凄い泡出てますね」

律「…よし!あたしが一番だ〜!」ダツ!

唯「あつ！ずる〜い！！あたしも！！」ダツ！

澪「おいおい、走ったら危な……」

ツルツ！！

律・唯「！？」

ゴンツ！！

律・唯「八バツ！！」

澪「……」

紬「……？」

梓「……いつ、言ってる側から……？」

圭吾「……今なんかおっきな音しなかったか？」

慎弥「そうか？」

修一「気のせいだろ」

圭吾「……まあいいか……それより作曲作曲……」

唯「まだ頭が痛い……」

律「……あたしも……」

漣「走るからだ!」

律・唯「反省してます……」シヨボーン

紬「漣ちゃん!背中流してあげる」

漣「ムギったら……もう……」フフッ

梓（漣先輩とムギ先輩が無事仲直りしてよかった……）

……そして

唯「わ〜……星が綺麗だな〜……!」

律「ホントだ〜!」

漣「綺麗な夜空だな……」

紬「ロマンチックね〜」

梓「……あっ!流れ星!」

唯「えっ!?!どこどこ?」キョロキョロ

律「ばーか!もうその時点で遅いよ!」

唯「あ〜あ……願い事言いたかったな〜……」

紬「どんな願い事なの？」

唯「えつとね〜……美味しいものがたくさん食べられますようにって感じかな？」

律「つておい！ギターの方じゃないのかよ！」

唯「ふえっ？……なるほど！そつちもあつたか！」

漣「唯……？」

紬「……？」 苦笑

梓「ギターそつちのけつて……？」

律「……やれやれ……なんか怒る気力も無くなった……」

唯「えへへ〜」

律「いや褒めてないからっ！？」ガビーン！

……しばらくして

ガチャ……

律「ふ〜……いい湯だった〜！」

圭・慎・修「！？」サッ

律「？ どうしたんだよ？そんなにあわてて……」

圭吾「…いや別に〜?」

律「なんか怪しいな〜……」ジーン

圭吾「別に何もしてないって!なあお前ら!」

慎・修「おっ、おう!」

律「…圭吾、何年一緒だと思ってんの?あたしの目はごまかせないよ?」

圭吾「…うっ……わかったよ〜…」

慎弥「おい圭吾!」

修一「今はまずいだろ!」

圭吾「しゃーねーだろ!?!こいつに嘘ついてもすぐばれるんだからよ!〜!」

律「…で?何してたんだ?」

圭吾「…作曲してたんだよ……たくっ……夏休み明けに言おうと思っただのに………」

唯「作曲?」

圭吾「ああ、お前達には内緒で俺達3人で作曲してたんだよ」

律「へ〜……ちょっと見せてよ!〜!」

圭吾「ほれっ」スツ

律「どれどれ……」

律「……」プシュー

圭吾「つておい!？」ガビーン!

唯「あたしにも見せて〜!」

唯「……」プシュー

圭吾「唯も!？」ガビーン!

漣「どれどれ……確かにこれは難しいな……」

紬「確かに……」

梓「この曲……かなり忙しい曲ですね……」

漣「で圭吾、作詞もしたのか?」

圭吾「一応した……」

唯「作詞したの今日持って来てる!？」

圭吾「一応……」

律「じゃあ見せて見せて!!」

圭吾「ええっ!？」ガビーン!

律「だって持って来たってことはもう自信があるってことだろ?」

圭吾「…正直ないでs…」

律「唯！今すぐ圭吾のカバンを搜索しろ！」

唯「ラジャー！」「ビシッ！」

圭吾「えっ！？ ちよっ、まで……！」

ガシッ！

圭吾「！？？」

慎弥「…諦める、圭吾…」

修一「…年貢の納めどきだ……」

圭吾「……！お前ら、何して……！」

慎弥「だってこうしなきゃ暴れるから」

修一「そうそう」

圭吾「ちよっ……はなせ〜！」「ジタバタ

唯「りっちゃん隊員！！何やら怪しい紙を発見致しました！！」

圭吾（まずい……！）

律「でかした！！早速見てみよう……！」

圭吾「やゝめゝるゝ!」

律「えゝつと…なになに…曲名は…空の虹…」  
唯「おおゝ!？」

律「……………ええ歌詞やゝ!」

圭吾「なぜ関西弁!？」ガビーン!

唯「……………ほんまにええ歌詞やゝ!」

圭吾「だからなんで関西弁!？」ガビーン!

慎弥「…俺にもちよつと見せて」

律「ほらっ」スッ

慎弥「……………なるほどね……………いい歌詞じゃん……………」

律「だろっ!？」

修一「…俺にも見せて」

慎弥「ん」スッ

修一「……………へゝ……………いいじゃん……………」

湊「…ちよつと見せて!」

修一「ほいつ」スツ

紬「私にも見せて！」

梓「私も！」

漣「……」

紬「……」

梓「……」

漣（すつ、凄い！あたしの書いた歌詞が情けなくなってくる……）

紬「……はあ〜〜」キラキラ

圭吾（なんだ？何か視線を感じる……）

梓（片山先輩……凄いセンスの持ち主だ……）

律「ちよつと3人とも！！何固まってんの！？」

漣「…あつ！ごめんごめん！……この歌詞凄くいいよ……！」

紬「素晴らしいですわ〜……」キラキラ

梓「…何か鳥肌が……」

律「…みんなの評価はよかったことだし、学園祭はこの曲でいきな  
よ……」

圭吾「……その曲の事なんだけどさ……」

律「？」

圭吾「この曲はお前から5人に歌って貰ってもいいかな？」

律「あたしらが!？」

圭吾「うん……バックは俺達に任せてお前ら全員でボーカルをしてほしいんだけど……どうかな？」

律「あたしは別に構わないけど……」

唯「あたしもそれにさんせ〜!」ハイッ!

紬「私も〜」ハイ

梓「私も……それでいいです……（片山先輩の書いた曲が歌えるなんて……夢みたい……!）……」

律「澪は？」

澪「あたしは……その……」

律「ハイッ!決定な!」

澪「ひどいつ!」ガーン!

圭吾「じゃあ決定だな?」

律「ああ、楽しみにしとくぞー!!」

唯「凄く楽しみだな〜……どんな曲になるんだろ〜」

修一「じゃあ俺達も風呂に入ろうか」

圭吾「ああ……なんか……安心したら一気に疲れが増したよ………」

慎弥「眠たい………」フワァ〜

圭吾「さあ〜て……風呂だ風呂だ」

ガチャン……

漣「………」ジー……

圭吾の書いた歌詞を見つめる漣……

漣（あたしも負けてられない……頑張らなきゃ……!!）

その頃、圭吾達は……

圭吾「ぬは〜……いい湯だなあ〜………」

慎弥「……圭吾さあ〜、歌詞も作ってたんなら先に言ってくれよ〜

………」

圭吾「ごめんごめん」

修一「……………」ボへ〜

圭吾「……………」ん？修一の奴やけに静かだな……………」

修一「……………」zzz「グー……………」

修一「……………」ブクブク……………」

圭・慎「……………」沈んだー！！」「ガビーン！

そして次の日の朝、朝ご飯を食べ、俺達は修一の家を後にした……………」

……………駅……………

圭吾「あつちい……………」ジュース買お……………」

律「あたしも……………」

唯「今日は特に暑いね……………」パタパタ……………」

紬「暑いわね……………」パタパタ……………」

梓「あ、暑い……………」グテ……………」

漣「……………」ボーツ……………」

慎弥「？ とうした漣、ボーツとして？」

漣「ん？あ、ああ！何でもない！！」

慎弥「変な奴」

漣「……………」

『まもなく、一番線に○○方面行き普通列車が参ります、危ないですから、ホームの内側におさがりください』

紬「あつ、電車が来たわ！」

律「やっとか……………」

圭吾「…昼飯何食おうかな……………」

唯「帰ったらアイス食べよ……………」

そしてみんな各自家路についた……………」

#17 また事件!!

唯「いよいよ明日か…緊張してきたよ…」「ドキドキ

律「おいおい、まだ緊張するのは早いぞ?」

圭吾「溲?去年みたいに転けるなよ?」(笑)「ニヤニヤ  
溲「んなつ…!!」

梓「?」

律「そつか、梓知らないんだ…去年溲の奴舞台上で転けてパ…ム  
グツ!」

溲「わーっ!!」ガバツ!

律「フガフガツ…!!」ジタバタ

慎弥「溲の奴…必死じゃん…?」

さわ子「去年のライブのDVDがあるわよ?」キラーン

圭吾「いつ、いつの間に…?」

梓「去年のですか!?是非みたいです!!」ワクワク

溲「そつ、それだけは…!!」(泣)

さわ子「りっちゃん、唯ちゃん!!」パチンツ!

律・唯「ラジャー！」「ビシッ

漣「は〜な〜せ〜!!」ジタバタ

修一「？」

紬「慌てる漣ちゃん……かわいいわ〜……」ハアハア

圭吾「ムギ……？」

梓「どんなライブなんだろう」ワクワク

慎弥「最後の方がかなり面白いぞ」「ニヤニヤ

漣「やめてくれ〜!!」(泣)

梓「………なっ!？」ボンツ!

漣「……梓?今の……見た？」

梓「……見ちゃいました」「カァ〜

漣「……」ズーン……

律「ちょっとやり過ぎたか……？」

漣「……パンツ……パン……ツ……もう……お嫁にいけない……」ズズーン

圭吾「先生、このパンツ事件ご法度なんすけど……？」

さわ子「てへっ」

圭吾「かわいいこぶつてもダメだ〜！」

修一「全く……ほら漣、元気出せよ」「ポンッ

漣「うう〜……」

和「こんにちは〜」「ガチャ

律「おっ、和！」

唯「和ちゃん〜ん！」ガバッ

和「ちよっ……唯ったら！」

絀「……いいわね〜……」 ムギビジョン発動

律「で？何か用？」

和「学園祭のライブの事なんだけど、曲目はこれでいい？」「スッ

律「どれどれ〜？……うん、これでいいよ！」

和「じゃあ一曲目は私の恋はホツチキスで二曲目が大切なもの、三曲目が空の虹……これで登録してくるわね？」

漣「ああ、頼んだよ」

和「じゃ行って来るわね、先生、失礼します」ペコリ





圭吾「ふ〜ん？……あっ！」ブチンッ！

漣「どうした圭吾？」圭吾「……最悪……弦切れた……」

律「あちゃ〜……やっちゃったな〜……」

圭吾「勘弁してくれよ〜……もうスペアの弦持ってたね〜よ……」ハ  
ア……

唯「あたしのギター太使う？圭吾君？」スッ

圭吾「おお！？すまんな唯……っておい唯……」

唯「な〜に〜？」

圭吾「今更だけど……お前ギターのメンテナンスしたことあるか？」

唯「めんでなんす？」

圭吾「ネックは反ってるし……弦はかなり錆びてるし……どうやっ  
たらこんなになるんだ？」

唯「失礼な！ちゃんと大切にしているもんっ！！」プクー  
律「例えば？」

唯「んとね〜……ギターと一緒に添寝したり〜……ギターに服着さ  
せたりしてるよ〜？」  
梓「何ですかそれ……」

唯「でもちゃんとギターを大切にしてるもん！」プク

圭吾「……もう怒る気力もない……」ハァー……

漣「…仕方ない、今日はここまでにしよう……」

圭吾「楽器屋に行って弦買いに行こ……唯、お前もついてこい」

唯「えっ！？」

圭吾「つべこべ言つな」ガシッ

唯「いやあっ！圭吾君にさっらっわっれっるっ！」

圭吾「変な言い方するな！！それと梓、お前もついてきてくれ」

梓「あっ、はい……」

圭吾「じゃ皆さんサイナラっ」

唯「いっやっあっ……！！」

梓「先輩……もう……！！……あっ、皆さん失礼します！！」ペッコッ

バタン……

5人「……」ポツーン……

律「あたしらもついていこ……」

4人「うん……」

〓〓楽器屋〓〓

圭吾「え〜と……………あつ、あつたあつた!!」

梓「この弦1200円もしますよ?」

圭吾「この弦じゃね〜と俺ダメなんだなあ〜これが……………」

梓「そうなんですか…」

圭吾「で?唯はどこ行つた?」

梓「それが…?」チラッ

唯「マラカス〜」シャカシャカ

圭吾「…?」

律「…あつ、いたいた……………お〜い!!」

圭吾「あ?なんでお前らまで居るんだ?」

律「居て悪いか!?」

漣「もう弦買つたのか?」

圭吾「ああ、今から帰ると」

慎弥「…この際だし、新しいベースでも買お〜かな…」

修一「おお！？ケチな慎弥が新しいベースを買うなんて……」ププッ

慎弥「うっせ！……何にしようかな……おっ！？tetsuya  
aモデルのベース売ってあんじゃん!？」

律「tetsuyaモデル？」

慎弥「ほら、L・Arc〜en〜Cielのtetsuyaが使っ  
てるのと同じベースだよ」

律「あゝ……なるほど」

慎弥「決めた！！これ買お！！」

漣「……げっ！？高っ！！」

律「どれどれ……げっ！じゅっ、じゅっにまん……」

圭吾「お……結構いいお値段だな……」

梓「本当に買う気ですか!？」

慎弥「当たり前だよ……あっ、店員さん!？」

店員「はい？」

慎弥「このベースください！」

店員「ありがとうございます……！少しお待ち下さい……」

律・唯・漣・梓「本当に買ったよこの人……」ガビーン

数分後……

店員「お待たせいたしました！！12万円になります！」

慎弥「確かカバンの裏側に全財産隠しておいたはず……あつたあつた！！」サツ

澪「なんでそんなところに入れてるんだ！？」ガビーン

慎弥「まあ気にしない気にしない はいっ、12万ねっ！」

店員「ありがとうございます！！あつ、お客様？ベースはどうされます？ご自宅に発送しましょうか？」

慎弥「自分で持って帰るからいいです」

店員「わかりました」

慎弥「さっ帰る帰る」

圭吾「待て！」ガシッ

慎弥「は、放せ……」ペシペシ

律「圭吾、慎弥の奴本当に苦しそうだぞ」

圭吾「あつ……悪り……じゃなくてまだ唯のギターのメンテ終わってねっよ！」

律「そうだった……で？唯は？」

梓「……あそこに……?」「チラッ

唯「マラカス欲しいな〜……」「ジー…

律「……?」

漣「全く……ほら唯!ギターのメンテナンスしにきたんだろ?」

唯「……はっ!ー!そうだった!」

漣「あきれた……」

圭吾「ほら、ギター出しに行くぞ?」

唯「うん!」

……

圭吾「あの〜……」

店員「はい?」

圭吾「ギターのメンテをしてもらいたいんですけど……」

店員「はい、え〜と……ギターは?」

圭吾「あつ、俺のじゃなくて連れれのギターを……」

唯「よろしくお願ひします!」

店員「はい！じゃあ少し拝見させていただきます！」「ゴソゴソ

梓「……………」

店員「…………げっ！？ウインターギターですか……………」

圭・梓「すみません……………」

店員「…………じゃ、じゃあ作業が終わるまで店内でお待ち下さい」

圭吾「はい……………」

店員「…………」「バチン…バチン 弦を切っている音

唯「…………ああ！あたしのギターが裸にされていく……………！」

梓「なんですかそれ……………」？

圭吾「…………暇だな……………」

梓「…………あの、先輩？」

圭吾「…ん？」

梓「ライブの時ってやっぱり緊張しますか？」

圭吾「そりゃ緊張するよ…………でも本番前に俺はある言葉を自分に言い聞かせるんだ……………」

梓「なんですか？その言葉って……………」

圭吾「その言葉は死んだ親父がいつも言ってたよ……常に全力ってな……」

梓「常に……全力……なんか凄く深いですね……」

圭吾「ああ……」

店員「ギターメンテナンスでお待ちのお客様？メンテナンスが終了しました〜！」

梓「あつ、終わったみたいですね！」

店員「お待たせしました！」

唯「ギー太〜！お帰り〜！」

圭吾「ありがとうございました」ペコッ

店員「いえ……！それじゃ料金は5000円になります」

唯「えっ！？お金取るの？……」

梓「何言ってるんですか？当たり前じゃないですか」

圭吾「唯、お前まさか……？」

唯「お金……持ってない……」

律・澪・梓・圭・慎・修「え〜ええええ！！？」ガビーン！

店員「えっ！！ちよっ！！？」

唯「どうしよう……」

紬「みんなどうしたの？」 トイレに行ってた

圭吾「いやちよつとヤバイ事が……」

店員「こつ、これは紬お嬢様！」

圭吾「…なんだ？急に店員の態度が変わったぞ？」

律「実はここ、ムギんとこの店らしいぜ？」ヒソヒソ

圭吾「マジで！？初耳なんすけど……」

店員「紬お嬢様のご友人という事でしたら作業代は無料という事で  
！！」

紬「そんな……！！悪いわそんなの……！！」

店員「いえいえ！！いつも社長にお世話になっておりますから……！  
！」

律「ムギはやっぱ凄いな……」

唯「あつ、ありがとうムギちゃん……」

梓（ムギ先輩は一体何者？……）

圭吾「まあ一件落着という事で、モスに行こうぜ？」

修「おつ、いいね」

慎弥「……………やば……………かつこいいこのベース……………」ウツトリ

圭吾「はいはい続きは家でな！ほら行くぞ？」

慎弥「へいへい……………つてあれ？漣は？」

律「さつきまで居ただけだな……………」

圭吾「ん……………あつ、いた……………」

漣「……………」ジーツ……………」

梓「レフティコーナーにいますね」

律「しよ〜がない、呼んでくるか……………」

律「ほら漣〜、帰るぞ〜？」

漣「やだ……………」

律「ただだこねてないでほら」

漣「やだ……………」

律「こいつ……………！」イライラ

圭吾「どうした？」

律「いや漣の奴が帰らないって言い始めて……………」

圭吾「任せろ、いい方法がある」

律「？」

圭吾「漣？そろそろ帰るぞ？」

漣「やだ……」

圭吾「ほ……そんな事言っていないのかな？言う事聞かないと去年の漣のパンツ事件の写真ばらまくぞ？」

漣「そつ、それだけのご勘弁を……！！（泣）」

律・唯・紬・梓・慎・修「……………」

漣「お願いじまずだ……！！（泣）」ガシッ！

圭吾「わっ、わかったから俺の足から手を放せっ……！！」

梓「…片山先輩……いい加減過ぎです……………」

……………モス……………

律「は………とうとう明日か………」モグモグ

梓「初めてのライブなんでかなり緊張してます……………」

唯「大丈夫だよあずにゃん……あたしがいるから安心して……！！」

梓「尚更緊張します」

唯「が……ん……！！」

圭吾「ははっ！」

唯「笑わないでよ〜！」プーッ

漣「……でもあたし達、来年で終わるんだよな……」

紬「そうね……」

皆「……」

圭吾「……ライブ前にこんな話止めようぜ？気分が悪くなる……」

漣「あ、ああ……ごめん……」

慎弥「……もう5時半だ……帰ろ〜ぜ？」

修一「ホントだ……」

律「じゃ〜そろそろ解散するか！」

圭吾「帰ったらギターの弦交換しなきゃ……」

店員「ありがとうございます〜！」

〜〜〜帰り道〜〜〜

漣「じゃああたし達はここで……」

紬「さようなら〜」

修一「じゃあな〜」

圭吾「おう」

梓「さようなら」「ペコッ

律「また明日な〜！」

唯「ばいばい！ 湊ちゃん、ムギちゃん、修くん〜！」

……

律「じゃあたしはここで〜！」

圭吾「おう、じゃあな〜！」

唯「りつちゃんまた明日〜！」

慎弥「またな」

梓「律先輩、また明日」「ペコッ

律「ばいばい〜！……」

……

慎弥「じゃあ俺と唯は「ここで……」

唯「じゃあね〜！」

圭吾「ああ……」

梓「お二人共お気をつけて……」ペコッ

慎弥「じゃあな〜お二人さん！熱くなり過ぎるなよ〜？（笑）」

圭吾「あいつ……？」

梓「……………！！」カー……

……………

圭吾「……………梓、帰るぞ」

梓「えっ？あつ、はい！」

圭吾「……………」

梓「……………」

しばらくして……………

梓「じゃあ私はここで……………」

圭吾「おう、明日頑張ろうな！」「ニッ

梓「……………はい！」

圭吾「じゃあ……………」

……

梓「……でもなんか不安だなあ……」ハァー……

~~~~圭吾宅~~~~

圭吾「着いた着いた……ただい……ってあれ？鍵閉まつてる……姉  
貴いね？のかな……？」

圭吾「まあいいや……え〜と確かポストの中に鍵入れといたはず……  
……あつ、あつたあつた！」

ガチャ……

圭吾「ただいま……」

シ〜ン……

圭吾「って誰もいね〜か……アホらし……」

圭吾「あ〜疲れた疲れた！……水飲も……ん？なんだこれ？置き  
手紙？」

~~~~手紙の内容~~~~

『お姉ちゃん急遽夜勤になったから今夜は一人で夕飯食べておいて  
ね！そこに三千円置いてあるから出前でもとって夕飯を済ませて下  
さいー！』

かわいいお姉ちゃんより……………」』

圭吾「かわいいお姉ちゃんよりって……………頭おかしいんじゃないか  
あいつ?」

圭吾「出前でもとっておいてって言われても……………この時間じゃ混  
んでるだろうし……………めんどくせ〜けどコンビニでなんか買ってき  
てそれで済みますか……………」

~~~~~梓宅~~~~~

梓「そういえばお父さんとお母さん今日バーのライブにでるって言  
ってたからいないんだっけ……………」

ガチャ……………

梓「ただいま……………」

シ〜ン……………

梓「……………寂しい……………」

梓「……………！？テーブルの上に封筒が……………なんだろう……………？」「スッ

梓「……………三千元入ってる……………手紙まで……………」

……………手紙の内容……………

『このお金で好きなものでも食べてください……………』

母より……………』

梓「……………また外食か……………」

梓「さっきモスでハンバーガー食べたし……………コンビニに行ってケーキでも買ってこよ……………」

……………某コンビニ……………

圭吾「何にしようかな……………」

梓「どのケーキにしようかな……………」

圭・梓「ん？」「チラッ

圭吾「なんているの梓？」「

梓「先輩こそ……」

圭吾「いや俺はほらっ、あれだあれ！晩飯買いに来たんだよ！」

梓「……」ジーツ

圭吾「なっ、なんだよ……！」

梓「…左手に持つてる怪しい本はなんですか？」ジーツ

圭吾「……ただのファッション雑誌だけ……」

梓「よかったあ〜……先輩の事だからいやらしい本かと……」ホ  
ツ……

圭吾「俺に対してなんちゅ〜イメージ持つてんだオメ〜は！」

圭吾「……まあいい、梓も晩飯買いに来たのか？」

梓「はい、と言ってもケーキですけどね……」

圭吾「晩飯にケーキって……体に良くないぜ？」

梓「それはわかってるんですけど……さっきのハンバーガーがまだ  
お腹の中に残ってるので……」

圭吾「ふ〜ん……まあいいけど体壊すなよ？」

梓「はい……」

圭吾「俺もさっさと選ば……ん〜と……」

梓「……………」

……………数分後……………

店員「ありがとうございましたあゝ」

圭吾「さて…弁当も買ったことだし……………帰るか……………」

梓（家に帰っても誰もいないし……………寂しいなあ……………）

圭吾「途中まで一緒に帰ろうぜ」梓？

梓「……………はあ……………」

圭吾「……………どうした？」

梓「いえ……………なんでも……………」

圭吾「……………変な奴……………」

……………しばらくして……………

圭吾「じゃあまた明日な！」

梓「はい……………さようなら……………」

……………

圭吾「梓の奴……………やたら暗かったけどどうしたんだ？……………」

梓「……………ケーキ食べたならギターの練習しよ……………」

~~~~圭吾宅~~~~

圭吾「ふ〜食った食った〜……」ゲップ

圭吾「…ギターの弦でも張り直すか……………」

圭吾「……………」バチン…バチン……

…………数分後…………

圭吾「…………おしっ！出来た出来た……………」ジャラ〜ン

~~~~梓宅~~~~

梓「……………」ジャカジャカ

梓「……………」ピタッ

梓「…………駄目だ……………上手く弾けない……………」

梓「…………明日のライブで緊張してるのかな……………あたし……………」

梓「…………散歩でもして気分転換しよう……………」

~~~~圭吾宅~~~~

圭吾「ふ〜……………疲れた……………」

ピンポーン……………

圭吾「……………誰だ?……………」スッ

圭吾「……………はい……………」ガチャ…

慎弥「よっ!」

圭吾「どうしたんだ?」

慎弥「いや〜ちょっと家に誰もいないくて……………」

圭吾「……………淋しいから俺の家に来たと……………」

慎弥「……………」コクッ…

圭吾「……………は〜……………しょ〜がね〜なあ〜……………わかったよ、今日姉貴  
夜勤でいね〜から遊んでいけよ」

慎弥「マジで!?!ありがと〜圭吾〜」

圭吾「ほら早く上がれよ……………」

一方その頃、梓は……………

~~~~~某児童公園~~~~~

梓「よいしょっ……………」スッ

梓「……この公園も変わってないな〜……」

梓「……」

DQN1「ねえねえ、俺らと一緒にカラオケでも行かない？」

梓「えっ……!?!」「ビクッ

DQN2「ね〜いいじゃん行こ〜ぜ!〜!」

梓「……けっ、結構です……!」「スッ

DQN3「おっと〜 どこ行くのかな〜?」

梓「……そこを通して下さい!〜!」

DQN3「駄目だね〜……俺らと少し付き合ってくれたらすぐに帰してあげるけど〜」「ニヤニヤ

梓「……!〜!」

DQN1「さっ、行こか……」

梓「……いやっ!放して!〜!」

京助「……でさ〜、あいつがさ〜……」

孝太郎「ハハハ……ん？あれ中野じゃね？」

友成「どこよ？」

孝太郎「ほら、アレ……」

友成「……！！」

京助「……どうした？」

友成「……おいお前ら、中野を助けに行くぞ……」

京・孝「へっ！？」

友成「いいから行くぞ！！」ダツ！

京助「……おいつ！！友成！！」

孝太郎「待てよ友成！！」

DQN1「ほら早く！」グイッ

梓「放して……！！」

友成「よ〜よ〜！！お前らナンパにしては少々やりすぎてね〜か？」

DQN1「あ？誰だお前？」

友成「誰でもいいだろ、その子を返してもらおうか」

梓「飯田君！後ろ！！」

友成「！？」

DQN3「死ね！」

友成「ぐはっ！！」

梓「……っ！！」

DQN3「なァー！！！！いじどつすゐっ」

DQN2「連れていくか一応」

友成「……くそっ……！！」

DQN2「ほら立て！！」グイッ

友成「ぐっ……！！」

DQN1「……行くぞお前ら」

梓「飯田君！」

京助「ハアハア……友成の奴、どこ行った？」

孝太郎「ハアハア……！！あっ！！あそこだ！！」

京助「ま、待て!!」ダッ!

ブオーン……………

京助「…………くそっ!!」

孝太郎「…………どうしよう…!!」

京助「兄貴に連絡しろ!!」

孝太郎「で、でも…………」

京助「早く!!」

孝太郎「わかった…」ピッ

~~~~圭吾宅~~~~

慎弥「あ…!!また負けた…!!」

圭吾「お前ホントに鉄拳弱えくな」

慎弥「も…一回だ!」

圭吾「へいへい……」

ブー、ブー……

圭吾「電話だ……」

慎弥「誰から？」

圭吾「……げっ！！孝太郎からだ……」

慎弥「孝太郎ってお前の舎弟か？」

圭吾「別に舎弟じゃね〜！！ったく……」ピッ

圭吾「なんだ？」

孝太郎「兄貴大変ですっ！！中野が男3人にさらわれました！！」

圭吾「……！！そいつらどこに行った！！？」

孝太郎「多分〇〇工業団地です！！」

圭吾「他に誰がいるか！？」

孝太郎「京助だけです……友成も奴らにさらわれました……」

圭吾「今お前らどこにいるんだ！？」

孝太郎『〇〇児童公園です!!』

主吾「わかった……今からそっちに行くからそこを動くなよ!!?」  
ピッ

慎弥「…何かあったのか?」

主吾「ああ、ちよつとな……」

慎弥「…正直に言え、主吾……なにがあった?」

主吾「実は……」

慎弥「……っ!!」

主吾「急いで〇〇児童公園に急ぐぞ!!」

慎弥「ああ!!」

数分後……

京助「兄貴!!」

主吾「お前らは大丈夫か!？」

京助「俺らは大丈夫ですけど、中野と友成が……」

孝太郎「……………」

圭吾「……………大丈夫だ、必ず助けだす!!」

慎弥「律達も呼んだ方がいいかもしれないぞ、あの工業団地は広いし……………俺達だけじゃ……………」

圭吾「そつだな、呼ぶか……」

慎弥「じゃ電話するぞ」ピッ

しばらくして……………」

……………〇〇工業団地……………」

律「よし!!只今より梓と友成の搜索開始だ!!」

唯・紬「おっっ!!」

漣「ばっ、馬鹿!!声大きい!!」ドキドキ

京助「皆さん……………こんな夜遅くにすみません……………」

孝太郎「すみません……」ペコッ

圭吾「謝るのは2人が助かってからにしろ……………行くぞ……………」

京・孝「……………」

紬「じゃあ私はこつちを探してみるわ!!」

漣「あたし達は向こうを探すぞ!!」

唯・律「らじゃ〜!〜!」

慎弥「じゃ〜俺と修一はあっちを探してみるわ」

圭吾「ああ、頼む……」

慎弥「修一、行くぞ」

修一「わかった!」

……

圭吾「俺達はあるちを探るか……」

京・孝「はい!〜!」

……数分後

ヴー、ヴー……

圭吾「!、慎弥か」ピッ

圭吾「そっちはどうだ?」

慎弥『ああ、なんか怪しい車を見つけたんだけど……』

圭吾「なんか怪しい車見つけたらしいんだけど、そいつらの車の型と色は?」

京助「確か……黒のハイエースだったような……」

圭吾「その車の型と色はなんだ慎弥？」

慎弥『えつと〜……黒のハイエースだな〜……』

圭吾「ビンゴー！おいお前ら今どこにいるんだ！？」

慎弥『Bの6つて書かれた空き倉庫の前に……ってどうかしたの  
k………』ピッ

圭吾「Bの6か……お前ら行くぞー！」ダッ

京・孝「はいー！」ダッ

~~~~~Bの6倉庫前~~~~~

慎弥「どうしたんだよ？そんなに慌てて……」

圭吾「……ここからは俺1人で行く……お前らはここで待ってる  
……修一、俺のメガネ頼む……」スッ

修一「えっ！？ちよつと……！」

京助「兄貴ー！！1人じゃ危ないですー！俺も行きますー！！」

孝太郎「俺も行きますー！」

圭吾「……駄目だ……」

京助「でも……！！」

圭吾「聞こえなかったのか？俺1人で行く……」ギロツ  
京・孝「……………!!」ビクッ

慎弥「ここは圭吾に任せよう……」ポンッ

京助「山河さん……………」

孝太郎「……………」

慎弥「圭吾、無理すんなよ……………」

圭吾「ああ……………行ってくる……………」

~~~~~倉庫中~~~~~

DQN3「おらっ……………」

友成「ぐっ……………」バキッ

DQN2「死ねや……………」

友成「げふっ……………」ドッッ

梓「もう止めてっ……………」

友成「ぐっ……………くそ……………」ガクッ

梓「……………っ……………」

DQN1「止める、気絶してる」  
梓「飯田君……っ!!」

DQN1「じゃ、次は俺らと遊ぼうか……」ガシッ

梓「……いやっ!!放して……!!」

DQN2「へへっ……おらっ!!」「ビリッ!

梓「きゃあっ!!」

DQN3「おおっ!!?いい体してんじゃん!!」

梓（もうダメ……誰か助けて……）

圭吾「邪魔するぜ!」バンッ

DQN1・2・3「!!!」

梓「!!!? かつ、片山先輩!!!?」

DQN3「だっ、誰だてめえ!!」

圭吾「……」ツカツカ

DQN2「おい聞いてんのか!!」

友成「……あっ、兄貴………なんで……?」グフッ

圭吾「……全く、無茶しやがって……」ハア……

圭吾「……もう喋るな、お前はそこでじっとしてろ……」

友成「……はい……」

圭吾「……おいてめえら……よくも俺の後輩達に手え出したな……  
……許さねえ……」

DQN3「へっ！…！なんか言っつてやがんぜ！…？あいつ！…！」「ヒヤハ  
ハハッ

DQN2「てめえもそいつみたいにしてやるよ！…！おらっ！…！」「ブ  
ンッ

梓「先輩危ない！…！」

圭吾「……」「ガシッ

DQN2「……へっ！…？」「キョトン

圭吾「……セイヤッ！…！」「シユッ

DOZN2「ぐはぁっ！…!?」「ドササッ

DOZN3「やりやがったな〜！」「ブンッ

圭吾「……………」「ヒョイッ

DOZN3「何い！…?」

圭吾「……………」「どりゃあ〜！…!」

DOZN3「うおおおお〜！…!」「ガシャン

DOZN1「ひっ、ひいひいひい……………」

圭吾「……………」「よう……………」死ぬ覚悟は……………」出来てんだろっな?……………」あぁっ!…?」  
ギロッ

DOZN1「……………」「うわあああああ〜っ!…!」「ダダダダッ

圭吾「……………」「おいコラッ!…!待て!…!」

圭吾「……………」「くそっ!…!逃げられた……………」!…!」

梓「……………」「せつ、先輩……………」「なんで……………」

圭吾「ん？まあそんな事はいいじゃね〜か！それよりお前大丈夫か！？」

梓「はっ、はい……………」

圭吾「待ってる、今縄解いてやるから……………」ゴソゴソ

梓「……………」

圭吾「……………よしっ！！もう大丈夫だ！！」

梓「先輩……………すみませ……………ん……………」クラッ……………

圭吾「おいっ！？」ガシッ

圭吾「……………安心して気を失ったか……………まあ無理もない……………怖い目にあったんだし……………」

慎弥「おい圭吾！！大丈夫かつ！？」ガシヤ

圭吾「入ってくんなって言ったろ……………」

修一「うわ……………派手にやったな〜圭吾……………」ヒューー

慎弥「お前……………！！暴れ過ぎだアホっ！！」ポカッ

圭吾「つて〜な〜!!これでも抑えた方だよ……」

京助「っ!!友成!!」ダッ

孝太郎「おい大丈夫か!?!おい!!」

慎弥「……友成の奴……かなりやられてるな……」

圭吾「ああ……後で俺の家で手当てしてやんね〜と……」

~~~~倉庫前~~~~

律「まあ……見つかってよかったよかった……」

漣「全くだ……」

唯「ねえ圭吾くん?あずにゃんなんにもされてなかったの?」

圭吾「服が少し破られたぐらいで後はなんにも……一応風邪ひかないように俺の上着着させてるけど……」

紬「でも見つかってよかったわ〜……」

漣「さて、ここにいと危険だし、そろそろ帰るっ……………」

~~~~~帰り道~~~~~

憂「お姉ちゃん!!」タッタタッ

唯「へっ!?!?っつ、憂!?!?何でここに……………!!」

憂「いきなり家飛び出して行くから心配して探してたんだよ!?!」

唯「ひえええ!!!(泣)」

憂「もうっ!!……………でも皆さんお揃いでどうしたんですか?……………梓ちゃん……………!!一体何かあったんですか!?!」

圭吾「……………これは話せば長くなると言っつか何と言っつか……………」

梓「それに飯田君……………!!酷い怪我!!一体何が……………!!」

圭吾「まあ話は俺ん家で話すよ、憂ちゃんも来てくれる?」

憂「はい……………」

~~~~~圭吾宅~~~~~

憂「そうですねか……………そんな事があったんですか……………」

圭吾「ああ……………後一步遅かったら梓も何されてるかわからなかった……………」

友成「……………いてっ!!」

慎弥「ほら動くな!!我慢しろ!!」

梓「ううくん……………」

唯「あつ、あずにゃん目覚めました!!あずにゃくん!!」ガハッ

梓「うつ……………唯先輩……………苦しいです……………」

紬「よかったあ……………」

梓「……………ここは……………?」

漣「圭吾の家だよ、圭吾が梓をおんぶしてここまで来たんだ」

律「圭吾に感謝しなよ……………?圭吾が助けに来なかったら梓何されてたか……………」

梓「……………思い出したら寒気が……………」ブルルッ

漣「コラッ!!変な事思い出さすな!!ばか律!!」ポカッ

律「いてえ!!」

圭吾「いやっ、感謝するのはこいつらにだぜ?」ポンッ

京・孝・友「!!!?」

圭吾「こいつらが俺に連絡してくれなかったら俺は梓を助けに行けなかったよ……けど友成、先になんでもかんでも突っ掛かって行くな……下手したらお前……死ぬぜ?」

友成「……わかってるっすけど……」

圭吾「わかったならそれでいい」ポンッ

友成「兄貴……」

圭吾「だから兄貴って言うなの!」バンッ

友成「……!!いつてえ!!」

圭吾「あ……悪り……」

全員「ハハハハハッ!!……」

……………そして……………

慎弥「じゃあまた明日なっ!!」

修一「じゃあなっ!!」

律「またな!!」

唯「じゃあね!!!圭吾くん!!」

透「また明日な…!!」

紬「またねっ!!」

憂「圭吾さん、明日のライブ頑張ってくださいね!!」

圭吾「おうっ!!じゃあな!!」

……………

圭吾「お前らだけで大丈夫か?」

京助「任せて下さい!!!兄貴!!!無事中野を家まで護衛します!!!」

孝太郎「任せて下さい!!!」

友成「じゃあ俺達はこれで……」

圭吾「ああ……」梓「先輩……あの……今日はお騒がせて……  
その……」

圭吾「何言っただよ、俺は彼氏として当たり前前の事をしたまです  
よ」

梓「先輩……!!」「ブワッ

圭吾「あゝ!!泣くなって!!」  
梓「……ううっ……!!」「ガハッ

圭吾「おわっ!?!」「ガシッ

梓「……恐かったよ……先輩……」ヒック…ヒック…

圭吾「……よしよし……」ナデナデ

京助「おい!!中野?何してんだ?帰るぞ?」

圭吾「ほら、あいつらが呼んでるぞ?」

梓「……」「ギョッ…

圭吾「早くしないと……あいつらが待ってるぜ？」

梓「……先輩……また明日……」

圭吾「ああ……」

……

圭吾「さて……そろそろ風呂に入って寝るか……」

明日はいよいよ学園祭……

#18 学園祭!!

圭吾「…いよいよか…緊張するな…」スタスタ

男子「よっ！ライブ頑張れよ！」

圭吾「あっ、ああ…ありがと…」スタスタ

圭吾のファンA「…あっ！！片山先輩よ！！」

圭吾のファン達「キャーッ！！片山先輩！！！！」ダダダダッ

圭吾「…！！！！うわあ！！！！！！」逃走

圭吾のファン達「お待ちになって！！！！」追跡

圭吾「一体どうなって…！！あっ、慎弥だ！！おい！！慎弥！！！！」

慎弥「…！？おゝ圭吾！早く部室に行け……」

圭吾「お前囹になれ！！」グイッ

慎弥「へっ？囹？？」

圭吾のファン達「片山先輩！！！！」ダダダダッ

慎弥「へっ？？？」

圭吾「じゃ頼んだわ！！」タタタッ

慎弥「ちよっ…あの…ってうわあ！！！！」逃走

……しばらくして……

圭吾「…上手く撒いたか……今のうちに……」ソロ

憂「何してるんですか片山さん？」

圭吾「…どわあ〜っ!!」「ビクウツ!!」

憂「…あつ、あの……？」

圭吾「…ああ、ごめんごめん!!……って憂ちゃんこんな所で何してるの？」

憂「クラスのお店の材料を取りに……片山さんは？」

圭吾「……まあ色々……やばっ!!早く部屋に行かね〜と!!…じやっ!!」「タタタツ……」

憂「…行っちゃった……」

憂「……片山さんって面白い人だな〜……」

……音楽室……

圭吾「……遅くなりました〜……」ガチャ

律「遅いぞ〜圭吾〜!!」

圭吾「すまん……ちょっと追っかけられて……」

律「誰に？」

圭吾「わからん……で、あとの6人は？」

律「慎弥は知らないけどあとのみんなはクラスの係があるから後から来るよ」

圭吾「そっか……（そっいや慎弥の奴どくなつたかな……）……」

律「暇だしドラムの練習でもしとこ〜かな？」

圭吾「そうしとけ、はあ……疲れた……」ヨッコイシヨ

ガヤガヤ……

律「なんかやけに外が騒がしいな……」

圭吾「俺が見てくるよ」スツ

圭吾「おいうるせ〜ぞ、騒ぐなら余所でやれ……」ガチャ

圭吾のファンA「あっ！！居たわよ！！」

圭吾「げっ!?!」

圭吾のファン達「片山先輩〜!!!」ダダダダッ

律「なっ、なんだあ!?!」ガタッ

圭吾「ちよつと!!なんだ君らは!!」

律「圭吾!!一体どういう事なんだよ!!」

圭吾「知らねえよ!!俺も何がなんだか……!!」

慎弥「けっ、圭吾……多分原因はこれだ……」ゼエゼエ

律「あつ、慎弥」

圭吾「なんだ?その紙?」

慎弥「いいから早く……」ゼエゼエ

圭吾「なにになに………はあっ!!!?ファンクラブであゝ!!?  
!?!」

律「どれどれ……片山圭吾ファンクラブ……今会員になるとフェニックス時代の片山圭吾のプロマイドを一枚プレゼント……なんだこりゃ!!?!」

慎弥「フェニックスって……まさか……!!」

圭吾「……!!」

律「とにかくこいつらを追い出さぞー!!」

慎弥「あつ、ああ!!主吾、お前も手伝え!!」

主吾「ああ……」

……数分後……

律「ふい〜…参った参った〜……」ヤレヤレ

慎弥「ああ…全くだ……」

律「で、さっきのフェニックスってなんだ？」

主吾「……俺トイレ行ってくるわ……」スッ

律「？」

慎弥「……」

ガチャン……

律「どうかしたのか？主吾の奴？」

慎弥「……………律、お前俺と圭吾が中学の時バンド組んでたのは知ってるか？」

律「まあ噂くらいで聞いた事はあるけど……………」

慎弥「フェニックスってのはその時のバンド名だ」

律「そのバンドには修一は入っていなかったのか？」

慎弥「修一はよその学校の奴等とバンド組んでたからまだその時はいね〜よ」

律「ふ〜ん……………そうなんだ〜……………」

慎弥「後キーボードとボーカルもいたんだけど……………ボーカル担当の女の子が……………」

律「ボーカルの娘が……………どうかしたのか？」

慎弥「……………事故で死んだ……………」

律「……………えっ……………」

慎弥「道に飛び出した子供をかばって車に跳ねられたらしい……………」

律「……………」

慎弥「そんでフェニックスは解散……………今に至るってわけ……………悪いな、ライブ前にこんな話して……………」

律「えっ！？いいよ別に！！気にしてないし……………！！」アセアセ

慎弥「そうか……………それならいいけど……………」

圭吾「……………ただいま……………」ガチャ……………

慎弥「どこ行ってたんだ……………」

圭吾「だからトイレだって……………慎弥、練習するぞ……………」

慎弥「はいよ……………」スッ

律「……………」

……………しばらくして……………

唯「は……………疲れたあ……………」ガチャ……………

澪「おいおい、この後ライブだぞ？大丈夫か？」

梓「しっかりして下さいよ、唯先輩！」

紬「お茶でもしましょうか？」「ニコッ」

唯「賛成〜！！」「シャキーン！」

慎弥「相変わらずだな〜？」

圭吾「あれっ？修一は？」

唯「修一くんならもつすぐ来ると思っただけど……」

修一「ごめんごめん！！係の交代の奴が来るのが遅くて……」

慎弥「これで全員か？」「ハイフウミイ……」

圭吾「全員だろ」

紬「お茶入りましたよ〜」

.....

唯「修一くんたこ焼きの匂いがする〜」「クンクン...

修一「だって俺のクラスたこ焼きの店だったから.....」

律「どれどれ〜.....あつ、ホントだ〜.....」「クンクン

修一「あの.....そろそろ止めてくんない??」「

圭吾「.....よしっ、もういいぞ」「

慎弥「おおっ、サンキュー!」

紬「圭吾さんってワックスつけるの上手ね〜」

圭吾「そうか?」

修一「圭吾〜、ヘアアイロン貸して〜」

圭吾「おう、カバンの中に入れてっから勝手に使え」

修一「サンキュー」「ガサゴソ

さわ子「みんないる?」「ガチャ...

唯「あつ、さわちゃん！」

漣「…まさか…」「ドキドキ…」

さわ子「みんなの衣装持って来たわよ！」

漣「やっぱり…！」「ガーン！

圭吾「うへえ…：…なんだこのフリフリした衣装は…」

慎弥「こんなの着てのライブはごめんだ…：…」

修一「右に同じ」

さわ子「なんでよっ…！」「ブーブー

圭吾「いや恥ずかしいし…」

慎・修「うんうん」「ナットク

さわ子「でもムギちゃんを見てみなさい？」「チラッ

圭・慎・修「？」「クルッ

紬「どお…？」「フリフリ

圭・慎・修「着とる…！」「ガビーン！

唯「ムギちゃん凄く似合ってるよ〜!」

さわ子「ほら見なさい!ムギちゃんは喜んでるでしょ?」

圭・慎・修「いやいやいやいやいやいやいや!」「ブンブンブン

律「あの〜……さわちゃん?」「チヨンチヨン

さわ子「なあに?」「クルッ

律「そ〜ゆ〜のはありがたいんだけど……?」

さわ子「ありがたいんだけど……何?」

律「ん……」「クイツ

さわ子「?」「クルッ

透「あんな服着て………大勢の前で………!」ガタガタ

梓「無理………あんな服着てライブなんて………絶対無理………!」  
ガタガタ

さわ子「ちょっとパンチが強かったかしら…？」

圭吾「とにかく俺ら3人は制服でライブをさせてもらいます…！」  
キッパリ

さわ子「……しよゝがないわね………わかったわ、あなた達だけは制服で構わないわ」

圭・慎・修（しゃーっ！！！！）グッ

さわ子「じゃあ…」キラーン！

漣・梓「！」クルッ

さわ子「こっちに来なさい！！」グイッ！

漣・梓「いやあああああああ……！！」ガチャン…

6人「………？」

………数分後………

さわ子「さあ入って来なさい！」ガチャ…

漣・梓「うう〜……………」スッ

6人「！！！！」

さわ子「どっつ？」

律「…さわちゃん天才か！？」

唯「ふっ、二人ともかわいい……………！！」

紬「……………！！」ウツトリ

圭吾「……………かわいい……………」

慎弥「あれ〜？圭吾の奴梓に釘付けだぞ〜？」ニヤニヤ

圭吾「なっ……………／／／」カァー

梓「……………／／／」カァー

修一「二人とも赤くなってる赤くなってる！！」

律「よっ！熱いね〜お二人さん！！」ヒューヒュー

漣「ばかつ！！律！！」チヨイチヨイ



唯「ライブ楽しみ」 「ウキウキ

慎弥「律の奴まだ倒れてやがる……?」

修一「ほらっ、律起きろ」 「ユサユサ

律「だっ、誰か起こすのを手伝っておくれ……ワシは足が弱いんじ  
ゃ……」 「ウウツ

修一「こいつ…?」

圭吾「駄目だよ修一、こいつはそんなに起きねえよ、見てろ……」  
スツ

圭吾「ほらデコ起きろ」 「ペシペシ

律「デコって言うな……!!」 「ウガー!

圭吾「こんぐらいしねえと」

慎・修「?」

ガチャ…

和「失礼します、もう準備は出来た?」

漣「ああ、一応な」

和「じゃあ一時前には舞台裏に来ておいてね、じゃあまた後で……」

漣「ああ、また後で……」

ガチャン……

圭吾「皆支度出来たか？」

7人「はい」

圭吾「じゃあ行きますか………！」

~~~~~講堂、舞台裏~~~~~

圭吾「よいしょと………しっかしアンプ重いな………」

和「あつ、今演劇部だから次があなた達ね」

圭吾「りよ〜かい」

修一「今のうちにドラム組み立てとこ………」

律「あたしも手伝うよ」スツ

修一「おっ、わりいな」

梓「………」ドキドキ

圭吾（梓の奴……かなり上がってんな……）

圭吾「何緊張してんだ？」ポソッ

梓「にやっ!？」

圭吾「にやっ……猫かオメーは？」

梓「すっ、すみません!!緊張してつい……!」

圭吾「緊張してる時は手の平に人って書いてそれを飲んだらリラック  
クス出来るぞ?」

梓「……本当ですか?」

圭吾「やってみなよ」

梓「はい………ンクッ!」グイッ

圭吾「……どうだ?」

梓「……少し気が楽になったような……」

圭吾「……もうそれで大丈夫だ」

唯「……あたしもやってみよ……」

『以上、演劇部でした!』

和「終わった……急いで準備して!」

律「ラジャー!」タタタッ

圭吾「そっち持ってくれ」

生徒会A「よしきたっ!」ヨイシヨッ

……

『次は、軽音楽部の皆さんによるバンド演奏です!』

唯「いつ、いよいよだあ……!」「ドキドキ

ヴィーン 幕が上がる音

観客「きゃ〜漣先輩……!」

漣「うっ!」

唯「皆さんこんにちは!!放課後ティータイムです!今日は日頃の練習の成果を出しきって演奏しますっ!!それでは聴いて下さい!私の恋はホツチキス!!」

律「……ワンツースリーフォーワンツー!」カッカッ!

ジャン……!

ワーワーッ！！！

~~~~~舞台裏~~~~~

圭吾「盛り上がってんな〜……………」

慎弥「やばっ……………緊張してきた……………」ドキドキ

修一「今更何言ってるんだよ！こんなのでっかいライブハウスだと思えばいいんだよー！！」

慎弥「でもな〜……………」

圭吾「……………あつ、終わったぞー！」

~~~~~メインステージ~~~~~

唯「ありがとうございました〜！！」「ペコリッ

~~~~~舞台裏~~~~~

圭吾「よしっ、お前ら手え出せ！」「スッ

慎弥「…やめよ〜ぜ……………古くさい……………」

修一「…俺も……………」

圭吾「いいから出せっー！！」

慎弥「…わかったよ…」スッ

修一「…あゝ恥ずかし…」スッ

圭吾「…よし…：…悔いのないよう演奏するぞっ…！」

慎弥「ああっ！」

修一「任せとけっ！」

圭吾「行くぞーっ…！」

慎・修「おーっ…！」

〜〜メインステージ〜〜

唯「圭吾くん頑張ってるね！」

圭吾「ああっ！」

梓「先輩…：…頑張ってるねっ…！」

圭吾「おっっ！」

透「じゃあ慎弥、頑張れよ！」

紬「頑張ってるね…！」

慎弥「任せなさいっ！」

律「頑張れよ修一…！」

修一「ああっ!!」

『次は、片山圭吾君、山河慎弥君、高山修一君によるバンド演奏です!』

ヴィーン 幕が上がる音

観客「きゃ〜!!!!」

圭吾「え〜…皆さんこんにちは、ボーカル&amp;ギター担当の片山圭吾です」

慎弥「ベース担当の山河慎弥です」

修一「ドラム担当の高山修一です」

観客「きゃ〜!!カッコイ〜!!!!」

圭吾「一生懸命演奏しますんで、皆さん聴いて下さい!!大切なもの!!」

ワーワッ!!!!

ギューーン!!

観客「片山先輩〜!!!!こっち向いて〜!!!!」

〜〜舞台裏〜〜

律「やっぱりあいつらの演奏はいつ聴いてもすげ〜な〜……」

漣「普段はぐ〜たらしてるけどな」

紬「圭吾さん達……凄く輝いてるわね〜……」キラキラ

唯「あつ、ソロに入った！」

梓「……片山先輩はエフェクターの使い方が上手いですね〜……」

唯「ホントだね〜……」

律「そろそろ終わるからあたし達も準備しとこ〜ぜ？」

漣「ああ……」

〜メインステージ〜

憂「ハアハア……何とか間に合った……」ガチャ……

純「でも憂のお姉さんの演奏もう終わってるみたいだよ？」

憂「うそっ!？」

純「だってほら、今梓の彼氏が演奏してるって事はもう二曲だった事だよ？」

憂「そんな〜……」ヘナヘナ

純「まあそんなに気を落さないで……」ヨシヨシ

憂「うん……」

ジャーン ……ドドンー！

観客「きゃ〜！！」「ワーワー……

圭吾「ありがとう！！少し準備がかかるから少しの間待っててね！」

純「……にしても梓の彼氏カッコいいな……」

憂「お姉ちゃんから聞いたんだけど、片山さんってこの高校で一番のイケメンらしいよ？」

純「そうっぽいね……顔はラルクのハイド似だし……ルックスも完璧……悪い所なんて一つも無いじゃん……羨ましいな……梓……あんなカッコいい人が彼氏なんて……」ハア……

憂「そうだね……」ハア……

純「あつ！あれ憂のお姉さんじゃない!？」

憂「お姉ちゃん!？」

純（……溲先輩かわいい……／＼／）



律「皆ありがと〜!」ピース

紬「ありがと〜」

梓（上手く歌えた……）

唯「ありがと〜!〜皆〜!〜!」

ワーワー!!!

『以上、軽音部でした!』

ヴィーン… 幕が下がる音

和「お疲れ様、よかったわよ」

唯「はあ〜…疲れたあ〜…」フニヤフニヤ…

漣「こらこら、まだやる事が残ってるだろ?」

唯「うう〜…」フニヤ…

紬「唯ちゃん?片付けが終わったらケーキがあるわよ?」

唯「!〜!」シャキーン!

漣「さすがムギ…?」

……しばらくして……

……音楽準備室……

律「……プハ〜！〜！やっぱライブ後の水は格別だな〜！〜！」

圭吾「着替え終わったか〜？」ガチャ…

漣「ああ」

圭吾「あ〜疲れた疲れた〜！」ゴロン

梓「汚いですよ先輩！」

圭吾「……ん〜……お構いなく〜……」ゴロ…

梓「…駄目だこりゃ…？」ハア…

修一「親父が軽音部の皆で焼肉でも食ってこいって言われて五万貰ったんだけど、皆どうする？」

律・唯・紬・圭・慎「行きますっ！」

唯「あつ、でもそれじゃ憂一人になっちゃっ…」

修一「憂ちゃんもおいでって言っといてよ、別に問題ないから」

唯「ホント！？ありがと〜修一くん〜！」

漣・梓（うつ……今ダイエット中なのに……）

律「漣と梓は？」

漣「わっ、私は……その……（言えない……ダイエットしてるなんて……）」

律「漣は行かないって」

漣「なっ！！……行くに決まってるだろ！？（ああ……また太る……（泣）……）」

律「梓は？」

梓「えっ！？わっ、私は……」

圭吾「お前まさか太るのが怖いなんて思っただけじゃないか？」ズイッ

梓「うつ……！」グサッ

圭吾「凶星か」ジー……

梓「そっ、そんな事ありません！！行きますよっ！！（また太る……（泣）……）」

圭吾「よっっ」

修「じゃ行きますか!」

「っっして無事ライブは終了した………」

#19 寒い冬のある日……

主吾「…お〜……寒っ！」スタスタ…

唯「おはよ〜圭吾く〜ん！」タタタツ…

憂「お姉ちゃん走ったら転ぶよ!？」

唯「あべっ!？」ステン!

憂「お姉ちゃん大丈夫!？」タタツ

唯「…うわあ〜〜ん!！転んだあ〜〜ん!！（泣）」

主吾「…朝っぱらから何やってんだ…?」ハア…

唯「うえ〜〜ん!（泣）」

憂「ほら泣かないで!お姉ちゃんケガは!？」

唯「…グスツ……してない……（泣）」

憂「よかったあ〜……いきなり走りだすから転ぶんだよ!？」

唯「…ごめんなさい…」

主吾「これじゃどっちが姉かわかんね〜よ……?」

梓「おはようございます……って何かあったんですか？」

圭吾「ああ梓か……このばかが転んで……？」

梓「？」

憂「……大変！！急がないと遅刻しちゃう！！」

圭吾「ヤバツ！！俺今日も遅刻したら一週間トイレ掃除なんだよ！！」アセアセ

梓「遅刻し過ぎですよ？」

圭吾「俺行くわ！！また後でな！！」ダッ

梓「あつ！片山先輩！！」

梓「行っちゃった……」

憂「……片山さんって面白い人だね」

梓「そうかな？……やる事が大胆だし……めんどくさがりだし……でも……」

憂「……でも……何？」

梓「……ううん！！何でもない！！ほらっ！早くしないと遅刻しちゃ

うー!!」

憂「…ホントだ!!お姉ちゃん行くよ!!」タタッ

唯「待つてよ」憂「あずにゃん!!」タタタッ

~~~~~学校~~~~~

梓「…ハアハア…何とか間に合った……」

憂「うん……」ハアハア……

唯「も」歩けない」……」チーン

梓「ほら唯先輩しっかりして下さい!!」

唯「あずにゃん……教室までおんぶして」……」グデー

梓「嫌です!!」

唯「ケチ」!」ブー

憂「お姉ちゃん、自分で行かなきゃダメだよ?」

唯「うう」……」

~~~~~チャイム~~~~~

梓「あつ！早く教室に行かないと！」

憂「お姉ちゃんまたね！」タタッ

梓「唯先輩また後で！」タタッ

唯「うんまた後でね〜！」タタッ

〜〜〜教室〜〜〜

唯「ふ〜！間に合った〜！」ガラッ

圭吾「…ヤバいな」ウーン…

唯「ど〜かしたの？」

圭吾「律と澪が風邪で休みだよ」

唯「え〜！？りっちゃんと澪ちゃんが休み〜！！？」

圭吾「まあ二人くらい休んでもなんてことないから練習は出来るけどな」

唯「でもりっちゃんと澪ちゃんがいなかったら練習する気にならな  
いよ〜…」

ヴー、ヴー…

圭吾「！ メールだ… 慎弥か…」 パカッ

唯「そ〜いえば慎弥くんまだ来てないね〜…」

圭吾「…マジか〜… 慎弥も風邪で休みかよ〜…」

唯「え〜！！？」

圭吾「ばかでも風邪はひくんだ…」

唯「3人もいないんじゃないよ練習にならないよ〜…」

圭吾「確かに…」

ガラッ…

紬「遅刻しちゃった…」 ゴホゴホッ…

圭吾「おお、ムギか… 珍しいな、お前が遅刻するなんて…」

唯「ムギちゃんマスクなんかしてどうしたの？ 風邪？」

紬「うん… でも大丈夫！！ 気にしないで…！！」

圭吾「… ああそうだ、律と澪と慎弥が風邪で休みだよ」

紬「ホント？……私もきおつけないと……」「ゴホゴホッ

担任「よし！出欠とるぞー！！皆席に着けー！」ガラッ

唯「あつ！先生だ！」

圭吾（後で梓にメールでこの事知らせるか…）

紬「……」「フラフラ…

……一限目が終わり、休憩時間……

圭吾「……梓にメールするか……」「パカッ

唯「ムギちゃんなんか顔赤いよ？」「ジー…

紬「…えっ！？本当？多分気のせいよ！」「パタパタ

唯「ホントだよ！！ねえ圭吾くん！！ムギちゃんの顔なんか赤くない！？」

圭吾「…ん？……ホントだ……ムギ顔赤いぞ？」

紬「気のせいよ、きつとー！」「

圭吾「…ん〜……」「スッ…

紬「ちよっ……圭吾さん！？」

圭吾「おま……！！熱あんじゃね〜か！！」

唯「どれどれ〜……ホントだ……！！ムギちゃんひどい熱だよ！？」

紬「大丈夫よ……これくらい……」

唯「よくないよ！！今日はもう家に帰ってゆっくり休んで！！」

紬「でも私が帰ったら唯ちゃんと梓ちゃんと圭吾さんと修一さんの4人だけになっちゃう……」

圭吾「ムギ、唯の言う通りだ……今日はもう早退して家でゆっくり休んだ方がいい……無理したら余計体に悪い……」フワァ〜…

紬「……うん……わかった……今日はもう早退します……」スッ

唯「でも一人で家に帰れる？」

紬「……多分大丈夫だと思う……」フラフラ

圭吾「おいおい大丈夫か？フラフラしてんじゃね〜かよ」

紬「大丈夫……大丈夫だから……」フラフラ

クラッ…

圭吾「……やばっ……！！」ダッ

唯「ムギちゃん！」

圭吾「…っと…！」ガシッ

紬「…………ごめんなさい…………迷惑かけて…………」ハア…ハア…

圭吾「こりゃ一人で帰るのは無理だな…」

唯「急いで保健室に連れて行かないと……………！！」

…………保健室…………

先生「…………はい…………わかりました…………じゃあお待ちしてます…………」  
ガチャ…

圭吾「ムギの親が迎えに来るんですか？」

先生「ご両親はお仕事で来られないらしいから執事の方が迎えに来るみたいよ？」

圭吾「…執事…………ですか…………？」

先生「もうすぐ二限目が始まるから、あなた達は教室に戻りなさい」

圭吾「はい…」

唯「ムギちゃん…！あたし達もう行くけどゆっくり休んでね…！」  
ギョッ…

紬「……うん……!!」「ニッッ……」

圭吾「じゃっ!!」

唯「失礼しました!」

圭吾「失礼しました」

……

圭吾「けどこれで4人だけか……」

唯「そうだね……」

圭吾「練習って言ってもギター3人、ドラム一人だけじゃなあ……」  
……ウーン……

唯「修一くんにはこの事知らせたの?」

圭吾「一応な……けどムギもダウンした事はまだ……」

〜 チャイム

圭吾「まあ昼休みになんか考えるか……次の授業はなんだ唯?」

唯「え〜と……数学!」

圭吾「……寝よ……」

~~~~~昼休み~~~~~

圭吾「梓〜いるか〜？」

生徒達「ねえあの人達って片山先輩と平沢先輩と高山先輩じゃない!?」「ヒソヒソ…」

修一「…凄い視線感じるんですけど……?」

唯「あずにゃ〜ん!」「ヤッホー」

梓「おっ、大勢の前でそのあだ名で呼ばないで下さいよっ!〜!〜!〜! / /」「アセアセ」

憂「お姉ちゃんどうしたの?」

純（あっ!〜!軽音部の皆さんだ!〜!）

圭吾「実は……」

梓「……えっ!〜?ムギ先輩もダウンしたんですか?」

圭吾「そうゆう事、だから今日の部活は無しって事で……」

梓「…そうですか……しょうがないですね……」「シユン」

純「あっ、あの!〜!」

圭吾「ん?」

純「人が足りないならウチの部活と一緒に練習しませんか!〜?無理

なお願いな事は重々承知ですけど……」

圭吾「俺は別に構わないけど……お前らは？」

梓「私も別に構わないですけど……」

唯「オツケーオツケー！！全然オツケーだよ！」

修一「俺は……」

圭吾「あゝ？」「ギロツ

修一「行きます」「キリッ

純「ありがとうございます！！ウチの部も風邪で休んでる人が多くて……」

圭吾「まあ困った時はお互い様だよ、よろしく！……え」と

純「鈴木 純です！！」

圭吾「純ちゃんか、よろしく！」

純「こちらこそよろしくお願いします！！」

唯「憂も来ない？」

憂「えっ？あたしが行っても邪魔になるだけだよ」

圭吾「そんな事ないよ、暇だったらおいでよ」

憂「…はい…じゃあお邪魔させていただきます…」

圭吾「うしっ！！話も終わった事だし、メシでも食つか…」

修一「ごつつあんです！」スッ

圭吾「殺すぞボケ？」

~~~~放課後~~~~

圭吾「ここがジャズ研か……」

修一「こんな所にあっただ…」

唯「……ふわあ……」ウトウト……

梓「また唯先輩寝てたんですか??」

憂「お姉ちゃんたら……?」

純「まあ汚い所ですが、どうぞどうぞ!!」ガチャ……

圭吾「へ……結構いろんな種類の楽器があるんだ……」

純「楽器の数ならブラバンにも負けないですからねっ!!」

梓「…凄い…」

純「……あっ！！ベース教室に忘れてきたっ！！」タタッ

梓「何やってんのもう……？」ハア…

圭吾「…あの子ベースやってんのか？」

梓「はい、漣先輩に憧れてベースにしたらしいですけど……」

修一「あいつは人気あるな…」

一方、漣は……

漣「ハックションッ！！……ズズ……誰か……あたしの噂でもしてるのかな……？」

……

圭吾「…遅いな…」

ガチャ…

ジャズ部員A「そろそろ！それで……！！」

ジャズ部員B「はははっ……ってあれ？」

圭吾「あっ！！俺等別に怪しいもんじゃねーから！！」

ジャズ部員A「もしかして軽音部の皆さんですか！？」

圭吾「？ 俺等の事知ってんの!？」

ジャズ部員A「もちろんです!!いつも純ちゃんが軽音部の皆さんの事を話していますので...!」

唯「なんだか照れちゃうな... / / / 「エへへ

純「ハアハア...」ガチャ...

憂「大丈夫純ちゃん!？」

圭吾「スゲー息上がってんぞ?大丈夫か?」

純「はっ...はい...」ゼエゼエ...

梓「大丈夫じゃないじゃん?」

ジャズ部員A「遅いよ純ちゃん~!」

純「ごめんごめん... ベース教室に忘れて来ちゃったからそれで教室まで戻ってたんだ」へへ...

ジャズ部員A「も... 純ちゃんったら...」

ジャズ部員B「ホント純ちゃんっておっちょこちよいね...」

純「えへへ...? ... あっ!それより今日は軽音部のの人達と一緒に練習する事になったんだ」

ジャズ部員A B「ホント!？」

圭吾「ああ、よろしくな」

唯「任せなさいっ!」

修一「…けど三年の人達はいないのか？」

純「三年生は学年閉鎖らしいですよ?」

圭吾「いいなあ〜……二年も早く学年閉鎖になんね〜かなあ〜……」  
ハア〜…

梓「先輩!」

圭吾「おうっ!?!」ビクッ

……ジャズ研と軽音部の合同練習が終わり、校門前……

純「今日はありがとうございましたっ!!」ペコリ

ジャズ部員A・B「ありがとうございましたっ!!」ペコリ

圭吾「まあ今日教えた事家でしっかり復習するようにな」

唯「お腹へったあ〜!!」

憂「お姉ちゃんったら……?」

修一「早く帰る〜ぜ?」

圭吾「そうだな……もう暗いし、そろそろ帰るか……じゃあな」スッ

純「ありがとうございますっ!!」

……

ジャズ部員A「……やっぱり片山先輩はカッコいいわねえ〜……」

ジャズ部員B「そーいえばあんた片山先輩のファンクラブに入った  
!?!」

ジャズ部員A「当たり前じゃん!!片山先輩のファンクラブは桜高  
でトップ3に入るほど超人気のファンクラブなんだよ!?!」

ジャズ部員B「そうなんだ……?……でそのトップ3の中で誰のフ  
ァンクラブがナンバー1なの?」

ジャズ部員A「確か……漣先輩のファンクラブだったと思うけど……  
……」

ジャズ部員B

純「……」ウーン……

ジャズ部員A「どうかしたの純ちゃん？」

純「…いや、なんでも……早くあたしらも帰ろっ！」

……

圭吾「ロケットパンチ」シュッ

修一「ぐはあっ！？」

梓「？」

修一「……て……てめえ……いきなりなにすんだ……」

圭吾「なんとなく」

憂「………？」

唯（痛そ〜……）

修一「てめえ………このっ！」「シュッ

圭吾「よっ」「ヒョイッ

修一「おわっ！？」「スカッ

圭吾「はっはっはっ、まだまだ甘いぞ修一！」「べっしん

修一「…こんのお〜……（怒）」

梓「もう二人とも！！みつともないから止めて下さいよっ！！」

唯「……あっ！雪だ！！」

憂「…ホントだ！！」

圭吾「おっ……」

修一「雪か……何年ぶりだろ……」

梓「そんなに珍しいですか？」

修一「俺実は中3の時に大阪から桜ヶ丘に引っ越して来たんだよ、俺は大阪の南側に住んでたから雪なんて滅多に降らなかったよ……まあ降っても奈良県寄りだけだな」

梓「高山先輩って関西の方だったんですね……」

修一「ごめんね関西の人間で（怒）」

梓「あっ……！！そんなつもりじゃ……！！」アセアセ

憂「でも高山さん標準語お上手ですよね！」

修一「そっ、そっ？」

圭吾「でもたまにキレたら関西弁になるけどな」

修一「ばっ、馬鹿！！それを言うなっ！！」アセアセ

唯「例えばどんな？」

圭吾「確か一週間前……俺と慎弥が修一のクラスに遊びにいった……」

~~~~~一週間前~~~~~

圭吾「おゝす」

慎弥「遊びに来てやったぞ」

修一「……グー……」スヤスヤ……

圭吾「寝てやがる……？」

慎弥「……しょうがね……んっ!？」

圭吾「どうした？エロ本でも見つけたか？」

慎弥「グミはっけ……ん　ひとつ食べちゃお……」スッ

圭吾「見つかったら修一に怒られんぜ？止めとけて……!!」

慎弥「いただき……」パクッ

圭吾「聞いちゃいね……なこのばか……!!？」

修一「……ん……」ムケッ

圭吾「あっ、起きた」

修一「……あれっ？……ここに置いてあったグミは？……」

慎弥「……へっ？」

修一「……お前か？（怒）」トントント……

圭吾「俺し〜らねっ！」「タッ

慎弥「あっ！おい！？」

修一「慎弥お前……食べ物への恨みは怖いぞポケエ……どつ落と  
し前つけてくれるんやゴルアア！？」

慎弥「ひいひいひい……」

……

圭吾「……て感じ」

梓「……？」

憂「……？」

修一「……改めて思うと……恥ずかしい……／＼／＼」

唯「なんでやね〜ん！」「ビシッ

修一「?」キッ

唯「ひいいい(泣)」

圭吾「今は唯が100%悪い」

びゅううううう〜!!

全員「っ!!」ブルッ

圭吾「おいっ…あそのコンビニに入る〜ぜ?…」

梓「…さむ〜!」ガタガタ

唯「あ〜…なんかお花畑が見えてきたよ〜…」ウヘヘ〜…

憂「お姉ちゃんそれあの世寸前じゃない!!寝ちゃダメっ!!」パ  
シパシッ

修一「早く入ろう…あの世寸前の奴がいる…」ガタガタ

圭吾「そうだな…?」

店員「いらっしやいますえ〜」

修一「お〜…生き返ったあ〜…」

梓「外は凄い雪ですね〜…」

唯「明日積もるかなあ〜…………ふえっ…………ふえっ…………ぶあつくしょん  
っ…!」

梓「ひいつ!?!」ビクッ

憂「お姉ちゃん汚いよっ!?!ほらっ、鼻かんで!」

唯「ふあ〜い…………チーン!

圭吾「…………ん!?!」ジー…

修一「…………どうした?」

圭吾「これ見てみるよ…………」スッ

修一「…………12月31日、広場にてカウントダウン花火大会…

…………大晦日か…………」

圭吾「ちげ〜よバカ、そっちじゃね〜よ、その下見てみる」

修一「…………尚、前座イベントとしてバンド演奏出演者を募集します

…………ジャンルは問いません、お気軽にご参加下さい…………」

圭吾「これに参加してみね〜か?」

修一「わりい、この日俺大阪に帰るからちよっど…………」

圭吾「が〜ん!?!」

梓「どうかしたんですか?」「ヒョコッ

修一「梓これ見てみ」スッ

梓「…ああ、このイベント毎年してますよね、これがどうかしたんですか?」

修一「その前座のライブに出ないかって話」

梓「ええっ!?!」

唯「ど〜かしたの〜?」

梓「これちよつと見て下さい」スッ

唯「ん〜……」「ジー……」

憂「どれどれ〜?」「ヒョコッ

唯「…あたしこれに出たい!」「ハイッ!

圭吾(一人目ゲット)

梓(唯先輩が何故か張り切ってる……)

唯「あずにゃんは!?!」

梓「わっ、私は………)(どうしようかなあ………)」

圭吾「一緒にライブ出よ〜せ梓！」ズイッ

梓「ひいっ!!」ビクッ

唯「出よ〜よあずにゃん！」ズイッ

梓「ち、近いです2人とも…?」

唯「ね〜ね〜あずにゃん」

梓「わっ、わかりましたよ!!出ますよ!!」

圭・唯「イエス!!」ハイタッチしてる

修一「うるせ〜ぞお前ら」

憂「…あっ！外凄い吹雪…!!」

圭吾「ホントだ…早く帰ろっぜ?」

~~~~~外~~~~~

びゅっううううっ!!…!!

全員「…!!」「ブルッ

圭吾「こ…こりゃ早く帰った方が良さそうだな…」

梓「ですね……」ブルブル

……

圭吾「……うへえ……スゲー吹雪だなこりゃ……皆大丈夫か？」ブルブル

唯・梓・憂・修「……」 圭吾を盾代わりにしている

圭吾「……何してんの君たち??」

修一「いや吹雪が凄いから……お前身長でかいじゃん?だから……」

圭吾「人を盾に使うなポケエ!!?」ガンツ

修一「いでっ!!なんで俺だけ……?」

圭吾「ふざけやがって……」サツ

唯「っ!!さっ、さむ〜!!」ガタガタ

憂「お姉ちゃん大丈夫!？」ガタガタ

梓「さっ、寒いよ……」ガタガタ

修一「……何か……眠たくなってきた……」ウトウト

梓「はいっ!?!」ガビーン

圭吾「そんな馬鹿ほっとけ、行くぞ」スタスタ

修一「お前は友達を助けようという心は無いのか〜!!」ウガーッ

圭吾「無い、お前と慎弥は特にそうだ」キツパリ

唯・梓・憂「…?」

……しばらくして……

修一「じゃ俺らはここで……」ガタガタ

唯「じゃ、じゃあね圭吾くんあずにゃん」ガタガタ

憂「ま、また明日」ガタガタ

圭吾「じゃ、じゃあな」ガタガタ

梓「た、高山先輩は電車は大丈夫何ですか？」ガタガタ

修一「た、多分大丈夫だと……」ガタガタ

圭吾「…くあ〜!!もう無理だ!!じゃあな!!」タタタタッ

梓「…あっ!!待って下さいよ!!」タタタタッ

……  
修一「うゝ……早くバス来いやあゝ……」ガタガタ

唯「しゅ、修一くん、また明日」ガタガタ

憂「さようなら」ガタガタ

修一「ああ……バイバイ……」ガタガタ

……

圭吾「……今日予報じゃ大雪なんて言っただけなのに……当てにならねゝな天気予報は……！！」ガタガタ

梓「天気予報はそんなものですよ……」ガタガタ

圭吾「そつだよなあゝ……」ガタガタ

梓「うゝ……」ガタガタ

圭吾「……」ガタガタ

圭吾「……梓？」チヨンチヨン

梓「は、はい？……え？……」ガタガタ

圭吾「……こうすれば少しは温かくなるだろ……」ギョッ……

梓「せつ、先輩！！／＼／」カァー…

圭吾「お〜……あつたけえ〜……」

梓「…／＼／」ギユウツ

圭吾「ふう〜……梓俺ん家来ないか？コーヒーでも飲んでいけよ」

梓「えっ、でも……」

圭吾「遠慮すんなって」

梓「じゃ、じゃあ……」

〜〜〜圭吾宅〜〜〜

圭吾「ふう〜さみ〜さみ〜！！」ガチャ

梓「おじやましま〜す……」

圭吾「まあ上がれよ、今コーヒー入れるから……」

梓「はい……」

梓「……」

梓「……あれっ？あそこにギターが……片山先輩もつ一本持ってたんだ……」

圭吾「お待た〜」

梓「先輩もう一本ギター持ってたんですね」

圭吾「ああ、でもちよつと派手だけどな……何なら見てみるか？」

梓「いいんですか？」

圭吾「よいしょつ……このギターあまりにも派手すぎて皆にはこのギターは見せた事ないんだ実は」

梓「へ……どこのメーカーのギターですか？」

圭吾「フェルナンデスのストラトだよ」

梓「レスポールもフェルナンデスじゃありませんでしたっけ？」

圭吾「うん、フェルナンデスの方が扱いやすいんだ俺的には……ほらっ、こいつだ！」スツ

梓「す、凄い派手なギターですね……？」

圭吾「指板の所も赤ってかつこ良くね〜か？」

梓「このギター……見てて目がチカチカしますね……？」

圭吾「……やっぱり??姉貴にも同じこと言われたよ……」

梓「で、でもカッコいいですよこのギター!」

圭吾「…ホントか？」

梓「先輩らしくていいと思います!!」

圭吾「そっ、そう?…んじゃ明日からコイツ持って行くのかな…?」

梓（えっ!?!）

圭吾「早く明日になんね〜かな〜」ワクワク

梓「はあ…?まあいつか…」

圭吾「ちよつと弾き語りしてみよ」スツ

圭吾「…オホンツ…ずっと眺めていた〜」ジャカジャカ

梓「…ふふっ…」

圭吾「大晦日のライブはどの曲にしようか梓？」

梓「まだ決めるのは早くないですか?律先輩達のOK貰ってないですし…」

圭吾「あっ!そうだった…」

梓「…?」

圭吾「しゃ〜ね〜…電話で返事聞くか…」カチカチカチ…

梓「ちよつ……！！ダメですよ……！！」

圭吾「……まずは律から……」プルルル……

梓「聞いてない……（泣）」

律「……もしもし……？……ゴホゴホッ……」

圭吾「よゝ大丈夫か？」

律「大丈夫なわけないだろ……ゴホゴホッ！」

圭吾「それもそうだな（笑）実は頼みごとがあるんだけど……」

律「……なんだ？」

圭吾「えつとな……」

律「……その日は大丈夫だよ……任せとけ！……ゴホッゴホゴホッ！」

圭吾「っ！馬鹿デカイ声出すな……！」キーン

律「ごめんごめん……で、皆はどうなんだよ？」

圭吾「唯と俺と梓は大丈夫なんだけど修一はその日は実家に帰るか  
ら無理だつて」

律「そうか……それは仕方ないな……」

圭吾「そう言う事だ……まあ早く風邪治せよ」

律『ああ……ありがとう……ゴホゴホッ……』

圭吾「じゃあな」「ピッ

梓「どうでした?」

圭吾「任せとけだよ……あいつ風邪ひいても元気だな……」

梓「律先輩らしいですね?」

圭吾「あと漣とムギと慎弥か……」カチカチカチ……

梓「漣先輩とムギ先輩には私がメールで聞いてみます」

圭吾「ああ、頼むわ……じゃ俺は慎弥に電話で……」

梓「メールでして下さいっ!」

圭吾「うっ……わかったよ……」

……数分後……

ブーッ、ブーッ、

圭吾「おっ!きたきたっ!」パカッ

梓「なんて来ましたか?」

圭吾「ん……多分大丈夫だってよ……しっかりしね〜野郎だなア

イツ……」

梓「山河先輩らしいですね？」

ヴーッ、ヴーッ、

梓「あつ！メール来た！」カチカチカチ

圭吾「なんて返事来た？」

梓「ムギ先輩は大丈夫らしいですけど……澁先輩はその日は無理って来ましたよ？」

圭吾「無理じゃ仕方ね〜な……このメンツで出るしかね〜な……」  
ハア……

梓「そうですね……」ハア……

梓「……話変わるんですけど、先輩は卒業したら進路はどうするんですか？」

圭吾「俺？俺は卒業したら美容師になりたいから美容師の専門学校に行くよ」

梓「美容師ですか？」

圭吾「何〜？何か変かよ〜？」「ブ-

梓「あつ、いえ別にそんな事…！！」「アセアセ

圭吾「…………あ〜…………暇だな〜…………」「ゴロンッ

猫「にゃ〜」「トコトコ

梓（あつ）

圭吾「んっ？コイツ姉貴の部屋から出てきやがったな…………ホレホレ  
」「コチヨコチヨ…………

猫「にゃ〜ん」「ゴロゴロ

梓「かわいい…………ノノノ」「ジーツ

圭吾「梓、抱いてみるか？」「ヒョイッ

猫「にゃ  
」

梓「えっ！？いいんですか!？」

圭吾「いいよ」「スッ

梓「…………じゃあ…………ノノノ」「スッ

猫「にゃ〜ん」「ゴロゴロ」

梓「…か、かわいい…／＼／」ナデナデ

圭吾「姉貴が同じ会社の同僚の人から貰って来たんだ」

梓「この子猫何カ月何ですか？」

圭吾「三ヶ月」

梓「三ヶ月にもなるんですか……」

圭吾「まあ家族が増えたみたいでよかったよ……」

梓「そうですね……名前はあるんですか？」

圭吾「雄だからミー太ってつけたんだけど……変かな？」

梓「いえっ！とっってもいい名前ですよ！？」

圭吾「…そうっ？」

梓「はい！よろしくね？ミー太くん」「ナデナデ

ミー太「にゃん」「スリスリ

圭吾「おっ？早くも梓になついているなコイツ……！」

梓「…／／／」

圭吾「…あっ…猫と言えば…梓、この前修一ん家に泊まったの覚えてるか？」

梓「えっ？はい…覚えてますけど…？」

圭吾「その時お前凄い事になってたんだぞ？」ニヤニヤ

梓「？」

圭吾「その一部始終を撮った動画が確か…」カチカチカチ…

梓「…私がどうかしたんですか？」

圭吾「まあ見てみって！ホレッ」スッ

梓「…？」ジーッ

………

梓『……にゃ……』ウィック…

慎弥『おっ、おもしろ〜！……！』（爆）』

修一『はっ、腹痛てえ〜！（爆）』



唯『あつ、あずにゃんかわいい過ぎるよ〜……………!!』ダキッ

梓『フーツ!!!』カリカリカリ

唯『いたたたつ!!!』

澪『もう完全に猫だな…?』

紬『梓ちゃんこの猫耳付けてみて』スッ

梓『…にやつ……………』スチャッ

唯・紬『おお〜』パチパチパチ

慎弥『遊ぶなお前ら?』

梓『にしゃ〜!!』

唯『えっ?元に戻せて?』

修一『無理だろ、酒が抜けるまでは』

梓『にゃっ!!?』ガビーン

……………

梓「な……………」ポカーン

圭吾「……………思い出した？もしかして？……………」

梓「この次の朝私起きたらやけに頭が痛かったと思ったら……………まさか間違ってカルピスサワー飲んでたなんて……………」ズーン……………」

圭吾「まっ、まあ誰にでも過ちつてもんはあるもんだよ!!」

梓「……………」ズーン……………」

圭吾（まっ、まずい……………梓の奴かなり病んでしまったな……………？）

圭吾（そうだ!）

圭吾「ミー太、こっち来い」チヨイチヨイ

ミー太「にゃ?」トコトコ

圭吾「梓の所に行って慰めてこい」ゴニョゴニョ……………」

ミー太「につ、にゃあっ!?!」 『僕が!?!』と言っている

圭吾「上手くいったら今日の晩飯は高級キャットフードな、しかも缶詰めの」

ミー太「にゃっ!?!」 『やりますっ!?!』と言っている

圭吾「じゃ頼んだぞ」ポンッ

梓「…はあ〜……」ズーン…

ミー太「に、にやあ〜」「トコトコ

梓「…ミー太くん……どうしたの？……」

ミー太「にやにやにやにやっ！」「ポンッ

梓「……私を慰めてくれてるの？」

ミー太「にやあっ！！」

梓「……っ！！ありがとうミー太くんっ！！」「ギュッ！

ミー太「に、っ、に、や〜……！！」「『苦しい』と言っている

圭吾「梓梓、ミー太が死ぬ死ぬ？」

梓「あ……」

ミー太「に、やあ……」

……

梓「じゃあ私はそろそろ……」

圭吾「おう、また明日な」

梓「はい……ミイ太くんまたね」

ミイ太「にゃあ」

梓「じゃあ先輩……さようなら」ペコリ

圭吾「ん……」スツ……

ガチャン……

圭吾「……雪……やんだな……」

ミイ太「にゃあ〜？」『「飯は〜？」と言っている

圭吾「ん？……ああそうだったな……缶詰め買ってきてやるから大人しく待ってるよ？」

ミイ太「にゃ」

.....今年もあと10日.....

#20 大晦日！！（前書き）

このお話にはL・Arc〜en〜Cielの曲を抜粋しております、ラルクが嫌いな人はスルーして下さい（〃・・・）ノ

#20 大晦日！！

~~~~音楽室~~~~

さわ子「じゃあ終わったら鍵職員室に持って来てね？」

律・唯「はい」

ガチャン……………

圭吾「全員いるな？」

紬「まだ慎弥君が来てないみたい……」

圭吾「…………ハア…………全くしよ〜がない奴だ…………」

律「しつかし今年も後2日かあ……………」

唯「早いね……………」

梓「律先輩、澁先輩は今日来ないんですか？」

律「澁の奴なら今頃おばあちゃん家に向かっているんじゃないか？」

圭吾「そつか…………澁の奴来ないんだった……………」

唯「修一は今頃大阪かなあ……………」

圭吾「いや、今日の昼に大阪に行くらしいからまだいるぜ？」

唯「そうなんだ〜……………」

慎弥「わりいつ！遅れて……………！」ガチャ

圭吾「おせ〜ぞ慎弥〜？9時半集合だぞ〜？」

慎弥「だからごめんって……………」

梓「揃った事だし……………早速練習しましょう！」

圭吾「そうだな、ちやっちやとやるか……………」

唯「圭吾くん、ちょっとココわからないんだけど……………」スッ

圭吾「どれ？……………ココはだな……………」

唯「……………なるほど！」

圭吾「わかったか？」

唯「うんっ！ありがとう圭吾くん！……………」

律「準備はいいか〜？」

唯「オツケー！」

梓「はい！」

紬「はい」

慎弥「おう」

圭吾「ああ」

律「よし……ワンツースリーフォーワンツー……」カッカッ！

梓<sup>よし……</sup>ジャカジャカ

……因みにパートは

律……ドラム

唯……リードギター

紬……キーボード

梓……リズムギター

圭吾……ボーカル

慎弥……ベース&amp;コーラス

曲……L・ArcのNew World

……

圭・慎「闇を裂いて溢れ出した」

圭吾「光り 掴み」

圭・慎「掲げろ」

圭吾「I'm awaking in the new world」

.....  
ジャーン.....

梓「.....ふう.....」

慎弥（ベース弾きながらハモるのやっぱ難しいな...）

唯「あゝ疲れた.....」

紬「皆？お茶にしましょ？」

律「おっ？いいね」

圭吾「ひと休みするか.....」

.....

律「いやゝやっぱ圭吾はボーカル似合ってるよな」ズズ.....

圭吾「そーゆーお世話止めてくれ？」ズツ.....

紬「でも圭吾くん凄くいい声してるわよねえ.....」

梓「ボイストレーニングとかしてるんですか？」

圭吾「いや……特に何も……」

唯「あたしは毎日ボイストレーニングしてるよー!!」「ハイッ!

律「ただぎゃーぎゃー言ってるだけだろー?」(笑)

唯「ひっど〜いっ!!」「ガーン!

慎弥「ふわあ〜……ねむ……」

圭吾「あと2〜3回やったら終わろ〜ぜ?」「スッ

律「そ〜だな、そうしよ」

……

一方、修一は……

修一「大阪に帰るの去年の夏以来やなあ〜……」

京一「そうだなあ〜……」

修一「……」

修母「修一早くしいやー!! 高速混んでしまつやる!?!?」

修一「ん? ああわかったオカン!」タッ



唯「あたしも行ってもいい〜?」

律「あたしも行く〜!!」

紬「私も〜」ハイ

梓「……私も……行きます……」ボソッ

圭吾「ん?なんか言ったか梓?」

梓「へっ!?!いえ何も……!」

圭吾「?」

……

~~~~~ラーメン屋~~~~~

圭吾「オヤジ、俺キムチラーメン!」

慎弥「俺ラーメンセット」

律「醤油ラーメン!」

唯「あたしはとんこつラーメン!」

紬「塩ラーメンをお願いします」

梓「私も塩ラーメンを……」

大将「へいつ！少々お待ちを……！」

紬「これが……ラーメン屋さん……！」キラキラ

梓「ムギ先輩ラーメン屋は初めてなんですか？」

紬「うんっ！」キラキラ

律「へ……？」

圭吾「帰ったら暇だなあ……」

慎弥「確かに……」

……

律「あたし達も来年で軽音部引退かあ……」

紬「そうねえ……」

唯「引退したくないな……」

圭吾「律達はもう進路決めてんのか？」

律「まだ」キツパリ

圭吾「っ……！」ズルッ

唯「ダメだよりっちゃん、進路決めておかなきゃ……！」

律「そ〜ゆ〜唯はどうなんだよ〜？」

唯「…へっ！？」「ポカン」

圭吾「お前もか…………？」

慎弥「このまま行ったら二ートの仲間入りだな」

律・唯「今回は重いよその言葉！！」「グサツ」

梓「…………？…………ムギ先輩は進路はどうするんですか？」

紬「私は一応女子大の方に…………」

圭吾「女子大？隣町のあの名門女子大か？」

紬「えっ、ええ…………まあ…………」

梓「凄い…………」

大将「はいよっ！ラーメンお待ち！！！」

圭吾「おっ、きたきた！早く食お〜ぜ！」

律「旨そ〜！！！」

紬「ホントね」

唯「いい匂い」

梓「わあ……」

慎弥「チャーハンも旨ぞ」

……数分後……

大将「毎度ありっ!!」

圭吾「う……食べた食べた……」

慎弥「旨かった……」

律「唯、歯にネギくっ付いてるぞ? (笑)」

唯「えっ? ホント?」

圭吾「汚な……?」

?「お兄ちゃん……!」

圭吾「この声……まさか……」

慎弥「……」ポリッ……

唯・梓「?」

？「も〜お兄ちゃん！遅くなるならメールぐらいしてよっ！」ガ  
ミガミ

慎弥「あ〜はいはい、ごめんって……！！」

ぎゃーぎゃー……………

唯「…あの〜…………圭吾くん？この人誰？」

圭吾「慎弥の妹」

唯「えっ！？」

律「しつかし…………仲がいいのか悪いのか…………」

紬「いいわねえ…………」キラキラ

？「全くも…………あっ！圭吾くんこんにちは……！」ペコッ

圭吾「よっ、久しぶりだな愛美ちゃん」

律「愛美ちゃん！お久〜！」

愛美「律さん！お久しぶりですっ！」ペコッ

梓「山河先輩と性格がまるっきり反対だ…………？」

慎弥「愛美、こいつらにもちゃんと挨拶しろよ」



圭吾（事故だけは……な……）

キヤアアアアツ！！！ドンツ！！！

幼圭吾「お父さんお母さん！！！」

……

圭吾「……くっ……」クラッ

紬「…圭吾くんどうしたの？具合でも悪いの？」

圭吾「えっ？いやなんでも？」

紬「？」

圭吾（くそ……あの時の記憶が蘇ってきやがった……）

律「じゃ～あさってまた今日と同じ時間に学校に集合なっ！」

慎弥「でもその日から先生誰もいないんじゃない……」

律「警備のおじさんがいるんじゃない？」

慎弥「いい加減だなおい？」

圭吾「俺先帰るわ、なんか頭痛て〜し……」

愛美「圭吾くん大丈夫？」

圭吾「まあただの偏頭痛だと思っし…寝りゃ治るよ……じゃあな…  
…」スッ

梓「先輩お気をつけて」

律「無理すんなよ？」

唯「またね〜！」

紬「お大事に〜……」

慎弥「ゆっくり休めよ〜」

圭吾「ああ……」スッ

……

律「あたししらも帰るか……」

紬「そうね……」

唯「うん……」

梓「はい……」

慎弥「バイクどこに置いてあんの愛美？」

愛美「ガレージに置いてるよ」

慎弥「さっそく帰ったらファーストインプレッションだ」

愛美「その代わりくれぐれも変な真似はしないでよっ!？」

慎弥「へいへい…」

……

~~~~~圭吾モ~~~~

圭吾「ただいま……」ガチャ……

ミー太「にゃ……」トコトコ……

圭吾「ミー太か……後で飯出してやるから待ってる……」スッ

圭吾「……ふい……」ドカッ……

圭吾「……」チャリッ

圭吾「……この首飾りも随分長いコトしてるよなあ……」

圭吾「……………んっ?」ガサゴソ

圭吾「くそっ……………タバコ切れてやがる……………」

圭吾「……………後で買いに行くか……………」

ピンポーン……………

圭吾「? 誰だよめんどくせえ……………」スッ

圭吾「新聞なら間に合ってますよ」「ガチャン!

?『えっ!?!ちよっ……………』ブツンッ!

圭吾「……………ふう……………」

ピンポピンポピンポーン!!!

圭吾「…?」「イラッ

圭吾「だくから……………新聞なら間に合ってます……………!!」「ガチャ

梓『新聞の勧誘じゃありませんっ!!梓ですよっ!!』『ウガー!

圭吾「えっ?」

梓「先輩の様子がおかしいと思って来てみたら新聞の勧誘と間違えるなんて……!!」

圭吾「ごっ、ごめん……今開けるわ……」

圭吾「も、申し訳ありやせんでしたあ……」ガチャ……

梓「……」ムス……

圭吾「ま、まあ上がれよ!!」

梓「……おじゃまします……」

……

ミイ太「にゃ」トコトコ

梓「こんにちはミイ太くん」ナデナデ

ミイ太「にゃ」スリスリ

圭吾「……で？用件はなんだ？」

梓「あ……そうだった……先輩に良い物持って来たんです！」ガサゴン

圭吾「良い物？」

梓「これです！」ジャーン

圭吾「……何これ？」

梓「指を鍛える道具です！」

圭吾「へっ、へえ……？まあありがたく貰っておくけど……？」

梓「えへへ……ノノノ……んっ？先輩これからどこかに行くところ  
だったんですか？」

圭吾「ああ……父さんと母さんの墓にな……」

梓「……私も行っていいですか？」

圭吾「別にいいけど……なんで？」

梓「一応先輩のご両親にも挨拶しておこうかなと……」

圭吾「ふう〜ん……まあいいけど……じゃあさっそく行くか……」  
スッ

梓「はい！」

……

圭吾「梓、ちょっと待っててくれ」

梓「はい……」

圭吾「おばちゃん！タバコ一箱ちょうだい！」

梓「ってコレコレコレコレッ！！」「ビシッ

圭吾「なんだ？」

梓「何タバコ買ってるんですかつ！！？」

圭吾「早まるなバーカ、父さんがタバコ好きだったからいつも墓にタバコ持って行ってんだよ！！」

梓「な、なんだあ……」「ホッ……」

圭吾「そこまで俺はグレてね……はやおばちゃん、320円ここに置いとくね……」「チャリン

梓「……」

圭吾「梓、行くぞ！」

梓「えっ！？あつ、はいっ！」タッ

~~~~某墓場~~~~

圭吾「ここだよ」

梓「このお墓が……先輩の……両親の……」

圭吾「父さん、タバコ持って来たから吸いなよ」シュボツ

梓「……………」

圭吾「母さんには大好物だった苺大福を……………」

圭吾「……………」スッ…

梓「……………」スッ…

……………

圭吾「よしっ、帰るか」

梓「……………」あれっ?」

圭吾「どうした?」

梓「今……………律先輩がいたような……………」

圭吾「……………」ピッピッピッ

梓「先輩?」

圭吾「……………」トウルルル……………」

ピッピッピッピッ

律「あわわわっ……！！！！マズい……！！！！」アタフタ

圭吾「…何やってんだオメーはよ！」

律「いつ、いや〜……この近くを通りかかったらあんた達2人が見えたから……」

梓「なんで隠れてたんですか??」

律「なんか出ていっても気まずい雰囲気だったから……?」へへへ…

圭吾「…ハア」

律「圭吾、あたしも墓参りしていいか?」

圭吾「ああ、いいぞ……」

律「サンキュー……」

律「……」スッ…

圭吾「……」

梓「……」

律「もう圭吾のおじさんとおばさんが亡くなって5年かあ……」

圭吾「早いもんだよな……」

律「よいしょっと……圭吾あんたまだあの首飾りしてるのか？」

圭吾「ああ、ホラッ」チャリッ

梓「確か……その指輪……」

圭吾「父さんと母さんの指輪だよ」

律「大事にしてるんだな……」

圭吾「ああ……これは命より大切な物なんだ……」チャリッ

カツ「……」  
梓

圭吾「それより早く帰ろう、俺早く帰ってミー太に餌やんなきゃな  
んね〜から……」

律「なんだ！？圭吾の家猫飼ってるのか!？」

圭吾「うん」

律「見てみてえ〜……!」

梓「とつてもかわいいですよ!……!」

律「梓もう見たのか!？」

梓「はい!」

圭吾「家の猫、やけに梓になつくんだよ」

律「多分同類だと思ったからじゃないか?」(笑)

梓「ちよっ……からかわないで下さいよっ!」

ブオオオオン……ブオンツ!……

圭吾「なんだ?」

律「真つ昼間から暴走族が暴れてるのかあ?」

梓「あつ、バイクがこっちに来ています」

ブオオオオ……キキーツ!!

律・梓・圭「?」

慎弥「よっ!」

律・圭「お前かいつ!」どーん

慎弥「3人でなにしてんの？」

梓「いえちよつと……山河先輩は？」

慎弥「燃料入れにスタンドに行つて来たんだ」

圭吾「ふうん……てか燃料タンクちっちゃくないか？」

慎弥「当たり前だろ、50ccだし……」

律「……なんか曇つてきたなあ……」

梓「本当ですなあ……」

慎弥「じゃ俺帰るわ、早く帰んね」とアイツがうるせえから

圭吾「おお、きいつけて帰れよ」

律「スピード違反で捕まんなよ？」（笑）

梓「律先輩……？」

慎弥「縁起の悪い事言つなや？……じゃっ……！」

ブオオオオン……ブオオオオ……

ポタッ……

律「……嘘っ!? 降ってきた!」

圭吾「ヤバっ!! 風邪ひくっ!!」

梓「まだ小雨ですから急いで帰りましょう!」

律「走るぞー!!」 タツ!

圭吾「おいつ! 急いで走ったら……!」

ツルツ!!

律「へぎゃっ!!」 ビターン!!

梓「片山先輩、もう手遅れです……?」

圭吾「……?」

……

圭吾「……なんで俺がお前をおんぶして家まで送ってやらなきゃなんねーんだよっ!」

律「だつてえ〜……足怪我してるしい〜……梓が私をおんぶ出来るわけないじゃ〜ん……体格違うしい〜……」

圭吾「くそっ……なんで俺がこんなこと……しかも律……」

律「悪かったな私でっ!？」

梓「……あつ、着きましたよ律先輩!」

圭吾「オラ、さっさと降りろ律」

律「いや〜ありがとうありがとう!〜後は我が弟に任せるから」

梓「？」

圭吾「……律、一言言わせてくれ……」

律「何？」

圭吾「……お前……太ったろ?……」

律「こんのポケエエエエエエエツ!!?」ダツ!

圭吾「おま……走れんじゃね〜かよ〜!……」

……

梓「……?」

梓「……私も帰ろ……」トボトボ……

……そして、ライブ当日の朝……圭吾の家……

律「雨……止まないな……」

梓「そうですね……」

唯「ね、このまま夜まで降り続けたらどうなるの？」

圭吾「そりゃあ……中止だろ……」

紬（……そうだ）

紬「ねえみんな！てるてる坊主作らない？」

律「おっ？それいいなっ！！」

唯「作るう作るう！」

慎弥「てるてる坊主か……まあこんな天気だしお守り代わりに作ってみつか……」

梓「ムギ先輩それいいアイデアですね！」

紬「えへへ／＼／＼」

律「圭吾！！早速ティッシュと輪ゴムとマジックだっ！！」

圭吾「命令すんなっ！！？」「ゴンッ！」

律「わぎゃっ！！？」

唯・紬・梓・慎「……？」

……数分後……

律「出来た出来た」

唯「私も〜！」

紬「私も出来た〜」

梓「私も出来ました」

慎弥「俺も……」

律「……おい圭吾……」

圭吾「なんだ？」

律「お前何やってんだよ??」

圭吾「何って?てるてる坊主作って……」

律「何大量生産してんだよっ!!」「ドーン!

梓「凄い量……?」

紬「この数分でこんなに……」

唯「凄い圭吾くん!」

律「褒めてどうする?」

唯「ひいっ……!っ、っめんなちゃい…… (悲)」

紬「まあまあまあ……」

慎弥「こいつは一つの事に集中するとよくこーゆーのやらかすんだ」

圭吾「なんかやってたら楽しくなってきた……」ハハハ……

律「はあ……まあいつか……」

紬「早速取り付けましょ」

梓「そうですね」

……

唯「ふっ……終わったあ……」

紬「雨止むといいわねえ……」

律「集合時間って何時だったっけ?」

慎弥「え〜つと……ライブ出演者は5時集合って書いてあるぞ」

圭吾「今4時だから……ここを4時半に出ないとな」

律「じゃあそれまで私は寝とこ……」グテー…

唯「私も〜……」グテー…

梓「ちよつと二人とも！！緊張感なさ過ぎですよっ！！」

圭吾「梓、ここは俺が…」

梓「片山先輩！！？」

律・唯「んみゆ〜……ZZZ」

圭吾「おい」

律・唯「ZZZ」

圭吾「？」

ポカントッ！！！！

律・唯「うぎゃっ！……！？」

梓「片山先輩……？」

慎弥「やれやれ……？」

紬「あらまあ……？」

……数分後……

圭吾「いいか、さっきのは忘れてやるから俺の言っことちゃんと聞けよっ。」

律「あいつ……すみませんっ……！」（泣）

唯「ずびばせん……でじだっ……！」（泣）

紬・梓・慎「……？」

紬「……あっ、もう4時半よっ。」

圭吾「よしっ、みんな支度できたなら会場に急ぐぞ！」

……

~~~~イベント会場~~~~

圭吾「なあ律、俺らって何番目なんだ？」

律「いや役員の人が順番は当日決めるから順番はわからないんだって」

梓「あつ！あれじゃないですか！？」

唯「どれどれ？」

.....

唯「私達一番初めになってるよつ！！？」

律「えつ！？ホントかつ！！？」

梓「一番最初……」「ドキドキ

圭吾「ふ〜ん……」「ホジホジ

慎弥「なんでお前はいつもそう気楽なんだっ！それと鼻をほじるなっ！！」

紬「一番初めか……みんな頑張ろっ」「ウキウキ

慎弥「こっちはこっちでウキウキしてるし……？（悲）」

圭吾「雨も俺ん家出る時に止んでくれるし、なんか俺達ついてるな」

慎弥「どこがつー!?!?」ガビーン

役員「放課後ティータイムの皆さん!?!そろそろスタンバイお願いしま〜す!?!」

律「えっ!?!もう!?!?」

圭吾「頑張りますか……」

唯「緊張する〜……」ドキドキ

〜メインステージ〜

司会『まずトップバッターは、地元桜ヶ丘高校の軽音部、放課後ティータイムの登場です!?!はい拍手〜!?!』

観客「嘘っ!?!?あの放課後ティータイム!?!?」ザワザワ

パチパチパチ……………

律「どうも〜放課後ティータイムです!?!こんばんは〜!?!」

唯・紬・梓・圭・慎「こんばんは〜!?!」

律「私は桜ヶ丘高校の軽音部部长でドラム担当の田井中 律です  
!?!よろしく〜」

唯「ギター担当の平沢 唯です!!よろしく願いします!」

梓「同じくギター担当の中野 梓です!よろしく願いします!」

紬「キーボード担当の琴吹 紬です よろしく願いします」

圭吾「ボーカル担当の片山 圭吾です、よろしく願いします」

慎弥「ベース&amp;amp;コーラス担当の山河 慎弥です、よろしく  
お願いします」

パチパチパチ……………

司会『はいっ、ありがとうございます!それでは歌のスタンバイお  
願いします』

……………

憂「間に合ったあ〜」ハアハア…

純「ハアハア…………梓達って何番目に出るの?」ゼエゼエ…

憂「ハアハア…………わかんない…………」

圭吾「いくぜ〜!!!New world…………!!!」

ギューーン!!

ワーワー!!……………

純「この歌声…………片山先輩じゃないっ!!!?」

憂「うんっ!! てことはまさかのトップバッター!?!」

純「とにかく急ごう憂!」

憂「うんっ!!」タッ

.....

圭・慎「闇を裂いて溢れ出した」

圭吾「光り 掴み」

圭・慎「掲げろ」

圭・慎「求めていたこの瞬間」

唯・梓・慎・紬「つなげ」

圭・慎「君がくれた声を抱いて」

圭吾「高く 高く」

圭・慎「羽ばたく」

圭・慎「こぼれる未来を眩しいくらい」

圭吾「注ぐ」

圭吾「I・m a w a k e n i n g t h e n e w w o r l d  
」

唯・紬・梓・圭・慎「new world」

.....ジャラ〜ン.....

観客「圭吾さあ〜ん」「ワーワー

圭吾「皆さん良いお年を〜!〜!」

司会『放課後ティータイムの皆さんどうもありがとうございました  
〜!〜!』

パチパチパチ.....

~~~~ステージ裏~~~~

圭吾「みんなお疲れ〜!」

慎弥「客のノリは上々だったな!〜!」

律「しっかし.....後ろの照明の熱で汗が.....」

紬「確かに暑かったわねえ〜.....」

唯「私達は暑くなかったよ〜?ねえあずにゃん?」

梓「はい」

慎弥「俺ちよつとトイレ……」スッ

圭吾「慎弥、ついでにみんなの分の飲み物買って来てくれ、ほい千円」スッ

慎弥「あいよ、みんな何がいい？」

圭吾「俺コーヒー」

律「サイダー！」

唯「りんごジュース！」

紬「オレンジジュースをお願いします」

梓「私もオレンジジュースで……」

慎弥「りょーかい、ちよつと待っててくれ」

女子A「あの……片山圭吾さんですか？」

圭吾「……？はいそうですけど……何か……？」

女子A「サツ……サイン……貰えますか……？」「ドキドキ

圭吾「……はい!？」

女子A「だっ…駄目ですか？」

圭吾「別にいいけど……何でまた…?」

女子A「私……片山さんのファンなんです…//」

律「よっ!モテる男はつらいね(笑)」

圭吾「うるさい?」「ゴンッ!

律「うっお……!」「ピクピク

女子A「じゃっ……じゃあ……お願いします……」スッ

圭吾「……はい、どうぞ」「スッ

女子A「わああ……ありがとうございます……!」

圭吾「バイバイ」

唯「けっ、圭吾くん凄い有名人なんだね……!」「キラキラ

紬「凄い」

圭吾「へへ……」

律「おい圭吾……」ヒソヒソ

圭吾「ん？」

律「梓が泣きそうな顔で圭吾のこと見てるぞ……？」

梓「……」ウルウル

圭吾「ヤバ……？」

律「今の内に謝っとけて……！！」ヒソヒソ

圭吾「わっ、わかった……？」

圭吾「あっ、梓……？」

梓「……」プイッ

圭吾「……だっ、大丈夫だって！浮気なんてしないから？」アセアセ

梓「……本当ですか？」

圭吾「勿論！男に二言はないっ！」キラーン

梓「じゃあ……たい焼きを買ってくれたら……許してあげます……」

圭吾「たっ、たい焼き!？」

梓「じゃないと私……先輩のこと嫌いになりますからっ!!」

圭吾「わかったわかった!!買ってやるから機嫌直せ!」アセアセ

梓(…よしっ)

律「私にもたい焼き買って」

圭吾「オメーは黙ってるボケエ!!?」

律「何で私だけいつもこれっ!!?」ガビーン

慎弥「お待たせ」

圭吾「おお、サンキュー慎弥」

律「花火の時間まで結構あるし他のバンドでも見に行こっぜ」?

唯・唯「賛成」ハイ

慎弥「そうだな、他のバンドを見て勉強でもするか」

圭吾「あ……だりい」ヨッコイショ

圭吾「梓行くぞ」

梓「はい」

……そして時間は過ぎて午後11時59分……

司会『さあ2009年も後10秒！！皆さんカウントダウンいきま  
すよー！ー！』

律「いよいよだあー！！」

司会『5！ 4！ 3！ 2！ 1！』

司会『明けましておめでとー！！！！！！』

ヒュルルルルル……ドオン！！！！

唯「凄い凄い」

紬「ム……ジー……」

梓「ムギ先輩何してるんですか？」

紬「澪ちゃんにこの花火の写真を撮って送ろうと思って今試してる  
んだけどなかなかピントが合わなくて……」

圭吾「……」ボー……

圭吾（……俺も来年で卒業かあ……）

憂「あっ！いたいた！お姉ちゃん！梓ちゃん！」

唯「あゝ！憂々！！」ダキッ！

純「梓ここにいたんだ〜……………」ヨッコイシヨ……

梓「純達も来てたんだ」

純「梓〜？ライブ格好よかったよ〜！」

梓「あ、ありがと……………」

純「キレイな花火だね……………」

梓「うん……………」

純「……………で？片山先輩とは上手くいってんの？（笑）」

梓「うん何とか……………」

純「それでさっ！キスはしたの？（笑）」

梓「ちよっ……………純ったら……………！！……………」

純「ねーねーしたの？」

梓「……………した……………」

純「も〜梓ったら大胆……………」コノコノ……………」

梓「もう〜純ったらあ〜!!新年早々恥ずかしいこと聞かないでよ  
〜!!!!/~/」

純「ごめんごめん」

梓「ぶう〜……」ムスー

純「……あつ、花火終わったみたい」

梓（純が変なこと聞くから花火ほとんど見れなかった……）

憂「純ちゃん梓ちゃん!!そろそろ帰るよ〜!?!」

純「うんすぐ行く〜!……梓行こっ!」

梓「うん……!!」タッ

## #21 転校生!! (前書き)

この章からオリジナルキャラクターが登場します(・・)(・・)

宝井 奈々(タカライ ナナ)

6月24日生まれ

北海道出身

身長 157cm

体重 ?

バスト ?

ヒップ ?

性格 天然キャラでかなりの方向音痴。

……という設定です( ^ O ^ )  
ではお楽しみ下さい( = ・ ・ ・ ) / バイノシ。

# 2 1 転校生！！

慎弥「…眠てえ〜……………」スタスタ…

？「初日から遅刻なんて…………ヤバい〜！！」(泣)「タタタッ

慎弥「ふわあ〜……………」スタスタ

？「うわあ〜ん！！」(泣)「タタタッ

どっかあ〜ん！！！！

慎弥「ぐわっ！！？」ドタッ

？「きゃあっ！！？」ドタッ

慎弥「…ててて…………な、何だ！？」ムクッ

？「いたたあ〜……………」

慎弥「大丈夫？」

？「は、はい……………」

慎弥「手貸そうか？」スッ

？「…す、すみません……………」スッ

慎弥「よいしょつと……ごめんごめん、怪我してない？」

？「は、はい……あ、あなたは……？」

慎弥「俺は大丈夫だよ、こー見えて結構体頑丈だから！」

？「……フフツ……あつ！……いけない！！早くしないと遅刻しちゃう  
！！じゃまたっ！」タツ

慎弥「あつ、おい！……」

慎弥「……まだ予鈴まで時間あるのに……？」

……  
？「……あれ？」ポカーン

？「……時間間違えたあゝ！！」「ガーン！

……

慎弥「……てな事があつてさ……」

律「そのぶつかった娘もドジツ子だなあゝ（笑）」

圭吾「まさに唯一二号だな」

唯「がぐん！」

担任「よし席に着け〜!!今日は転校生の紹介をするぞ〜!!」ガ  
ラッ

ガヤカヤガヤ……………

担任「はい静かに〜!…じゃあ入って来なさい」

?「はい」

慎弥「…あゝっ!」

圭吾「…どうした?」

慎弥「あの娘だ…………?」

律「あの娘がどうかしたのか?」ズイツ

慎弥「あの娘が今朝言ったぶつかった娘だよ…………?」

圭吾「へ〜…………結構かわいいじゃん」

紬「なんだかロマンチック〜」キラキラ

慎弥「全然ロマンチックじゃね〜よ?」

担任「じゃあ自己紹介しなさい」

?「はい!…………えつとお〜…………北海道から転校してきました宝井  
奈々です!よろしくお願ひします!」ペコリ!

担任「はい皆拍手〜！」パチパチパチ

パチパチパチ……

担任「じゃあ宝井さんの席はあそこね」

奈々「は〜い」スッ

慎弥「……」寝たふりしてる

奈々「…あれ〜？あなたさっきの……！！」

慎弥「ふぐうつ〜！」ドキンッ！

奈々「よかったあ〜 同じクラスだったんだあ〜」

慎弥「や、やあ……？」

唯「何何〜？二人とも知り合い〜？」

律・圭「オメーは人の話聞いてなかったのかよ！」ポカッ

唯「あだあつ〜！」

紬「あらあら……？」

律「…で？奈々は前の学校では部活何やってたんだ？」

奈々「軽音部だよ〜」

律「おっ！？なら軽音部に入らないか！？私達実は軽音部なんだ」

唯「おいでおいで」

奈々「ほっ、ホントに!？」

圭吾「宝井さんは楽器何やってたんだ？」

奈々「キーボードとドラムだよ」

律「2つも出来るのか!？」

圭吾「すげーな……」

奈々「えへへ……あつ、そーいえばまだ皆の名前聞いてなかった

…」

圭吾「そうだったな、俺は片山圭吾ってんだ、よろしくな」

奈々「よろしく」

圭吾「んでこいつが軽音部部長の田井中 律」

律「よろしくな奈々!」

圭吾「頼りない部長だけどまあその内慣れるよ」

律「余計な事言うな〜!？」ウガァー

圭吾「でこいつが琴吹 紬」

紬「よろしくう」

圭吾「基本的皆こいつの事ムギって呼んでるからそいつ呼んでやってくれ」

紬「ムギって呼んでねえ」

圭吾「んでこいつが平沢 唯ってんだ」

唯「やつほ」

律「ちゃんと挨拶しろっ！」ポカン！

唯「平沢 唯と申します（痛）」

奈々「よ、よろしく……（痛そ……？）」

圭吾「……？……で最後にこいつが山河 慎弥ってんだ」

慎弥「よっ……よろしく……？」

奈々「よろしく慎弥くん」「ギョッ

慎弥「……っ！！／＼／」

先生「あなた達何してるんですか？授業始めますよ！」

……

~~~~~昼休み~~~~~

奈々「よろしく〜」

漣「よろしく!」

律「そーいや漣、修一の奴は〜?」モグモグ

漣「さつき食堂の方に行つてたけど……」

修一「ウイース」

律「おっ…噂をすれば……」

修一「…あれ?誰その娘?」

奈々「北海道から転校してきた宝井 奈々です よろしく〜」

修一「よろしく〜……てかお前らもう仲良くなってるのか」

唯「修一くん修一くん!実は奈々ちゃん向こうの学校で軽音部だったらしいよ!」

修一「へえ〜……楽器何やってたの?」

奈々「キーボードとドラムです!」ピシッ

修一「凄いな……2つも出来るのか……」

律「そこでっ!」バンッ!

漣「ひいっ!」「ビクッ

律「奈々の歓迎会をしたいと思いますっ!」「ビシッ

唯・紬「賛成」 「ハイ

圭吾「けどどこでやるんだ?」

律「部室」

慎弥「椅子足りるのか?」

律「まあ足りなかったらそこから辺から持ってきたら早い話だよ」

紬「でもお菓子が足りないから買い出しに行かないと……」

圭吾「俺もついていくよムギ」

紬「ホント!?!ありがとうございます!」

奈々「あのお……」

紬「はい?」

奈々「私もついて行っていい?まだこの街のことよくわからないからこの際にでも少しは店を覚えとこ〜と思って……」

圭吾「ああ、いいぞ」

紬「行きましょ行きましょ」

奈々「ありがとう!」

梓「片山せんぱい」ヒョコッ

律「あつ、梓だ」

圭吾「梓、今日ウチの学校に転校してきた宝井 奈々ちゃんだ」

奈々「うによっす!」ビシッ

梓「うっ、……うによっす??」

唯「あずにゃくん」ダキッ

梓「にゃあっ!」

奈々「にゃあ?」

律「あ……気にしないで奈々?」

唯「あずにゃくん」スリスリ

梓「ゆっ、唯先輩止めてくださいっ!」

唯「ええ?」ブー

漣「まあ……いつもこんな感じだけどすぐ慣れるよ……」ニッコ

奈々「うん……」

奈々（…楽しくなりそうだなあ…！）ワクワク

~~~~放課後~~~~

紬「じゃあ私達買い出しに行つて来るから先行つてて」

漣「ああ、頼んだよ」

律「一杯買つて来てくれよ〜！」

唯「私も行きたいなあ〜……」

圭吾「お前は足手まといになるから来んな」

唯「ひつどーい！（泣）」「ガーン！」

慎弥「俺先に部室行つてるわ〜……」スタスタ……

律「今日はいいつ元気ないなあ〜……」

圭吾「どうか体の調子でも悪いんじゃないか……？」

奈々「ね〜ね〜早く行こうよ〜！」「ブーブー

圭吾「わかつたわかつた！……じゃ行つて来るわ」

唯「行ってらっしゅい！」

.....

律「…そーいや漣、修一は？」

漣「……？」

~~~~男子トイレ~~~~

修一「…いててて……昨日の牛乳が当たったか……」

.....

~~~~スーパー~~~~

紬「これくらいでいいかしら？」

圭吾「ああ、そんなモンだな」

紬「じゃあお会計済ませてくるから……」

圭吾「ああ」

圭吾「……そーいや奈々の奴は何処に行ったんだ？」キョロキョロ

奈々「…ここだよ……」ヌツ

圭吾「おわっ！…？」ドキンッ！

奈々「へへへ……びっくりした？（笑）」

圭吾「…いつからそこにいた……」

奈々「ずっとさっきからここにいたよ？」

圭吾「…全然気付かなかった……」

奈々「名付けて！！忍法……えっと……」

圭吾「決めてないなら言うな？」ゴロンッ

奈々「あたっー！！」

紬「お待たせ」

奈々「うう……（泣）」

紬「…どうしたの??」

……  
紬「へえ〜……奈々ちゃんそんな事が出来るんだ〜……」

奈々「凄いでしょ〜」

圭吾「どこがだよ?」

奈々「…ね〜ね〜圭吾くん」

圭吾「ん？」

奈々「慎弥くんてさっ……彼女いるの？」

圭吾「いないけど……どうして？」

奈々「ううんっ！ー！聞いただけ！ー！」

圭吾「？」

紬「……！ー！」キラーン！

~~~~~ 部室 ~~~~~

律「オホンッ……え……では……！……軽音部部长！田井中 律が一言……！ー！」

圭吾「頂きまゝす」 無視

律「だから何でいつも無視すんだよ……！……？（泣）」

梓「片山先輩……？」

奈々「フフッ！ー！」クスッ

慎弥「……」

紬「沢山買ってきたからどんどん食べてね」

ワイワイ……………

奈々「そーいや皆の楽器は何なの？」

律「私はドラムだ！」

修一「俺も」

奈々「2人もドラムがいるんだ……………」

漣「まあ、実力は修一の方が上だけどな」

律「今のは痛いところを突かれた……………（泣）」

紬「まあまあ……………」

奈々「じゃあさーキーボードは誰なの!？」

紬「私です」ハイ

奈々「ムギちゃんキーボードだったんだ」

紬「一緒に頑張りましょ」

奈々「うん」

律「……………なんか奈々の奴……………ムギと仲がいいな……………」

漣「そうだな」

奈々「澪ちゃんは楽器何なの？」ズイツ

澪「ひっ！？」ビクッ

奈々「ね〜ね〜澪ちゃん」

澪「わ、私はベース担当だよ！！」

奈々「へえ〜…私ギターかと思った〜…」

澪「ギターは……かなり目立つし……バンドの中心的存在って感じだし……自分がもしその立場だと想像したら……！！」

澪「……！！」ボンツ！

唯「澪ちゃんっ！」

紬「しっかりして澪ちゃんっ！」

梓「澪先輩っ！」

奈々「……あの？」

律「まあこーゆー性格だから気にしないで？」

奈々「う、うん……？」

律「ああそれと、慎弥もベース担当だから」

奈々「そうなの!？」

慎弥「…一応…」

圭吾「奈々、俺と唯と梓はギターしてるからよろしく」

奈々「3人も!？」

圭吾「と言つても普段はこいつら5人と俺ら男3人で別れてんだよ」

奈々「へえ…」

圭吾「こいつら5人の方は放課後ティータイムってバンド名だけど野郎3人の方は無名なんだよな未だに……?」ハハハ…

奈々「考えたりしないの?」

圭吾「なんか面倒くさくて……?」

律「全く…早くバンド名くらい決めるよな」

圭吾「うっせーデコッ!？」

律「デッ、デコッ!？」ガビーン

……しばらくして……

律「じゃあそろそろお開きにして帰るか」

漣「帰ったら曲作ないと…」

圭吾「……外は寒そうだなあ……」

奈々「嘘？全然じゃん！」

圭吾「何……？？」

梓「さすが極寒育ち……？」

唯「あ、ずにゃん 一緒に帰ろっ」

梓「あつ、すみません唯先輩！今日は寄る所があるので……」

唯「え……！？」ブーブー

漣「ワガママ言わないの！帰るよ唯」

唯「むっ……」

律「ムギ……！行くぞー！」

紬「うっん！ちょっと待ってて……！」

圭吾「俺らも帰るか」

慎弥「今日は何かいつもの2倍疲れた……？」

修一「なんで……？」

奈々(……この人達となら上手くやっていけそうかな……)

.....

奈々「一人で帰るのがこんなに寂しいとは……」「ト」ト」ト」

どんっ！

奈々「きゃあっ！」「ドタッ

DON1「おいおいね〜ちゃん！何ぶつかってんだよ！」

奈々「ごっ、ごめんなさい……！！」

DON2「……よく見りゃ結構かわい〜じゃん！ねえ俺らと一緒に力  
ヲオケでも行かない？」

奈々「えっ……その……結構ですっ！……」「スッ

DON1「まあ待てよ！そう急がないでさっ！」「ガシッ

奈々「うっ……！！」

.....

梓「買うもの買ったし……早く帰ろ……ん？」

奈々「はっ、放して下さいっ……！！」

梓「……奈々先輩っ！！」ダッ

DQN2「な〜いいだろ〜？」

奈々「嫌ですっ！！……」

梓「奈々先輩っ！」

奈々「……！！あなたは確か……あずにゃん！！」

梓「梓です？」

梓「……それはともかく……すみませんが何があったかは知りませんがナンパは止めて下さいっ！！それじゃ失礼しますっ！」

奈々「梓ちゃん……」

梓「行きましょ……奈々先輩……」

奈々「う、うん……」

DQN2「誰が帰っていいつつたんだよ！」

DQN1「俺らをナメてんのかっ！？」

奈々「たっ、大変だよ梓ちゃん！（泣）この人達を完全に怒らせちゃった〜！（泣）」

梓「……っ!!」

修一「…お前ら今日おごった分明日絶対返せよ??」

圭吾「いやゝあのスペシャルバーガー旨かったなゝ……」ゲプッ

慎弥「んだ」ゲプッ

修一「…お前ら返す気無いだろ??」

圭吾「……ん?あれ梓と奈々じゃないか?」

修一「…本当だ……」

圭吾「……何かちょっと揉めてるみたいだな……」

修一「…俺は揉め事はパスだからな!」

慎弥「……俺ちよつと行って来る…!」スタスタ

圭吾「おっ、おい待て!」

修一「…慎弥の奴どうしたんだ?」

圭吾「あのバカ…!!先に状況を見るよ……!!」

DQN1「さあ俺らに付き合って貰うぜー!」

DQN2「オラ立てよっ!」

奈々「うづう…!」ガタガタ

梓「……っ!!」ブルブル

慎弥「おいそこのヤンキー!」

DQN1「あゝ??」ギロツ

DQN2「なんだお前?」ギロツ

慎弥「梓!宝井!大丈夫か!」

梓「山河先生なんでここに…?」

奈々「慎弥くん!」(泣)

DQN1「ガキはすっこんでろっ!」シユッ

慎弥「うがあっ…!」

梓「山河先輩っ!」

奈々「慎弥くんっ!」

圭吾「……あのバカ……？」ハア……

修一「おい早く助けに行つてやんね」と!!」

圭吾「わかつたよ……!全く……ギターとカバン頼むわ……」スッ

DQN2「口程にもねくなこいつ」

DQN1「ああ」

梓「……っ!!」ギリッ

奈々「ひっ、酷いよ……!」オロオロ

DQN1「……さあて……」スッ

ガシッ!

DQN1「ん？」

慎弥「待てよ……まだ勝負は……!」

DQN2「しっけーなこいつ……!」

DQN1「……ハア……お前さ……いい加減くたばれよ……!!」グッ

慎弥「……くっ!!」

圭吾「お前がくたばれ」ドカッ！

ガッシャーン！！

DQN1「…！！？」ピクピク

慎弥「…！？」

DQN2「なっ、なんだお前！！？」

圭吾「俺？こいつらのツレ……っしかし今のヤロー飛び蹴り一発でノビるとは……？」

梓「片山先輩……なんでここに……！！？」

圭吾「なんでって……そりゃ……」

DQN2「このガキヤー！！」「ダッ

圭吾「…まあ話はいつらを先に片付けてからだ……！」スッ

DQN2「死ねやー！！」「ブンッ

奈々「危ないっ！！」

圭吾「…」「ガシッ

DQN2「…っへっっ？」

圭吾「こんな危なっかしいもん持ち出すんじゃないよ……！」ギロツ

DQN2「うっ……!!」

圭吾「…あそこにノビてるのを連れてけ……見逃してやる……それでも殺るってんなら……容赦しないぜ？」ギロツ

DQN2「……は、はい……」「カランカラン……」

圭吾「わかつたらサツサと行けっ！」

DQN2「すっ、すみませんでしたっ!!」

……

圭吾「…あゝ疲れた〜」「コキコキ

梓・奈々「…」「ポカーン

圭吾「おいお前ら大丈夫か〜?」

奈々「うっ……うわあ〜〜〜っ!!!!」(号泣)

梓「奈々先輩っ!!?」「ビクンツ!

圭吾「…みつ、耳が……?」

……数分後……

奈々「……」「ヒック…ヒック…」

梓「落ち着きましたか？ 奈々先輩？」

主吾「サイレンみたいな泣き声だな……？」

慎弥「……うっ……」

主吾「おっ…… やつと起きたか…… 面倒かけやがって…… 立てるか？」  
「スッ」

慎弥「…… ああ……」  
「グッ……」

主吾「…… ったく…… 喧嘩した事ね…… のに勢いだけで行くな」  
「ヨイシヨッ」

慎弥「…… ごめん……」

奈々「…… 慎弥くん…… ごめんなさい…… 私のせい……」  
「グスッ……」

慎弥「…… 謝ることないよ…… 俺が勝手にした事だし……」

梓「…… 山河先輩……」

やれやれ……  
主吾「フウッ……」

主吾「…… しかし梓、あのヤンキー共によく立ち向かったな」

梓「あの時は……なんていうか……奈々先輩を守ろうと無我夢中だったというか……」

圭吾「成長したな、偉いぜ梓」ナデナデ

梓「むう……／＼／」

奈々「梓ちゃん……！！」ダキッ

梓「に、やあっ！！？」

奈々「あの時はありがと……！！」スリスリ

梓「ちよっ……！！奈々先輩！！？」アセアセ

圭吾「……奈々……？唯と性格が被り過ぎだぜ……」

慎弥「……」

修一「……おゝい……」コソコソ

圭吾「……ん？修一お前今まで何処に……！！」

修一「隠れてたんだよバカ……！！」

圭吾「わ、悪かったよ？」

修一「……って慎弥！！勢いで行ったのはいいけど結局やられたのかよっ！？」

慎弥「……うっせーな……俺喧嘩は苦手なんだよ……？」

奈々「……そっだっ」タッ

梓「奈々先輩？」

圭吾「ん？」

奈々「慎弥くん」

慎弥「……なんだ？礼なら圭吾に……」

奈々「一番最初に助けに来てくれてありがとう」チュッ！

修一「……んな……！！！！」

梓「奈々先輩！！？！！」カァー……

圭吾「おっ……？」

慎弥「……！！！！！！」ボンッ！

圭吾「あ……鼻血出してまた気絶した……」

奈々「慎弥くん!？」

梓「でも……山河先輩の顔凄く幸せそうですね……」

修一「……不意討ちのキス……! / / /」

圭吾「よかったな慎弥」

梓「……でも……山河先輩のこと……どうするんですか??……」

……

その後、慎弥は奈々にキスをされた時の事は覚えて無いと言っ……

……

## #22 奈々の秘密

律「な〜奈々？」

奈々「何〜りっちゃん？」

律「前から聞きたかったんだけど……奈々の家ってどこ？」

奈々「……へっ??」「キョトンッ

漣「こらっ！律っ!!！」

律「ま〜いいからいいから……な〜どこだよ〜！」

奈々「……ごっ、ごめんあたしもう帰る!!！」ガタンッ!

律「おっ、おい!？」

奈々「サツ、サイナラ〜!!！」タッ!

漣「おい練習は!？」

奈々「また明日〜!!！」ガチャン!

唯「行っちゃった……」

梓「なんか……物凄く慌ててませんでしたか??！」

紬「慌てた奈々ちゃん表情……可愛かったわあ……!!」キラ  
キラ

梓「あのですね……?」

律「……よしっ!!今日は練習を止めて奈々の家まで尾行だー!!」

唯「おー!」

漣「ちよつと待て!!新歓まで時間がないのに……!!」

律「行くぞー!」

唯「らじゃー!!りっちゃん隊員!!」

漣「人の話を聞けえ!!!」

梓「もう言っても無駄だと思いますよ……?」

漣「こいつらは……全く……?」ハア……

紬「2人とも早く行きましょ!」キラーン!

漣「お前も行く気満々かつ!!!」ガビーン!

……数分後……

圭吾「あゝ……掃除疲れた……」スタスタ

慎弥「圭吾、新歡の曲はどうすんだ？」スタスタ

圭吾「ん〜……お前に任す……」スタスタ

修一「お〜し！！今日もドラム頑張るか〜！！」スタスタ

圭吾「……やけにはりきってんな……お前……」スタスタ

修一「ああ！！もうすぐ新歡だしな！！」スタスタ

慎弥「…無駄にテンション高いな？……」スタスタ

ガチャ……

圭吾「う〜す……」

慎弥「……あれ？誰もいね〜な……？」

修一「今日休み？」

圭吾「んなわけね〜だろ……どこ行ったんだあいつら……」

慎弥「……どうする？」

圭吾「まあ戻って来るまで気長に待とうぜ？」

修一「でもムギがないからお茶とお菓子が……」

圭吾「寝とけ寝とけ……ふわあ〜……おやすみ〜……」 Z Z Z ……

慎弥「……寝た? ……」

修一「暇だな〜……」

慎弥「……ベースの手入れでもしとこ……」 スッ

修一「……俺も自分のドラムセットでも掃除しとこ……」 スッ

……

ガチャ……

純「あ〜……」

慎弥「はい?」

純「あれ? 溲先輩達は……?」

慎弥「あいつらなら練習すっぱかしてどこかに行っていないよ?」

純「あちゃ……参ったな〜……」

慎弥「どうかしたの?」

純「梓にシャーペンを借りてて返すの忘れてたんで返しに来たんですけど……居ないんじゃないですかね……」

慎弥「それなら圭吾に預けときなよ、一応あいつ梓の彼氏だし」

純「えっ？いいんですか？」

圭吾「……ふわぁ〜……俺が渡しとくよ……」「ボヘー……」

純「すみません……じゃぁお願いします」

ボタン……

圭吾「……しっかし……あいつらどこに行ったんだ？」

慎弥「電話してみたら？」

圭吾「ああ……」

……一方、律達は……

律「あれえ〜？見失ったぞ？」

唯「……「どこどこ」？」

漣「結構遠くまで来てしまったな……」

紬「そうねえ〜……」

梓「……もう諦めて帰りませんか？」

律「ここまで来たんだ！！諦めてたまるか〜！！」「ウガー！！」

梓「……？」

奈々「…皆何してるの？……こんなところで……」ヌッ

漣「ひえっ！！？」「ビクッ！

律「げっ！！？奈々！」「ドキンッ！

奈々「…まさか……あたしの跡をつけてきたんじゃ……」

唯「まつ、まさか！私達実は道に迷って……！」「アセアセ

紬「そっ、そうなの～！！？」「アセアセ

梓「そっ、そうなんです！！？」「アセアセ

奈々「…ハア…皆嘘をついてるのが見え見え……」ハア…

律・唯・紬・梓「なんですとっ！！？」「ガビーン！

奈々「しょうがないなあ……わかったよ、今回だからね？」

律「サンキュー奈々」

奈々「…ところで漣ちゃんはなんで固まったままなの？」

律「…漣のやつ……立ったまま気絶してる……？」

……

圭吾「…あれ？出ねえな……」

慎弥「もうほっとけ、その内帰ってくるだろ」

修一「……！」ダカダカダカダンッ！

慎弥「…修一の奴スゲー張り切って練習してるな……？」

圭吾「……ギター何買おっかな」…「ピラ…」

慎弥「どうせまたフェルナンデスだろ圭吾？」

圭吾「うっせーなー……フェルナンデスLoveなんだよ俺は……」  
ピラ…

慎弥「なんだよフェルナンデスLoveって……？」

圭吾「……あつ、そうだ……ホレ慎弥、言われてた曲パソコンで  
作って来たぜ？」スッ…

慎弥「おっ、もう出来たのか？」

圭吾「この曲はお前の為に作ってやったと言っていくらいだぜ？」

慎弥「…と言うと？」

圭吾「今回はベースライン重視にしたからこの曲が出来るようにな  
ったらお前絶対女子からモテるぞ？」（笑）

慎弥「マジですか」

圭吾「んでこれが楽譜」スツ

慎弥「どれどれ〜？」スツ

慎弥「……」ジーツ……

慎弥「……あの……圭吾？……何これ？（汗）」

圭吾「何って……楽譜じゃん？」

慎弥「んな事分かってらあ！！（怒）何だよこれ！！？難し過ぎだろ！！？」

圭吾「大丈夫だって、お前なら出来るって！」

慎弥「2ヶ月は掛かるぞ完璧に弾きこなすには！！！」

圭吾「何とかなるって！」

慎弥「てめえ……他人事と思って……！！？」

圭吾「修一なんて1週間で完璧にマスターしたぜ？」

修一「マスターしました〜」イエーイ

慎弥「黙らんかお前は!!!？」

圭吾「ぎゃーぎゃーうつせーなー……わかったよ、もう少し簡単にしてくるから文句言つna……」

慎弥「いや、俺も伊達に4〜5年ベースをやつて来たわけじゃねえ……ベテランの意地を見せてやる……!!!」メラメラ……!!!

圭吾「……まあ？……頑張れよ……？（コロコロ変わる奴だな）」

修一「圭吾、新歓の曲順はまだ決まってるのか？」

圭吾「さあ？まだ聞いてないぞ？」

和「こんにちは……」ガチャ……

圭吾「おっ、和」

和「あれ？……皆は？」

慎弥「それが……？」

……

和「全く……しょうがないわね？……」ハア……

慎弥「申し訳ない？」

圭吾「…で？何の用？」

和「律にライブの曲順表を渡したんだけど……」

圭吾「…？」

和「まさか……聞いてなかったの??」

慎弥「ホントに申し訳ない？」

和「メ切りは明日よ?」

圭吾「今律に電話すつからちょっと待ってて」「ピッ

……

ヴー、ヴー……

律「…げっ！圭吾だ……（汗）」

漣「圭吾の事だから……多分……?」

梓「100%怒られますね?」

唯「ガンバレりっちゃん!!」

紬「頑張れ」

律「お前ら〜!!（泣）他人事だと思つて〜!!」

奈々「……ねえ、圭吾くんつてそんなに恐いの？」

漣「恐いだけじゃない!!あいつは鬼だ!!」ガタガタ…

奈々「鬼……？何それ……？」

律「直に圭吾の恐ろしさを思い知る事になるよ……？」ブルブル…

ピッ

律「もっ、もしもし……」ガタガタ…

圭吾『おい律、お前新歓ライブの曲順表まだ生徒会に出してなかったのか？』

律（げっ……忘れてた……？）

律「じっ、実はまだ書いてない……？」

圭吾『ハア……×切り明日らしいから今日五時にいつものファミレ

スに集合な』

律「わっ、わかった…」

ピッ

律「ふい〜……恐え〜……！」

唯「どっ、どうだった？」

律「五時にいつものファミレスに集合だってさ…」

漣「まっ、まさか説教！？」ガタガタ…

律「いや、多分それは無いと思うけどな〜…」

奈々「……そんなに恐くなさそうだけど……？」

梓「油断しない方がいいですよ奈々先輩？」

〜〜〜奈々宅〜〜〜

律「へ〜……でっけえマンションだなあ〜……」

奈々「あまり騒いじゃダメだよ!？」ガチャ…

律・唯・漣・紬・梓「お邪魔します」

奈々「お兄ちゃん?いるの?」

?「…なんだ奈々?今日テレビの収録があるからそれまで寝かせといてくれって言ったのに…ってあれ?友達か奈々?」ガチャ…

奈々「うん!」

律「奈々のお兄さん?」

奈々「一応ね?」

?「おいおい?何が一応だよ?」

漣「……!!私この人知ってる!!…確か……!!!!」

奈々「わあああ〜!!!!」ガシツ!!

漣「ふぐうつ!!!!?」ジタバタ

梓「どっ、どうしたんですか奈々先輩!!?」

奈々「なっ、何でもない!!!!」 超必死

漣「@&amp; ;\$%!#¥\*+ #~!!」ジタバタ

律「奈々〜？そろそろ放してやらないと漣が……？」

唯「漣ちゃん白目むいてる」

梓「何のんきなこと言ってるんですか？」

奈々「私の実の兄で……哲哉お兄ちゃ……わっ！！？ちよっ、お兄ちゃん！！？」「グイッ

哲哉「ども、奈々の兄で宝井 哲哉と申します、いつも妹が世話かけてます」「ペコッ

律・唯・漣・紬・梓「あっ、いえこちらこそ……」「ペコッ

奈々「お兄ちゃん！いきなり何すんの？」「ブーッ

哲哉「初対面の人にはまず挨拶だろ？」

奈々「だからって……」

哲哉「まあなんだ、折角来てくれたんだ！！皆飯食ってくか？」

律「えっ！？いいんですか」

漣「こらっ！…！少しは遠慮しろっ！…！」

唯「わ〜い」

紬「楽しみ〜」

漣「聞いてない…（泣）」

梓「まあ…ここはお言葉に甘えてご馳走になりましょう？漣先輩？」

漣「うん…」

梓「…あつ、でも片山先輩達とファミレスで待ち合わせの約束が…」

律「…忘れてた…」

唯「…圭吾くんに怒られるよ…」ガタガタ…

哲哉「…誰？その圭吾って子…」

奈々「同じ軽音部の人だよ」

哲哉「何ならその子達も呼んであげなよ」

奈々「えっ、でもお兄ちゃん…！…」

哲哉「いいからいいから！！早く呼んであげなよ…！」

奈々「う、うん……」

……桜高……

圭吾「ふわあ〜……そろそろ行くかあ〜……！」ムクッ

修一「何食おっかなあ〜……」

慎弥「……！」ボン…ボン…

圭吾「慎弥〜？いつまでやってんだあ〜？行くぞ〜？」

慎弥「ちょい待ち……あともうちよい……！」ボン…ボン…

圭吾「は〜や〜く〜！」「ダンダンッ！

慎弥「……だあーっ！……！圭吾が喋りかけるから間違っただじゃね〜か〜！……！」

圭吾「あのな〜……？」

修一「慎弥の奴……いつも以上に荒れてるな……？」

圭吾「これ以上触れるのは止めておじつ……?」

ヴー、ヴー、ヴー……

圭吾「……!」「ゴソゴソ……」

圭吾「……奈々が……珍しいな……」「ピッ

圭吾「もしもし?どうした?」

奈々『もしもし圭吾くん? 集合場所ファミレスじゃなくてあたしの家に……』

圭吾「別にいいけど……お前ん家どこ??」

奈々『……はっ!!--そうだった……!!--』ガビーン!

圭吾「おいおい?……住所はどこだ?」「フウ……」

奈々『えつとあゝ……』

圭吾「……そこ俺の近所じゃんか!!--お前あのでっけえマンションに住んでたのか?……すげえな?……」

奈々『そつ、そんな事……／＼／＼』

圭吾「じゃ今から行くわ！！またあとでな！！」

奈々『あつー！ちよつ……』ブツンッ！

圭吾「よし！行くぞおめーら！！」

修一「腹減った……飯食わせるコノヤロバカやろー！！」

圭吾「こいつまで壊れやがった……？……早く行くぞ！！」

慎弥「くそ……上手く弾けねえ……」

圭吾「あんま無理すんなよ？」

慎弥「ああ……」クタクタ……

ガチャ……

……奈々宅……

奈々「3人とも来るつてー！」

律「……今回圭吾の奴……あんまり怒らないな……」

漣「余計怖い……」

梓「…奈々先輩のご両親は何をされてるんですか？」

奈々「あたしのお父さんとお母さんは北海道で漁をしてるんだ」

律「へ〜…って奈々1人でこっちに来たのか!？」

奈々「…うん…」

漣「何でまた…」

奈々「…」

哲哉「…」

紬「…何か理由でもありそうね…」

唯「奈々ちゃん…」

ピンポン

奈々「…あつ!圭吾くん達かな!?!ちょっと見てくるよ!」タッ

律「…奈々…」

奈々「いらっしや〜い さああがってあがって」ガチャ…

圭・慎・修「お邪魔します」

圭吾「……広い部屋だな……」スタスタ

慎弥「でっけえ……」スタスタ

奈々「そつ、そんな事ないよ（汗）」タジタジ

修一「あつ、律達だ」スタスタ

圭吾「律？早いとこ曲順決めよう……つてあれ？この人は……？」

哲哉「こんにちは片山くん、いつも妹が迷惑かけてるよ」

圭吾「は、はあ……どうも……ん？この人どこかで見た気が……  
……あゝ！！この人あのジキルのベーストtetsuyaさん  
じゃね〜か！！？」

奈々「ばっ、バレた……（泣）」

律・紬・梓・慎・修「ええ〜っ！！！！？」

哲哉「はははは……？……ばれちゃった……？……僕がジキルでベ  
ースを担当してるtetsuyaだよ」

唯「ね〜ね〜、ジキルって？」

梓「知らないんですか唯先輩！！？ジキルっていうのは今人気急上  
昇中のロックバンドですよ！！？」

唯「ふえ〜……すごい……」

慎弥「……あ……あの……！！！」ガタガタ

哲哉「何？」ニッコツ

慎弥「……サ……ササササ……！！」ガタガタ

哲哉「……??」ハハハ……

圭吾「すみません……？こいつジキルの大ファンなんですよ……それも哲哉さんの……？」

哲哉「ホント……！？ありがとうね……！！……えっと……君名前は？」

慎弥「……やつ、山河慎弥ですっ……！！ベースをやってますっ……！！」

哲哉「おっ、この子が慎弥くんか！いつも奈々が君の事を楽しそうに話してるよー！」

奈々「ちよっ……！！……お兄ちゃん……！！……カァー……

慎弥「……！！……カァー……

圭吾「……顔赤くなってんぞバカ……」コツンツ

慎弥「イテッ……！」

奈々「… / / /」カァー…

哲哉「…君らも晩飯食ってくか？」

圭吾「…えっ、いいんすか？」

哲哉「皆待っててくれ、今支度するから…！」

………

律「旨かった〜…！」

唯「こんなおいしいごはんを毎日食べれるなんて……奈々ちゃんは  
幸せ者だねえ〜……」

奈々「そっ、そんな事…… / / /」

哲哉「旨かったか？」

漣「はい！」

圭吾「…あのさあ〜奈々、前から言おうと思ってたんだけど……  
何でこんな時期に転校して来たんだ？」

奈々「……それは……」

哲哉「……話してあげなよ……奈々……」

奈々「……わかった……」

奈々「……実はあたしがこんな時期に転校して来た理由は……  
……実は……イジメにあつて……」

律・唯・澪・紬・梓・慎・修「……えっ……」

圭吾「……」

奈々「……一学期まではイジメなんてなかったんだけど……お兄  
ちゃんのバンドが夏フェスで本格的にメジャーデビューしてテレビ  
とかに出演しだした途端……一学期が始まったらクラスの皆から無  
視されはじめて……うっ……！！」ポロポロ

哲哉「……」

圭吾「……もういいよ奈々……事情はわかった……」

律「……しかし……そのクラスの皆も何でまたそんな事を……」

唯「酷いよ……」

澪「奈々……」

紬「……イジメの原因は奈々ちゃんのお兄さんが有名人になつたか  
ら……？」

奈々「……わからないけど……多分……」グスッ

梓「……酷い……」

修一「……」

慎弥「……大丈夫だ……奈々……」

奈々「……え……？」グスンッ

慎弥「……もし奈々をイジめる奴がいたら……俺がぶつつぶしてやる……！」

奈々「……慎弥くん……」グスンッ

圭吾「……言っねえ、慎弥……」クスッ

慎弥「……調子に乗ってしまった……！」プシュー……

唯「大変だよ！！慎弥の頭から湯気が……！」

律「ムギ！！水だ！水を持ってこい！」アセアセ

紬「らっ、らじゃー！！」アセアセ

澪「お前ら少しは落ち着け……！」

れせーれせー……！！

哲哉「……いい仲間に出会ったな……奈々……」ポソッ……

奈々「……うん！」ニコッ

圭吾「冷てえっ！！なにしゃがんだ唯っ！！」

唯「ごっ、ごめんなさい圭吾くん！！」（泣）

梓「もう何やってるんですか！！皆さん少しは落ち着いて下さいよっ！？」

哲哉「……少し……騒がしいけど……？」ハハハ……

奈々（……残り少ない高校生活だけ……悔いのない高校生活を送れそうだな……！）

……一方、音楽室……

さわ子「みんな〜！！ライブの新しい衣装作ってたわよ〜！！」ガチャ！

……  
さわ子「……誰もいない……」ポソッ……

さわ子「……帰る……」ガチャン！

〜 F i n i s h ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0845k/>

---

けいおん!パート2

2010年10月9日01時24分発行